

平成22年度
広島県立美術館年報



目 次

I. 沿革	2
II. 展覧会	
展覧会一覧	4
特別展	
1. オルセー美術館展 パリのアール・ヌーヴォー	5
2. 広島から広島 ドームが見つめ続けた街展	8
3. 愛のヴィクトリアン・ジュエリー展	11
4. ポーランドの至宝 ーレンブラントと珠玉の王室コレクションー	14
5. 第57回日本伝統工芸展広島展	17
6. 「日本画」の前衛 1938-1949	20
所蔵作品展	23
III. 普及活動	
1. ネットワーク美術館展 「広島県立美術館所蔵名品選 - 動物大集合」	40
2. 第62回広島県美術展	41
3. 博物館実習	42
4. 学校との連携事業 「美術作品鑑賞教室」	43
5. 新規作成ワークシート・リスト	48
6. 学校等による利用状況	49
7. 事業実施状況	50
8. 県民ギャラリー利用状況	55
9. 友の会事業報告	58
IV. 入館者数一覧	60
V. 美術品等収集状況	62
VI. 美術品等の貸出し	64
VII. 関係法規	66
VIII. 名簿	74

I 沿革

昭和31年	美術館建設の募金運動はじまる				広島県条例第9号)入館料
昭和38年4月	調査費計上	昭和52年2月			広島県美術展開催運営規則施行(昭和52年
昭和39年4月	設計委託料計上				広島県教育委員会規則第2号)
10月	建設促進委員会開催	昭和53年10月			開館10周年記念展開催
昭和40年4月	整地費など計上	昭和54年3月			開館10周年記念「広島県立美術館所蔵作品
昭和41年5月	文部省社会教育施設整備費補助金の交付内定				集」発刊
12月	建設募金委員会発足	12月			収蔵庫拡張工事着工
昭和42年1月	起工式挙行	昭和55年2月			収蔵庫拡張工事完了
昭和43年3月	旧館竣工	4月			定宗一宏館長(非常勤)任命
4月	広島県立美術館条例施行(昭和43年 広島				広島県立美術館条例一部改正(昭和55年
	県条例第20号)				広島県条例第19号)施設使用料
	広島県立美術館管理運営規則施行(昭和43	10月			広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭
	年 広島県教育委員会規則第1号)				和55年 広島県教育委員会規則第10号)
	加藤豊館長(常勤)任命	昭和56年4月			広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭
6月	広島県立美術館協議会条例施行(昭和43年				和56年 広島県教育委員会規則第5号)課
	広島県条例第38号)				の名称変更・入館料の免除
7月	広島県立美術館協力会結成				広島県立美術館美術品等取得基金条例施行
9月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭	10月			(昭和56年 広島県条例第5号 基金額1億円)
	和43年 広島県教育委員会規則第13号)分				広島県美術品等取得基金運用規定制定
	掌事務				美術品等収集委員会設置要領制定
21日	落成式挙行	昭和57年3月			定宗館長辞職
22日	旧館開館	4月			広島県立美術館条例一部改正(昭和57年
10月	広島県立美術館美術品収集要領制定				広島県条例第10号)入館料・施設使用料
12月	広島県立美術館展示施設運営要領制定				阿川静明館長(非常勤)任命
昭和44年4月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭	9月			縮景園窓口入園窓口を設置
	和44年 広島県教育委員会規則第2号)職	昭和60年3月			阿川館長辞職
	員の職・職員の職務	4月			赤木博典館長(常勤)任命
	館蔵品常設展開設	昭和61年10月			事務局職員による県立美術館整備計画検討
昭和46年4月	宮地貫一館長事務取扱任命				会議を設置
昭和47年1月	広島県立美術館友の会発足	昭和62年2月			渋谷文庫開設
5月	浜本正弘館長事務取扱任命	3月			県立美術館整備計画検討会議, 整備構想案
6月	佐々木司郎館長事務取扱任命				をまとめる
8月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭	4月			赤木館長辞職
	和47年 広島県教育委員会規則第11号)職	11月			吉岡典威館長(兼務)任命
	員の職				県教育委員会, 広島県立美術館整備構想検
	羽白幸雄館長(非常勤)任命				討委員会を設置, 委員8名を委嘱
11月	開館5周年記念「広島県立美術館所蔵作品	昭和63年4月			菅川健二館長(兼務)任命
	集」発刊				広島県立美術館条例一部改正(昭和63年
昭和48年6月	広島県立美術館条例一部改正(昭和48年				広島県条例第7号)入館料・施設使用料
	広島県条例第30号)				広島県立美術館美術品等取得基金, 1億円
	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭	11月			を増額(基金額2億円)
	和48年 広島県教育委員会規則第14号)補				広島県立美術館整備構想検討委員会, 整備
	助職員の職及び職務				構想をまとめ県教育委員会に答申
10月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭	平成元年3月			さところ文庫開設
	和48年 広島県教育委員会規則第19号)職	5月			広島県立美術館整備基金計画検討委員会を
	員の職等				設置, 委員18名を委嘱(座長 橋口収県商
昭和49年3月	広島県立美術館管理運営規則一部改正(昭				工会議所連合会会長)
	和49年 広島県教育委員会規則第4号)そ	7月			広島県立美術館美術品等収集評価委員会を
	の他の職員の職				設置, 委員6名を委嘱
昭和50年4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和50年	平成2年4月			広島県立美術館美術品など取得基金, 5億
	広島県条例第25号)施設使用料				円を増額(基金額7億円)
昭和51年4月	広島県立美術館条例一部改正(昭和51年	12月			知事, 県議会本会議において「新美術館は

	隣接する縮景園の景観を損なうことなく、 両施設の一体化を図った文化ゾーンの一環 として一体的に整備する必要がある」と答弁 知事、県議会本会議において「基金設計に 着手する」ことを提案		広島県立美術館管理運営規則一部改正（平 成10年 広島県教育委員会規則第4号）
平成3年2月		7月1日	辰野裕一館長（兼務）就任
	3月	平成12年2月1日	広島県立美術館美術品等収集評価委員会設 置要領一部改正
	4月	平成13年3月26日	広島県博物館協議会条例施行（平成13年 広島県条例第3号）広島県美術館協議会条 例廃止
平成4年7月	広島県立美術館整備基本計画をまとめる 美術品等特別収集に着手 広島県立美術館美術品等取得基金、3億円 を増額（基金額10億円）	29日	広島県立美術館管理運営規則一部改正（平 成12年 広島県教育委員会規則第5号） 入館料等の減免
9月	施設利用業務休止。館蔵品常設展示室休室 閉館記念式典挙行	7月10日	常盤豊館長（兼務）就任
10月	事務所を広島市西区観音新町四丁目9-43 に移転、仮事務所とする 旧県立図書館及び旧県立美術館の解体工事 に着手 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円 を増額（基金額20億円）	10月22日	広島県立美術館管理運営規則一部改正（平 成13年 広島県教育委員会規則第7号）入 館料の減免
平成5年3月	解体工事、整地完了 新館建設工事安全祈願祭が挙行され、工事 に着手	12月20日	平山郁夫名誉館長辞任
	4月	平成14年3月25日	広島県立美術館条例一部改正（平成14年 広島県条例第18号）小・中・高校生の無料化
12月	寺脇研館長（兼務）任命 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円 を増額（基金額30億円）	4月1日	広島県立美術館管理運営規則一部改正（平 成14年 広島県教育委員会規則第10号）開 館時間の変更
平成6年5月	事務所を西区観音新町から広島市中区八丁 堀3-2 幟会館（2階）に移転 広島県立美術館美術品等取得基金、10億円 を増額（基金額40億円）	平成16年7月1日	関靖直館長（兼務）就任
平成7年4月	常廣泰登館長（専任）任命 広島県立美術館美術品等取得基金、5億円 を増額（基金額45億円）	平成17年12月20日	広島県立美術館条例一部改正（平成17年 広島県条例第57号）展示施設等の利用許可 の条件、取消し等及び制限 広島県立美術館管理運営規則一部改正（平 成17年 広島県教育委員会規則第16号）開 館時間表記の改正及び条例改正に伴う改正
12月	新館竣工 新館鍵引渡し式を挙行	平成19年4月1日	榎田好一館長（兼務）就任
平成8年1月	事務所を新館に移転	6月18日	広島県立美術館管理運営規則一部改正（平 成19年 広島県教育委員会規則第9号）休 館日の変更及び条例改正に伴う改正
4月1日	木曾功館長（兼務）就任	12月25日	広島県立美術館条例一部改正（平成19年 広島県条例第56号）学校教育法等の一部改 正に伴う改正
7月1日	平山郁夫名誉館長就任	平成20年4月1日	指定管理者制度導入
5日	広島県立美術館条例施行（平成8年 広島 県条例第16号）入館料・施設使用料	平成21年4月1日	所管先が広島県教育委員会生涯学習部文化 課から広島県環境県民局総務管理部文化芸 術課へ移行 広島県立美術館の入館料に関する規則施行 （平成21年 広島県規則第33号） 広島県美術展開催運営規則（平成21年 広 島県規則第34号） 藤田雄山館長（兼務）就任
22日	広島県立美術館管理運営規則一部改定（平 成8年 広島県教育委員会規則第9号）施 設使用料	11月29日	湯崎英彦館長（兼務）就任
10月5日	新館開館記念式挙行	12月1日	平田光章館長（兼務）就任
6日	新館開館 広島県立美術館美術品等取得基金、5億円 を増額（基金額50億円）	平成22年4月1日	抹香尊文館長（兼務）就任
平成9年3月26日	広島県立美術館条例施行（平成9年 広島 県条例第3号）入館料・施設使用料	6月1日	広島県美術品等取得基金条例を廃止する条 例の施行（平成22年 広島県条例第22号）
4月1日	広島県立美術館管理運営規則（平成9年 広島県教育委員会規則第6号）全面改定	6月28日	広島県立美術館条例一部改正（平成22年 広島県条例第31号）施設使用料額の下限撤 廃に伴う改正
平成10年3月24日	広島県立美術館条例施行（平成10年 広島 県条例第5号）入館料等の納付		

Ⅱ 展覧会

展覧会一覧

特別展

No.	展 覧 会 名	会 期
1	オルセー美術館展 パリのアール・ヌーヴォー	平成22年 4 月 7 日(水)～6 月13日(日)
2	広島から広島 ドームが見つめ続けた街展	平成22年 8 月 5 日(木)～9 月20日(月・祝)
3	愛のヴィクトリアン・ジュエリー展	平成22年 9 月30日(木)～11月28日(日)
4	ポーランドの至宝 ーレンブラントと珠玉の王室コレクションー	平成22年12月15日(水)～平成23年 1 月12日(水)
5	第57回日本伝統工芸展広島展	平成23年 1 月19日(水)～2 月 6 日(日)
6	「日本画」の前衛 1938-1949	平成23年 2 月22日(火)～3 月27日(日)

所蔵作品展

	展 覧 会 名	会 期
彫刻 展示 スペース	ズルキフリー・ユソフ 《王はレダン山の王女との結婚を望んだ》	平成22年 4 月20日(火)～7 月 4 日(日)
	佐藤敏のやきものワールドー天衣無縫変幻自在	平成22年 7 月 6 日(火)～10月24日(日)
	彫刻家 小平胖可	平成22年10月26日(火)～平成23年 1 月30日(日)
	木を彫るということー平櫛田中と圓鋳勝三	平成23年 2 月 1 日(火)～4 月17日(日)
第1室	サルバドール・ダリ《マルドロールの歌》	平成22年 4 月20日(火)～7 月 4 日(日)
	マン・レイの肖像写真	平成22年 7 月 6 日(火)～10月24日(日)
	マン・レイとマルセル・デュシャン	平成22年10月26日(火)～平成23年 1 月30日(日)
	マックス・エルンスト《博物誌》	平成23年 2 月 1 日(火)～4 月17日(日)
第2室	紙に描くー水彩・版画を中心に	平成22年 4 月20日(火)～7 月 4 日(日)
	水辺の情景	平成22年 7 月 6 日(火)～10月24日(日)
	没後60年 日本の印象派・南薫造の軌跡	平成22年10月26日(火)～平成23年 1 月30日(日)
	「日本画」の前衛展によせて 広島画壇の先鋭・山路商とその時代	平成23年 2 月 1 日(火)～4 月17日(日)
第3室	緑の情景	平成22年 4 月13日(火)～5 月16日(日)
	和高節二ー本画と素描	平成22年 5 月18日(火)～6 月27日(日)
	平山郁夫と《広島生変図》 part I	平成22年 6 月29日(火)～8 月22日(日)
	平山郁夫と《広島生変図》 part II	平成22年 8 月24日(火)～10月17日(日)
	旅への憧憬	平成22年10月19日(火)～12月 5 日(日)
	ふるさとを描く	平成22年12月 7 日(火)～1 月23日(日)
	「日本画」の前衛展によせて 日本画革新の系譜	平成23年 1 月25日(火)～2 月27日(日)
	「日本画」の前衛展によせて 広島の前衛日本画ー浜崎左髪子と善鳩人	平成23年 3 月 1 日(火)～4 月10日(日)
第4室	中央アジアの染織と金工 ーウズベクとトルクメンの美のかたち	平成22年 4 月13日(火)～6 月27日(日)
	地球からの贈り物ー工芸の素材ー	平成22年 6 月29日(火)～10月17日(日)
	漆芸家・六角紫水とその時代	平成22年10月19日(火)～1 月23日(日)
	「日本画」の前衛展によせて 陶芸の前衛 走泥社	平成23年 1 月25日(火)～4 月10日(日)

1 オルセー美術館展 パリのアール・ヌーヴォー —19世紀末の華麗な技と工芸—

会 期／平成22(2010)年4月7日(水)～6月13日(日)

主 催／広島県立美術館、
広島県縮景園広島県立美術館指定管理者イズミテクノ、
オルセー美術館、読売新聞社、広島テレビ

後 援／外務省、フランス大使館、中国放送、
広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、
広島日仏協会

協 賛／大日本印刷

協 力／エールフランス航空、日本航空、ゲラン、
ヴァンケン・ジャパン、アットアロマ

広島展特別協力／財団法人ウッドワン美術館

入 館 料／一 般 1,200円(1,000円)

高・大学生 800円 (600円)

小・中学生 600円 (400円)

※()内は前売・20人以上の団体料金

ゴールデン・ウィーク(4月29日(木・祝)～5月5日(水・祝))は小・中学生無料

入館者数／30,942人(60日間)



19世紀美術の殿堂であるオルセー美術館が誇るアール・ヌーヴォー・コレクションの代表的名品95件147点を中心に、ウッドワン美術館所蔵のガラス作品16点及び国内に所蔵される絵画や版画を加え、フランスのアール・ヌーヴォー芸術を総合的に展覧した。

本展では、当時の豪華な住空間（サロン、ダイニング・ルーム、書斎、女性の部屋）を再現し、アール・ヌーヴォー様式の家具や工芸品、装飾品、デザイン画などを配置し、生活と一体となった芸術のあり方を体験的に展示するとともに、芸術と社会が相互に織り成すダイナミズムや、生活の中で果す芸術の重要な役割、その中で磨かれた芸術家や工人の素晴らしい美意識や技術を紹介した。

(本展担当者：宮本 真希子)

関連事業

(1) 講演会

① 日 時：4月29日(木・祝) 13:30～15:00

講 師：白田由樹(19世紀末フランス文化・文学研究者 大阪市立大学講師)

演 題：「女優サラ・ベルナール —アール・ヌーヴォーの詩神伝説—」

会 場：地階講堂

聴講者：100人

② 日 時：5月9日(日) 13:30～15:00(広島県立美術館友の会共催)

講 師：馬淵明子(美術史家 日本女子大学教授)

演 題：「アール・ヌーヴォーのなかの＜日本＞」

会 場：地階講堂

聴講者：100人

(2) ワークショップ

① 「ぬりえ ～ミュシャの版画に色鉛筆で自分だけの色をぬる」

日 時：4月17日(土)、18日(日) 両日11:00~17:00
講 師：三宅良信(広島市立大学大学院生 芸術学研究科)
会 場：3階ロビー
参加者：190人

② 「七宝でアクセサリーを作る～ヨーロッパ工芸の花・七宝を体験」

第1回/日 時：4月25日(日) 13:30~15:30
講 師：菅坂安子(日本工芸会正会員)
参加者：28人
第2回/日 時：5月16日(日) 10:00~12:00/13:30~15:30
講 師：栗根仁志(日本工芸会正会員)
参加者：午前15人、午後15人
会 場：3階ロビー

(3) ギャラリートーク

日 時：会期中毎週金曜日(11:00~12:00)
5月26日、6月2日及び9日の各水曜日(18:30~19:15)
講 師：宮本真希子(当館主任学芸員)
会 場：3階企画展示室
参加者：364人

(4) パティシエの解説付き洋菓子試食会「アール・ヌーヴォーと洋菓子」

日 時：4月24日(土)、5月15日(土) 両日10:00~11:00
会 場：3階ティールーム
講 師：山本浩介(パチシェ・ヴォワザン)
参加者：51人

(5) ロビーコンサート(ライアー(竖琴)演奏会)

日 時：5月15日(土) 13:00~14:00
演奏者：松原里香
会 場：1階ロビー
参加者：180人

(6) よくわかる解説付き「オルセー美術館展」鑑賞会

日 時：5月23日(日) 13:30~14:30
講 師：宮本真希子(当館主任学芸員)
会 場：地階講堂
聴講者：47人

(7) 「オルセー美術館展」セルフガイド(鑑賞の手引き)作成・配布

仕 様：A3版モノクロ・リソグラフ両面印刷

主要関連記事

(1) 読売新聞

3月26日 社告「オルセー美術館展 パリのアール・ヌーヴォー」
4月4日 開催予告「アール・ヌーヴォーの粋 オルセー美術館展 7日開幕」
4月4日 インタビュー「ティエボー学芸部長ら1点ずつ点検『広島で仕事 特別な感動』」
4月8日 開幕記事「輝く繊細な装飾美 オルセー美術館展開幕/広島版」「オルセー美術館展県立美術館で開幕/福山版」
4月10日 ギャラリートーク「アール・ヌーヴォー学ぶ オルセー美術館展ギャラリートークに30人」
4月18日 コラム・オルセー美術館展に寄せて(「ひろしまパズル」欄)
4月22日 塗り絵ワークショップ「ミュシャ版画 自分色に」
4月25日 アール・ヌーヴォーとお菓子「時代で変化 洋菓子比較『オルセー展』、食のイベント」
4月26日 七宝焼ワークショップ「オルセー展イベント 七宝焼に挑戦」
4月30日 講演会「アール・ヌーヴォーと女優のかかわり講演 オルセー展で白田講師」
4月30日 作品解説1「球根の丸み 抽象化 ポール・フォロ/クリストフル社『ティー・セット』1903年頃のモデル」
5月1日 作品解説2「飛び回る羽持つ少年 ラウル・ラルシュ/シオ社『シャンデリア』1900年頃」
5月3日 作品解説3「文明と自然 穏やかに ウジェーヌ・グラッセ/フェリックス・ゴダン『ハーモニー』1893年」
5月5日 作品解説4「光の芸術 建築と一体 エクトル・ギマール『天井灯』1909~11年頃のモデル」
5月7日 作品解説5「震えるような繊細さ ルネ・ラリック『飾りピン“芥子”』1897年」
5月7日 1万人セレモニー「平野さん親子1万人目 オルセー美術館展」
5月8日 作品解説6「日本美術の影響示す エミール・ガレ『婦人用机“オンベリユル”』1900年のパリ万博に出品されたモデル」
5月9日 作品解説7「大自然の営み包み込む ジョルジュ・レイ(推定)『肘掛け椅子“昼と夜”』1900~06年頃」

- 5月10日 講演会「オルセー展 馬淵教授 日本美術との関係講演」
- 5月21日 わかりやすい解説付き鑑賞会告知「オルセー展20作品解説 23日学芸員がスライド使い」
- 5月24日 わかりやすい解説付き鑑賞会「オルセー美術館展 鑑賞ポイント解説」
- 5月29日 2万人セレモニー「オルセー展 2万人突破」
- 6月1日 夜間開館延長「会社帰り 楽しむオルセー展 シャンパンサービスも『仕事の気分転換』初めて午後8時まで開館」
- 6月6日 コラム・オルセー美術館展に寄せて（「ひろしまパズル」欄）
- 6月14日 閉幕記事「オルセー展開幕 総入場3万942人」
- (2) その他
 - 5月12日 毎日新聞大阪版「トピックス／1世紀前の新鮮な息吹」（夕刊、展覧会紹介）

主要関連番組

- (1) 広島テレビ
 - 4月6日 開催予告・展覧会紹介「テレビ派ッ！」
 - 4月7日 開会式・展覧会の見所・ティエボー氏インタビュー「テレビ派ッ！」
 - 4月24日 ミニ番組『華やかな装飾家具』「エンタ広テレじゃん！」
 - 4月29日 ミニ番組『門外不出の名品』「エンタ広テレじゃん！」
 - 4月30日 展覧会の見所「ルンルン・カフェ」
 - 5月1日 ミニ番組『ジャポニズムの影響』「エンタ広テレじゃん！」
 - 5月2日 ミニ番組『建築・装飾家エクトル・ギマール』「エンタ広テレじゃん！」
 - 5月6日 1万人セレモニー「テレビ派ッ！」
 - 5月15日 ミニ番組『大女優サラ・ベルナール』「エンタ広テレじゃん！」
 - 5月16日 ミニ番組『大女優サラ・ベルナール』「エンタ広テレじゃん！」
 - 5月28日 2万人セレモニー「ニュース」
- (2) その他のテレビ
 - 4月7日 テレビ新広島「ニュース・開会式」
 - 4月8日 広島ホームテレビ「Jステーション・開会式／展覧会の見所」
 - 4月15日 NHK「ひろもり・展覧会の見所」
 - 5月19日 NHK「ニュース・展覧会紹介」
 - 5月26日 NHK「ニュース・夜間開館延長」
 - 5月10日～6月4日 CATVふれあいチャンネル「ア ミュージアム レター・展覧会紹介5分番組」（89回放映）
 - 5月31日～6月6日 HICATひろしまCATV「ぐるあそ・展覧会情報」（28回放映）
- (3) ラジオ
 - 4月5日 FMふくやま「びんごピカイチ情報・展覧会紹介」
 - 5月2日 山口放送ラジオ「鈴木久美のモーニングコール・展覧会紹介」
 - 5月4日 尾道エフエム放送「ママブランチ・展覧会紹介」
 - 6月4日 広島エフエム放送「アヤノスタイル・展覧会紹介」

カタログ内容

アール・ヌーヴォー期におけるパリの高級産業（フィリップ・ティエボー）

- 1 サロン
- 2 ダイニング・ルーム
- 3 書斎
- 4 エクトル・ギマール
- 5 貴婦人の部屋
- 6 サラ・ベルナール
- 7 パリの高級産業 I 七宝 II 陶芸 III 金工

参考出品－室内を飾る絵画

エッセイ：アール・ヌーヴォーの館「ヴィラ・ドモアゼル」

住まれる装飾空間－邸宅におけるアール・ヌーヴォーとその意味（遠藤望）

「画家たち」とアール・ヌーヴォー－ビングの「アール・ヌーヴォー」の室内装飾を中心に（福満葉子）

ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ（宮本真希子）

アール・ヌーヴォー関連年表／技法解説／主要参考文献／作品リスト／作家・制作会社一覧

展覧会巡回先

- 世田谷美術館 平成21年9月12日～11月29日
- 長崎県美術館 平成21年12月11日～平成22年2月28日

2 広島から広島 ドームが見つめ続けた街展

会 期／平成22(2010)年8月5日(木)～9月20日(月・祝)

主 催／広島県立美術館、NHK広島放送局、
NHKプラネット中国、中国新聞社

後 援／広島市、広島市教育委員会、
財団法人広島平和文化センター

特別協力／広島市立大学

協 力／石田あさきトータルファッション専門学校、
呉工業高等専門学校、比治山大学、
広島かよこバス活用委員会、広島国際大学、
広島大学、広島電鉄株式会社

企画委員／石丸紀興（広島国際大学教授）、
大井健次（広島市立大学教授）、
杉本俊多（広島大学大学院工学研究科教授）、
富田英夫（呉工業高等専門学校准教授）、
前川義春（広島市立大学教授）、
吉田幸弘（広島市立大学教授）

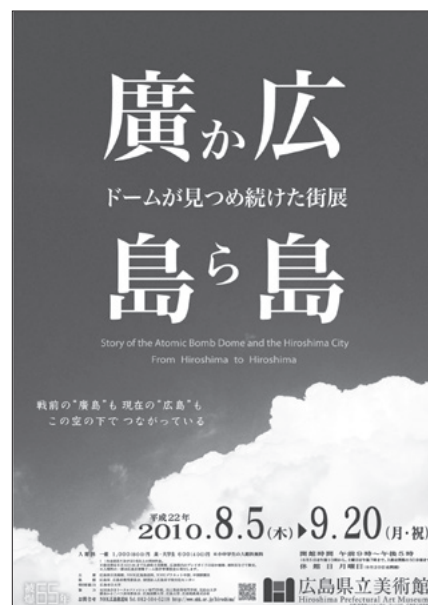
入 館 料／一 般 1,000円(800円)

高・大学生 600円(400円)

小・中学生 無料

※()内は前売・20人以上の団体料金

入館者数／12,315人(41日間)



この展覧会は被爆後65年、世界遺産「原爆ドーム」の前身である広島県産業奨励館が開館して95年目の節目に開催し、この95年間の広島の街と文化を辿ろうとしたものである。全体は三部構成で、第一部は「広島県産業奨励館とモダン都市“広島”の文化」として、原爆ドームの前身である広島県産業奨励館が竣工した大正5年から昭和20年までの広島の街と文化の歴史を辿り、第二部「被爆」では被爆をテーマにして、被爆資料である産業奨励館のバルコニーの石柱などを展示しつつ、「被爆」を主題とした戦後から現在までのさまざまな美術作品を展示した。第三部「原爆ドームと戦後“広島”の65年」では戦後の復興をテーマとして、広島市立大学の特別協力を得て、被爆者たちを描いた「光の肖像」や新たに委託制作した作品を展示した。全体として出品作品は絵画、写真、映像、漫画の原画、インスタレーションなど合わせて153点で構成した。

なお、この展覧会では地元の大学や学校の協力を得て、産業奨励館の十分の一の模型の製作、被爆した子どもたちの衣服の復元、戦後復興をテーマにした新しい作品の制作など多くの広島の地域資源を展示した。また地元の小学生たちとともに被爆した産業奨励館のバルコニーの部材などの引き揚げや、原爆ドームに戦前の住所「広島市猿楽町15番地」を復活させて、平和のメッセージ葉書を世界中から募るなど、広島から広島の歴史と文化そして今日的意義を全国と世界に発信することができた。

(本展担当者：松田 弘)

関連事業

(1) 講演会（広島県立美術館友の会共催）

① 日 時：8月8日(日) 14:00～15:30

講 師：杉本俊多（広島大学大学院教授 工学博士）

演 題：「広島県産業奨励館の建築」

会 場：地階講堂

聴講者：110人

② 日 時：8月22日(日) 14:00～15:30

講 師：大井健次（広島市立大学芸術学部教授）

演 題：「戦後広島の復興案」

会 場：地階講堂

聴講者：70人

(2) よくわかる解説付き「広島から広島展」鑑賞会

日 時：8月14日(土)、9月11日(土) 各回14:00～15:00

講 師：松田弘（当館次長兼学芸課長）

会 場：地階講堂

聴講者：計80人

(3) ギャラリートーク

日 時：8月6日(金)、8月20日(金)、9月3日(金)、9月17日(金) 各回11:00～12:00

参加者：計105人

(4) 平和のメッセージ募集企画「拝啓 原爆ドーム様 ーヒロシマに届け！“平和”のコトバ」

募集・郵便受け設置期間：7月9日(金)～9月11日(土) ※65日間

応募総数：4,603通

(5) 「ドームの石柱引き揚げプロジェクト」

監 修：田賀井篤平（東京大学総合研究博物館名誉教授）

日 時：7月12日(月)

場 所：原爆ドーム前の元安川河岸

参加者：本川小学校児童他合計110人

(6) 子ども向けワークショップ「ドームに宛てて平和のメッセージを描こう！」

日 時：8月7日(土) 11:00～、14:00～

講 師：原仲裕三（広島県立三次高等学校教諭）

会 場：3階ロビー

参加者：計70人

(7) 「食べて体験 戦前のドーム」（日本初のバウムクーヘンの試食）

日 時：8月15日(日)、8月29日(日)、9月12日(日) 各回11:00～

会 場：3階ティールーム

協 力：(株)ユーハイム

参加者：計658人

(8) 「乗って体験 広島のかよこバス乗車体験」

日 時：8月28日(土)、8月29日(日) 各回13:00～15:00

会 場：1階ロビー

協 力：広島かよこバス活用委員会

参加者：計220人

主要関連番組

- (1) テレビ：「ふるさと発」(NHK広島総合：7.30)、「原爆ドームと向き合って～大学生がみつめるヒロシマの象徴」(NHK広島総合：7.31)、「ニュース」(NHK広島総合：8.5)、「日曜美術館 アートシーン」(NHK広島総合：8.22)、「NHKワールドニュース」(NHK国際：8.25)、「歌うコンセルジュ」(NHK総合：8.27)、「ひろもり」(NHK広島総合：8.27)、「ニュース」(NHK広島総合：8.27)、「お好みワイド」(NHK広島総合：9.15)
- (2) ラジオ：「おはようちゅうごく」(NHKラジオ：8.13)、「ゆうなび」(NHKFMラジオ：9.2)

主要関連記事

- (1) 新聞
中国新聞：「社告」(朝刊 6.20)、「関連イベント」(朝刊 7.1)、「カラー特集」(朝刊 8.1)、「産業奨励館模型」(朝刊 8.4)、「かよこバスポストカード」(朝刊 8.4)、「「声」欄への投稿：石の引き揚げについて」(朝刊 8.4)、「開会式」(朝刊 8.6)、「菊楽氏の投稿」(朝刊 9.1)、「展覧会本編」(朝刊 9.9)
朝日新聞：(記事 8.18)
- (2) 雑誌等
「To you」(7月下旬号)、「月刊くれえばん」(8月号)、「TJ Hiroshima」(8月号)、「Wink広島」(8月号)、「ウェンディー広島」(8月号)、「NHKネットクラブプレミアム会員向けメルマガ」(7月7日)、「広島市メールマガジン」(7月25日)、「月刊タウン情報トライアングル」(8月号)、「ゆめプレス」(8月下旬)、「新美術新聞」(9月1日)

カタログ内容

ごあいさつ

目次

凡例

第一章 広島県産業奨励館とモダン都市“広島”の文化

「都市の象徴としてのドーム」(杉本俊多)

「ドームと広島」(菊楽忍)

「広島県物産陳列館年表」(菊楽忍編)

「ヤン・レツル年譜」(菊楽忍編)

第二章 被爆

「気格を高尚にする文学(美術)」(水島裕雅)

「被爆衣服の復元にあたって」(山崎美枝子)

第三章 原爆ドームと戦後“広島”の65年

「原爆ドームと都市復興」(大井健次)

「広島戦後復興案－その多くの構想と意味するもの」(石丸紀興)

メイキング記録

「広島県産業奨励館の1/10模型の制作」(富田英夫)

「ドームの石柱引き揚げプロジェクト」(宝木太郎)

「展覧会ガイドブック制作プロジェクトを終えて－“大学生たちの”夏休みの宿題」(高石勝)

年表(山下寿水編)

作家略歴(山下寿水編)

出品リスト

謝辞

3 愛のヴィクトリアン・ジュエリー展 —華麗なる英国のライフスタイル—

会 期／平成22(2010)年9月30日(木)～11月28日(日)
主 催／広島県立美術館、
広島県縮景園広島県立美術館指定管理者株式会社イズミテクノ、
テレビ新広島、中国新聞社
後 援／ブリティッシュ・カウンシル、社団法人日本ジュエリー協会、
社団法人日本ジュウリーデザイナー協会、
日本紅茶協会、広島エフエム放送、
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送、広島日英協会
協 力／広島芸術専門学校、穴吹デザイン専門学校、
広島ファッション専門学校、
石田あさきトータルファッション専門学校、
(社)広島県専修学校各種学校連盟
特別協力／穂葉アンティークジュウリー美術館
企画協力／アートプランニングレイ
入 館 料／一 般 1,200円(900円)
高・大学生 800円(600円)
小・中学生 600円(400円)
※()内は前売・20人以上の団体料金
入館者数／25,113人(53日間)



本展では、近代ヨーロッパ及び近代日本の宝飾文化の基となった、イギリス19世紀ヴィクトリア朝時代のアンティーク・ジュエリーを中心に、当時のライフスタイルに焦点を当て、華麗なる英国伝統文化の粋を紹介した。
(本展担当者：石橋 健太郎)

関連事業

(1) 講演会

- ① 日 時：10月3日(日) 13:30～15:00
講 師：井野瀬久美恵(甲南大学文学部教授)
演 題：「見られるロイヤル・ファミリー —ヴィクトリア女王と近代英国文化—」
会 場：地階講堂
聴講者：70人
- ② 日 時：10月17日(日) 13:30～15:00(広島県立美術館友の会共催)
講 師：穂葉昭江(穂葉アンティークジュウリー美術館長 本展監修者)
演 題：「ジュエリーにこめられたメッセージ」
会 場：地階講堂
聴講者：110人

(2) よくわかる解説付き「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」鑑賞会

日 時：10月2日(土) 13:30～15:30
会 場：地階講堂及び3階企画展示室
聴講者：55人

(3) ギャラリートーク

日 時：10月1日(金)、10月8日(金)、10月15日(金)、10月22日(金)、10月29日(金)、11月5日(金)、
11月12日(金)、11月19日(金)、11月26日(金) 各回11:00～12:00

講 師：石橋健太郎（当館主任学芸員）

会 場：地階講堂及び3階企画展示室

参加者：計327人

(4) ヴィクトリアン・ファッションショー

① 石田あさきトータルファッション専門学校

日 時：10月11日(月・祝)、1) 11:00~11:30、2) 13:00~13:30、3) 14:30~15:00

会 場：広島県立美術館1階ロビー

観覧者：1) 230人、2) 160人、3) 180人

② 広島ファッション専門学校

日 時：10月24日(日)、1) 13:30~14:00、2) 14:30~15:00

場 所：広島県立美術館1階ロビー

観覧者：1) 200人、2) 200人

(5) ヴィクトリア朝ファッション学生制作作品展示

日 時：10月1日(金)~11月28日(日)

場 所：広島県立美術館3階ロビー、1階ロビー

(6) ヴィクトリアン・ジュエリー展・ファッションパレード

① 石田あさきトータルファッション専門学校

日 時：10月10日(日) 14:00~15:00

場 所：広島本通り及び金座街

参加者：46人

② 広島ファッション専門学校

日 時：10月23日(土) 14:00~15:00

場 所：広島本通り及び金座街

参加者：60人

(7) ヴィクトリアン・ジュエリー学生作品展示

日 時：10月1日(金)~11月28日(日)

場 所：広島県立美術館3階ロビー

出品者：広島芸術専門学校生、穴吹デザイン専門学校生

(8) ジュエリー制作ワークショップ

① 「淡水パール&シルバー・アクセサリー作り」

日 時：11月7日(日) 10:30~、13:30~

講 師：広島芸術専門学校指導者及び学生

参加者：計58人

② 「コンテナポリャーアクセサリー~樹脂で作るアクセサリー体験」

日 時：11月14日(日) 10:30~、13:30~

講 師：穴吹デザイン専門学校指導者及び学生

場 所：広島県立美術館1階ロビー

参加者：計31人

(9) ヴィクトリア朝音楽会

日 時：10月31日(日) 14:00~

演奏者：ア・ピアチュレ

演 目：「愛のヴィクトリアン・ドリーム・コンサート~衣装と共にイギリス・19世紀音楽の世界へ~」

会 場：地階講堂

参加者：112人

(10) アフタヌーン・ティー・セミナー

日 時：10月23日(土) 15:00~

講 師：日本紅茶協会認定シニアティーインストラクター 石井智子

場 所：広島県立美術館3階喫茶室

参加者：30人

(11) アフタヌーン・ティー体験

日 時：会期中全期

場 所：広島県立美術館3階喫茶室

提 供：イズミテクノ

(12) ヴィクトリアン・ディナー・パーティー

日 時：10月8日(金) 観覧17:30~19:00 会食19:00~21:00

場 所：3階企画展示室及びアーバンビュー・グラントタワー1階 GRAND CAFÉ

参加者：33人

主要関連番組

テレビ

① スポット

- ・前売券発売中 15秒 8/20(金)～9/22(水) 84本
- ・開催前(いよいよ開催) 15秒 9/23(木)～9/29(水) 28本
- ・開催中 15秒 9/30(木)～11/28(日) 125本
- ・開催中 30秒 9/30(木)～11/28(日) 7本 計244本

② 番組

「ひろしま満点ママ!」 9/30(木)、11/1(月)、11/10(水)
ニュース「TSSスピークFNN」 11/19(金)、10/24(日)、10/27(水)
「情報チャージ 知りため!」 10/2(土)、11/6(土)
イベント情報番組「TVQ d a s」 9/23(木)～26(日)、10/14(木)～17(日)、10/7(木)～10(日)、
10/28(木)～31(日)、11/18(木)～21(日)
お天気フィラー 10/27(水)・11/1(月)・11/3(水)・11/8(月)・11/10(水)・11/17(水)・11/24(水)

主要関連記事

(1) 新聞

中国新聞

- 8/22 社告：朝刊二社面
- 9/22 ちゅーピーくらぶ招待券プレゼント：朝刊ふれあい面
- 9/26 特集：朝刊10段
- 9/29 ちゅーピーくらぶ美術サロン募集：朝刊ふれあい面
- 9/30 開会式後記事：夕刊一面
- 10/1 開会式後記事：朝刊二社面
- 10/3 ビバキャンパス石田あさき：朝刊次世代面
- 10/22 事業ガイド：朝刊事業PR面
- 10/28 1万人セレモニー：朝刊二社面
- 10/31 講演会記事：朝刊くらし面
- 11/20 2万人セレモニー：朝刊三社面

雑誌等

- 「下電トップツアー・チラシ」(8月初旬)、「ヤフー・ジャパン」(8月)、
- 「じゃらんnet」(8月)、「JR西日本」(8月下旬～閉会日掲載)、
- 「Good News」(9月10日号)、「旬遊vol.30」、「いわみりびえ〜る」(9月26日号)、
- 「ウェンディー広島」(10月号)、「広島県立美術館友の会会報 NO.53/OCT.2010」、
- 「TO YOU」(10月号)、「YOUME・PRESS 10月号 Vol.137」、「イズミ・チラシ10月7日」、
- 「リビング新聞ひろしま10月9日号」、
- 「不動産ニュース」(10月10日号、10月25日号、11月10日号、11月25日号)
- 「WINK」(10月23日号)、「セブンイレブン・パンフレット」(11月号)

カタログ内容

ヴィクトリア女王とその時代(ダイアナ・スカリスブリック)

ヴィクトリアン・ジュエリー(穂葉昭江)

序章 ヴィクトリア女王の愛

第I章 アンティーク・ジュエリー

第II章 歓びのウェディングから哀しみのモーニング

第III章 優雅なひととき -アフタヌーンティー-

ヴィクトリアン・アフタヌーンティー(ハロルド・ブラウン)

ジュエリーデザイン画

技法/用語解説

イギリス史年表

作品リスト/作品解説

参考文献

展覧会巡回先

Bunkamura ザ・ミュージアム	平成22年1月2日～2月21日
山梨県立美術館	平成22年4月10日～6月6日
福井県立美術館	平成22年7月24日～8月22日

4 ポーランドの至宝 —レンブラントと珠玉の王室コレクション—

会 期／平成22(2010)年12月15日(水)～平成23年1月12日(水)
主 催／広島県立美術館、

広島県縮景園広島県立美術館指定管理者イズミテクノ、
中国新聞社、中国放送

後 援／ポーランド文化・国家遺産省、外務省、文化庁、
ポーランド大使館、広島テレビ、広島ホームテレビ、
テレビ新広島、広島エフエム放送、
FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、
尾道エフエム放送

協 賛／東日印刷、アクセント、セコム、大成建設、
三菱商事、三菱東京UFJ銀行

協 力／NHKエデュケーショナル、ヤマトロジスティクス
企画協力／東京富士美術館

入 館 料／一 般 1,200円(900円)

高・大学生 800円(600円)

小・中学生 600円(400円)

※()内は前売・20人以上の団体料金

入館者数／93,462人(29日間)



この展覧会では、首都ワルシャワのシンボルであるワルシャワ王宮と、歴代国王の居城であった旧都クラクフの王宮ヴァヴェル城の全面的な協力のもと、絵画、工芸、彫刻などを、さらに、国立美術館のコレクションから選りすぐった、19世紀のポーランド絵画を中心に135点を展示した。

(本展担当者：角田 新)

関連事業

- (1) 講演会(広島県立美術館友の会共催)
日 時：12月15日(水) 13:00～14:30
講 師：カタジーナ・パウヤン博士(ワルシャワ王宮 本展担当学芸員)
演 題：「ワルシャワ王宮の至宝」
会 場：地階講堂
聴講者：150人

- (2) よくわかる解説付き「ポーランドの至宝」展 鑑賞会

① 日 時：12月18日(土) 14:30～14:50

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

聴講者：105人

② 日 時：12月19日(日) 14:30～14:45

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

聴講者：95人

- (3) ギャラリートーク

日 時：平成22年12月17日(金)、12月24日(金)、12月31日(金)、平成23年1月7日(金)
各回11:00～12:00

講 師：角田 新(当館主任学芸員)

会 場：3階企画展示室

参加者：計310人



(4) ロビーコンサート（ショパンにちなんだ演奏）

- ① 日 時：12月25日(土) 17:00～17:40
演奏者：西本裕矢（ピアノ）・大下由紀江（ピアノ）
会 場：1階ロビー
参加者：270人
- ② 日 時：12月26日(日) 13:00～13:40
演奏者：貞末さとみ（フルート）・尼田成次（ギター）・植田歩依（ピアノ）
会 場：1階ロビー
参加者：280人

主要関連番組等

○ラジオ番組

- 11/28 RCCラジオ 桜井弘規のおいくら万円 出演：角田 新
12/12 桜井弘規のおいくら万円（いよいよ今週）
12/15～12/18 桜井弘規のおいくら万円モーニング
12/14 ラジオカー中継 内覧会 出演：角田 新
12/27～12/31 桜井弘規のおいくら万円モーニング
12/29 ラジオカー中継 出演：角田 新
1/1 ラジオカー中継 出演：角田 新
1/3～1/8 桜井弘規のおいくら万円モーニング

○テレビ番組

- 11/24 エンタがR 水曜日21:54～
12/1 エンタがR 水曜日21:54～
12/8 エンタがR 水曜日21:54～
12/11 ニュース 開栖
12/13 イブニングふぉー 16:30～
12/14 ニュース 街頭配布
12/15 ニュース 開会式
12/15 イブニングふぉー 16:30～
12/15 エンタがR 水曜日21:54～
12/22 エンタがR 水曜日21:54～
12/24 ニュース 3万人
12/30 特別番組 「d ポン」年末スペシャル 16:30～17:00 出演：角田 新
1/5 エンタがR 水曜日21:54～
1/6 ニュース 5万人
1/9 ニュース 7万人



主要関連記事

新聞紙面

中国新聞

- 12/3 事業ガイド
12/8 特集：朝刊見開き4ページ
12/12 搬入急ピッチ：朝刊
12/15 今日開幕（内覧会）：朝刊
開会式後記事：夕刊一面
12/16 開会式後記事：朝刊一面
天風録：朝刊一面
12/18 知事が鑑賞：朝刊広島版
12/20 解説付き鑑賞会：朝刊
12/21 作品連載①：朝刊一面
12/22 作品連載②：朝刊文化面
美術サロンリポート：朝刊ふれあい面
12/23 作品連載③：朝刊文化面
12/24 作品連載④：朝刊文化面
事業ガイド：朝刊
12/25 作品連載⑤：朝刊文化面
トワイライト開館：朝刊広島版

- 12/26 ロビーコンサート：朝刊広島
 12/27 3万人セレモニー：朝刊
 12/28 講演会記事：朝刊文化面
 12/29 年末年始も開館：朝刊広島版
 1/4 学芸員寄稿：朝刊文化面 記事：角田 新
 1/5 私の1点①：朝刊広島版
 1/6 私の1点②：朝刊広島版
 1/7 私の1点③：朝刊広島版
 5万人セレモニー：朝刊
 荒木則行氏寄稿：朝刊文化面
 1/8 私の1点④：朝刊広島版
 1/9 私の1点⑤：朝刊広島版
 1/10 7万人セレモニー：朝刊
 毎日新聞
 1/8 毎日新聞 備後版 毎日美術館 記事：角田 新
 情報誌等
 7/18 広島の情報誌リビングひろしま・おでかけ案内板・チケットプレゼント
 10/10 色絵馬（広島県立美術館 友の会 No.53）
 11/23 Wink広島 12月号
 11/25 TJ広島 12月号
 11/25 ヒロシマフリーク 12月号
 11/28 旬遊（12月号）
 11/25 yume PRESS（ゆめカード会員向け情報誌） 12月号
 12/3 MOE（1月号）
 12/22 ぱど 1月号
 12/23 Wink広島 1月号
 12/25 TJ広島 1月号
 12/25 ヒロシマフリーク 1月号
 12/25 to you 1月号

カタログ内容

はじめに（アンジェイ・ロットエルムンド）
 ワルシャワ王宮（アンジェイ・ロットエルムンド）
 ヴァヴェル城（ヤン・オストロフスキ）
 図版
 第1章 珠玉のポーランド王室コレクション
 第2章 19世紀ポーランド絵画
 第3章 ポーランドが生んだ偉人たち
 四人のポーランド人女性（関口時正）
 19世紀末から20世紀初頭におけるポーランド絵画の興隆（加須屋明子）
 関連地図
 関連年表
 作品解説
 欧文
 The Royal Castel in Warsaw/Prof. Dr. Andrzej Rottermund
 The Wawel Royal Castle/Prof. Dr. Jan Ostrowski
 Catalogue
 作品リスト
 List of Exhibits

展覧会巡回先

東京富士美術館	平成22年8月29日(日)～9月26日(日)
サントリーミュージアム〔天保山〕	平成22年10月6日(水)～10月31日(日)
北九州市立美術館・分館	平成22年11月10日(水)～12月5日(日)

5 第57回日本伝統工芸展広島展

会 期／平成23(2011)年1月19日(水)～2月6日(日)
主 催／広島県、広島県教育委員会、広島県立美術館、
NHK広島放送局、朝日新聞社、(社)日本工芸会
後 援／文化庁
入 館 料／一 般 700円(500円)
高・大学生 400円(200円)
小・中学生 300円(100円)
※()内は前売・20人以上の団体料金
入館者数／9,048人(17日間)



日本伝統工芸展は、日本の風土から生まれた世界に誇る工芸技術を継承・発展し、新しい時代の生活に即した美を築くことを目的にしています。広島展では、全入選作品731点及び遺作3点の中から重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品や受賞作品、広島県からの入選作品を中心に陶芸108点、染織43点、漆芸46点、金工35点、木竹工41点、人形23点、諸工芸30点、合計326点を厳選して一堂に展示しました。日本の伝統を引き継ぐ優れた工芸作品を展示し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、伝統工芸に対する理解を深め、地域文化の向上に資することに努めました。

(本展担当者：宮本 真希子)

広島県在住入選者

陶 芸	今田 拓志	「燻黒鉄釉たねの器」
	木村 芳郎	「碧釉堆線文壺」
	小林 良巳	「緋襷壺」
漆 芸	金城一国斎	「糸柳切金高盛絵箱」
	田代 昭夫	「藍胎短冊箱 “月あかり”」
木竹工	松岡 裕治	「桂魚鱗玉空造巻紙香盆」
	三好幸二郎	「枳拭漆盛器」
諸工芸	宇田勢津子	「有線七宝蓋物 “白南天”」
	菅坂 安子	「有線七宝蓋物 “祈の響”」

関連事業

(1) 講演会

日 時：平成23年1月23日(日) 13:30～15:00

講 師：竹内順一（永青文庫館長）

演 題：「作る側と見る側 - 日本伝統工芸展の魅力 -」

会 場：地階講堂

聴講者：90人

(2) ギャラリートーク

日 時：平成23年 1 月21日(金) 菅坂 安子 (七宝)
1 月22日(土) 佐故 龍平 (金工)
1 月28日(金) 松岡 裕治 (木工)
1 月29日(土) 木村 芳郎 (陶芸)
2 月 4 日(金) 小林 良巳 (陶芸)
2 月 5 日(土) 金城一國齋 (漆芸)

時 間：各回11：00～

場 所：3 階企画展示室

参加者：約40～120人／回

(3) よくわかる解説付き「日本伝統工芸展」鑑賞会

日 時：平成23年 1 月30日(日) 13：30～14：30

講 師：宮本真希子 (当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

聴講者：60人

(4) 出張授業

平成22年10月25日(月)	丸本 壺 (三次人形)	広島市立竹屋小学校	5 年生 2 クラス	46人
11月 2 日(火)	小林 良巳 (陶芸)	坂町立横浜小学校	4・5 年生 3 クラス	87人
11月10日(水)	馬船 宏明 (漆芸)	庄原市立川北小学校	全校生徒 4 クラス	17人
11月18日(木)	栗根 仁志 (七宝)	三原市立羽和泉小学校	4・5 年生 2 クラス	16人
11月26日(金)	山根 宏造 (陶芸)	東広島市立川上小学校	4 年生 2 クラス	59人
平成23年 1 月14日(金)	小林 利幸 (木工)	廿日市市立地御前小学校	4 年生 2 クラス	63人

(5) 団体鑑賞

平成23年 1 月27日(木)	広島市立白島小学校	5 年生 2 クラス	53人
2 月 2 日(水)	広島市立五日市観音西小学校	4 年生 3 クラス	83人
2 月 3 日(木)	広島市立吉島小学校	4 年生 2 クラス	47人

(6) 親子ガイドブックの作成・配布

B 6 版16ページ、6,000部 (うち事前配布：23小学校、1564部／1 中学校、18部)

主要関連番組

N H K 日曜美術館 - 第57回日本伝統工芸展 (平成22年 9 月26日、10月 3 日)

お好みワイド (11月18日、出張授業 - 三原市立羽和泉小学校)

おはよう中国 (11月19日、出張授業 - 三原市立羽和泉小学校)

ローカルニュース (平成23年 1 月19日、展覧会開幕)

ひろもり (1 月21日、広島展特集)

三原テレビ ニュースウェーブ (平成22年11月19日、出張授業 - 三原市立羽和泉小学校)

週間ニュース (11月20～23日、出張授業 - 三原市立羽和泉小学校)

T S S テレビ新広島 スピーク／スーパーニュース (平成23年 1 月19日、展覧会開幕)

広島ホームテレビ ワイド・スクランブル (平成23年 1 月19日、展覧会開幕)

Jチャンネル (1 月23日、展覧会開幕)

ふれあいチャンネル ふれチャンネル TV (平成23年 1 月31日、2 月 5 日、2 月 6 日、展覧会紹介)

主要関連記事

朝日新聞

県内入選者発表「伝統工芸展 9 人が入選」(平成22年 8 月25日)

出張授業 (広島市立竹屋小学校)「三次人形の技 児童らに披露」(10月26日)

出張授業（三原市立羽和泉小学校）「伝統工芸で作る“キーホルダー”」（11月19日、備後版）

社告（平成23年1月7日）

県内入選者作品紹介①～⑨（1月11日～20日）

出張授業（廿日市市立地御前小学校）「伝統工芸の技、実演授業」（1月15日）

広島展開幕告知「美と技 飽くなき追及」（1月18日）

広島展開幕「技の粋326点が一堂に 広島展始まる」（1月20日）

県内初入選者紹介「個性 光放つ」（1月28日、今田拓志氏、三好幸二郎氏）

広島展開幕「伝統工芸の数々 広島展あす閉幕」（2月5日）

中国新聞

「広島で日本伝統工芸展 光る意匠 手仕事の極み」（平成23年1月29日、文化欄）

カタログ内容

趣旨 出品目録 出品図版

特別展示「わざを伝える」文化財保存事業報告「桐塑人形」伝承者養成研修会

第57回日本伝統工芸展入選作品及び受賞作品の決定について

展覧会巡回先

東京	平成22年9月22日(水)～10月4日(月)	三越本店
名古屋	10月6日(水)～10月11日(月)	三越名古屋栄店
京都	10月13日(水)～10月18日(月)	京都高島屋
金沢	10月29日(金)～11月7日(日)	石川県立美術館
仙台	11月10日(水)～11月15日(月)	三越仙台店
岡山	11月18日(木)～12月5日(日)	岡山県立美術館
松江	12月8日(水)～12月26日(日)	島根県立美術館
高松	平成23年1月2日(日)～1月16日(日)	香川県立ミュージアム
福岡	2月9日(水)～2月14日(月)	岩田屋本店
松山	2月22日(火)～2月28日(月)	三越松山店
大阪	3月10日(木)～3月15日(火)	大丸大阪心斎橋店

6 「日本画」の前衛 1938—1949

会 期／平成23(2011)年2月22日(火)～3月27日(日)
主 催／広島県立美術館、
広島県縮景園広島県立美術館指定管理者イズミテクノ、
中国新聞社、京都国立近代美術館
後 援／NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、
広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、
FMはつかいち76.1MHz
協 賛／広島県信用組合
入 館 料／一 般：1,000円(800円)
高・大学生： 600円(400円)
小・中学生： 400円(200円)
※()内は前売・20人以上の団体料金
入館者数／6,118人(31日間)



社会的にも激動の様相を呈する1930年代後半期、伝統的美意識に反旗を翻し、新たな表現を求める果敢な活動が生まれた。1938年に結成された「歷程美術協会」の日本画家たちが生み出した新機軸の作品群は、鮮やかにその「前衛」動向を示している。そしてこれらの「日本画家」たちに影響を与え、交流を深めた洋画家たちの存在も見逃せない。しかし時代は、太平洋戦争開戦前夜。本展覧会では、やがて戦争の拡大とともに「未完の前衛」と化した様相にも触れながら、戦後「歷程美術協会」の再生というべき1949年の「パンリアル美術協会」誕生までを視野におさめた。出品作品84点の中には、新しく所在が判明し初公開となる作品や、関連作家の代表作品も数多く含まれる。広島出身の船田玉樹や丸木位里といった作家を含め、終戦をはさむ激動の時代の中で、「日本画」がいかなる表現を追求してきたか、その創作の軌跡を貴重な資料もあわせて展示することによって浮き彫りにした。

(本展担当者：永井 明生)

関連事業

- (1) シンポジウム (広島県立美術館友の会共催)
日 時：2月27日(日) 13:30～
パネリスト：山野英嗣 (京都国立近代美術館学芸課長)
菊屋吉生 (山口大学教授)
天野一夫 (豊田市美術館チーフキュレーター)

演 題：「前衛『日本画』の軌跡」

会 場：地階講堂

聴講者：75人

- (2) よくわかる解説付き『「日本画」の前衛展』鑑賞会

日 時：3月5日(土) 13:30～

講 師：永井明生 (当館主任学芸員)

会 場：地階講堂

聴講者：36人



- (3) 記念講演会（広島県立美術館友の会共催）
日 時：3月6日(日) 13:30～
講 師：船田奇岑（絵師〔Artist〕Thereminist）
演 題：「父・船田玉樹」
会 場：地階講堂
聴講者：170人

- (4) 美術講座
日 時：3月12日(土) 13:30～
講 師：永井明生（当館主任学芸員）
演 題：「歷程美術協会と広島」
会 場：地階講堂
聴講者：25人

- (5) ギャラリートーク
日 時：2月25日(金)、3月11日(金)、25日(金) 各回11:00～
講 師：永井明生（当館主任学芸員）
会 場：3階企画展示室
参加者：1回目／15人 2回目／30人 3回目／30人



主要関連番組

- (1) 中国放送
報道 2/22 開幕のニュース（昼・夕）
(2) ふれあいチャンネル（ケーブルテレビ）
「ア・ミュージアムレター」 2/28～4/4 随時（1日平均3回放映）
(3) HI-CAT（ケーブルテレビ）
「ぐるあそ」 3/14～3/20 各4回（8:30～、11:30～、16:00～、21:30～）

主要関連記事

- (1) 中国新聞
1/16 社告：朝刊二社面
2/9 ちゅーピーくらぶ招待券プレゼント：朝刊ふれあい面
2/19 特集：朝刊10段
2/22 開会式後記事：夕刊三面
2/23 開会式後記事：朝刊一社面
2/23 ちゅーピーくらぶ美術サロン募集：朝刊ふれあい面
3/4 事業ガイド：朝刊事業PR面
3/11 船田玉樹講演会：朝刊文化面
3/17 歷程美術協会と広島：朝刊文化面
(2) 雑誌・情報紙等
・ Cue 2/11、3/18
・ 月刊ウェンディ広島 3月号
・ 不動産ニュース 3月号
・ 不動産ニュース&スマイミー 3/10、3/25
・ いわみりびえ〜る 2/13
・ 月刊タウン情報とらいあんぐる 3月号
・ Wink広島 3月号
・ 美術屋百兵衛 第16号
・ パスポート 3月号

- ・色絵馬（広島県立美術館友の会会報） 第54号
- ・原爆の図丸木美術館ニュース 第104号
- ・視る（京都国立近代美術館ニュース） 第450号

カタログ内容

ごあいさつ

謝辞

「日本画」の前衛 1938－1949（山野英嗣）

歷程美術協会の結成と変容～離脱と再建の二つの流れ（永井明生）

〔図版〕

- I. 「日本画」前衛の誕生
- II. 前衛集団「歷程美術協会」の軌跡
- III. 「洋画」との交錯、「日本画と洋画」のはざまに
- IV. 戦禍の記憶
- V. 戦後の再生、「パンリアル」結成への道

出品資料

出品リスト

出品作家紹介

「日本画」の前衛 1938－1949 関連年表（川井遊木+山野英嗣）

「歷程美術協会」目録再録及び参考図版

展覧会巡回先

京都国立近代美術館 平成22年 9 月 3 日～10月17日

東京国立近代美術館 平成23年 1 月 8 日～ 2 月13日

所蔵作品展

当館 2 階の常設展示スペース「所蔵作品展」では、展示室ごとに年 4 回（第 3 室は 8 回）の展示替えを行い、次のようにテーマを掲げて、当館所蔵作品を幅広く公開した。4 期では、彫刻展示スペースおよび第 2～4 室で「『日本画』の前衛展によせて」と冠した関連展示を開催した。

入場者数／79,953 人（322 日間）

彫刻展示スペース

ズルキフリー・B・ユソフ《王はレダン山の王女との結婚を望んだ》 平成22年4月20日(火)～7月4日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	ズルキフリー・B・ユソフ	(1962～)	王はレダン山の王女との結婚を望んだ	1994年	高さ249	木、布、金属など	1点	アジア競技大会芸術展示「アジアの心とかたち」

佐藤敏のやきものワールド 一天衣無縫変幻自在 平成22年7月6日(火)～10月24日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	佐藤 敏	(昭和11・1936～)	MAN・面・MAN	1971(昭和46)年	高さ45.0 32.0×37.0	陶	1点
2	佐藤 敏		バットマン	1971(昭和46)年	高さ42.0 29.0×34.0	陶	1点
3	佐藤 敏		南の少女	1978(昭和53)年	高さ78.0 39.0×10.0	陶	1点
4	佐藤 敏		レッドマスク	1983(昭和58)年	高さ53.0 8.5×50.0	陶、金属	1点
5	佐藤 敏		四角い月	1988(昭和63)年	高さ15.0 40.0×230.0	陶、金属	1点
6	佐藤 敏		作品 88	1988(昭和63)年	長さ78.7	陶、金属	1点

彫刻家 ^{こだいら ゆ た か} 小平 胖可 平成22年10月26日(火)～平成23年1月30日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	小平 胖可	(昭和19・1944～平成15・2003)	椅子と少女	昭和54・1979年	高さ35	樹脂	1点	第31回広島県美術展
2	小平 胖可		1 2 3 の女	昭和56・1981年	高さ50	樹脂	1点	第10回広島彫塑会展
3	小平 胖可		路ゆく想	平成 5・1993年	高さ183	樹脂	1点	第25回日展特選
4	小平 胖可		向かい	平成 9・1997年	高さ25	テラコッタ	1点	広島日展会代表作家展
5	小平 胖可		卯月飛騨	平成10・1998年	高さ162	樹脂	1点	第74回白日会展
6	小平 胖可		カイツブリの郷岸	平成11・1999年	高さ159	樹脂	1点	第75回白日会展吉田賞
7	小平 胖可		一人の春衣	平成13・2001年	高さ178	樹脂	1点	第77回白日会展
8	小平 胖可		ゆくえー夢のあとー	平成13・2001年	高さ178	樹脂	1点	第31回日本彫刻会展
9	小平 胖可		春の日の真澄の中にー誕ー	平成14・2002年	高さ167	樹脂	1点	第78回白日会展

「木」を彫るということ ^{ひらくしでんちゅう えんつばかつぞう} 平櫛田中と圓鰐勝三 平成23年2月1日(火)～4月17日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	平櫛 田中	(明治 5・1872～昭和54・1979)	落葉	大正 2・1913年	高さ74.5	木	1点	第 7 回文展
2	平櫛 田中		西山逍遙	昭和32・1957年	高さ62.5	木・彩色	1点	
3	平櫛 田中		五柳先生	昭和35・1960年	高さ51.8	木・彩色	1点	
4	圓鰐 勝三	(明治38・1905～平成15・2003)	面	昭和40・1965年	高さ130	木・彩色	1点	第13回日彫展
5	圓鰐 勝三		ムーランルージュの夜	昭和50・1975年	高さ91	木・金属・樹脂・彩色	1点	
6	圓鰐 勝三		ページェント	昭和54・1979年	高さ116	木・銅板	1点	第11回改組日展
7	圓鰐 勝三		白い花	昭和57・1982年	高さ120	木・銅板・彩色	1点	第12回日彫展
8	圓鰐 勝三		月夜の僧	昭和60・1985年	高さ86	木・銅板・彩色	1点	第17回改組日展

第1室

サルバドール・ダリ《マルドロールの歌》 平成22年4月20日(火)～7月4日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	ライオネル・ファイニンガー	(1871～1956)	海辺の夕暮	1927年	45.0×77.0	画布・油彩	1面
2	ジュリオ・ゴンザレス	(1876～1942)	人物(鏡の前の女)	1934年	高さ51.5	ブロンズ	1点
3	フランシス・ピカビア	(1879～1953)	アンビトリテ	1935年頃	92.0×73.5	画布・油彩	1面
4	アレクサンダー・カーノルト	(1881～1931)	静物	1925年	80.0×101.0	画布・油彩	1面
5	エーリッヒ・ヘッケル	(1883～1970)	木彫のある静物	1913年	70.5×60.7	画布・油彩	1面
6	アンリ・ローランス	(1885～1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921年	高さ36.9	テラコッタ	1点
7	ジャン(ハンス)・アルプ	(1887～1965)	目覚め	1938年(1983年鑄造)	高さ47.5	ブロンズ	1点
8	トーマス・ハート・ベントン	(1889～1975)	禁酒法の取締まり	1925年頃	40.6×45.7	画布・油彩	1面
9	マン・レイ	(1890～1976)	解剖台の上でシンと蝙蝠傘が偶然出会ったように美しい	1933年	24.9×37.8	写真	1面
10	マン・レイ		シュルレアリスム展におけるサルバドール・ダリのオブジェ	1936年	26.0×21.2	写真	1面
11	マックス・エルンスト	(1891～1976)	オイディプスI	1934年(1992年鑄造)	高さ62.0	ブロンズ	1点
12	マックス・エルンスト		オイディプスII	1934年(1992年鑄造)	高さ66.0	ブロンズ	1点
13	ベン・ニコルソン	(1894～1982)	1933(絵画)	1933年	73.7×90.8	板・ジェッソ・油彩	1面
14	ルネ・マグリット	(1898～1967)	人間嫌いのたち	1942年	54.0×73.0	画布・油彩	1面
15	ヘンリー・ムーア	(1898～1986)	弦のある形	1939年	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
16	アレクサンダー・コールダー	(1898～1976)	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936年	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
17	バーバラ・ヘップワース	(1903～1975)	ネステイング・ストーンズ	1937年	高さ19.0	大理石	1点
18	イサム・ノグチ	(1904～1988)	追想	1944年(1983～84年鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点
19	サルバドール・ダリ	(1904～1989)	マルドロールの歌	1934年	各32.5×25.0	紙・エッチング・挿画本	30面
20	サルバドール・ダリ		ヴィーナスの夢	1939年	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面

マン・レイの肖像写真 平成22年7月6日(火)～10月24日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	ライオネル・ファイニンガー	(1871～1956)	海辺の夕暮	1927年	45.0×77.0	画布・油彩	1面
2	ジュリオ・ゴンザレス	(1876～1942)	人物(鏡の前の女)	1934年	高さ51.5	ブロンズ	1点
3	フランシス・ピカビア	(1879～1953)	アンビトリテ	1935年頃	92.0×73.5	画布・油彩	1面
4	アレクサンダー・カーノルト	(1881～1939)	静物	1925年	80.0×101.0	画布・油彩	1面
5	エーリッヒ・ヘッケル	(1883～1970)	木彫のある静物	1913年	70.5×60.7	画布・油彩	1面
6	アンリ・ローランス	(1885～1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921年	高さ36.9	テラコッタ	1点
7	ジャン(ハンス)・アルプ	(1887～1966)	目覚め	1938年(1983年鑄造)	高さ47.5	ブロンズ	1点
8	トーマス・ハート・ベントン	(1889～1975)	禁酒法の取締まり	1925年頃	40.6×45.7	画布・油彩	1面
9	マン・レイ	(1890～1976)	サルバドール・ダリ	1929～1931年	28.7×22.6	写真	1面
10	マン・レイ		ヴェールをかぶったキキ・ド・モンパルナス	1922年	35.8×26.0	写真	1面
11	マン・レイ		エティエンヌ・ド・ボーモン伯爵邸での仮装舞踏会 ビカソとオルガ	1924年	29.0×22.7	写真	1面
12	マン・レイ		ガートルード・スタイン	1926年	30.7×23.9	写真	1面
13	マン・レイ		アーノルト・シェーンバルク	1926年	29.1×22.3	写真	1面
14	マン・レイ		アンドレ・ブルトン／ソラリゼーション	1930年	30.3×24.3	写真	1面
15	マン・レイ		カサッティ侯爵夫人／わが魂の肖像	1930年	29.2×21.2	写真	1面
16	マン・レイ		ジョアン・ミロ	1930年	28.8×22.7	写真	1面
17	マン・レイ		パブロ・ピカソ	1932年	29.3×20.5	写真	1面
18	マン・レイ		ジョルジュ・ブラック／ソラリゼーション	1933年	28.8×22.5	写真	1面
19	マン・レイ		アルベルト・ジャコメッティ／ソラリゼーション	1934年頃	38.7×22.0	写真	1面
20	マン・レイ		ドラ・マール	1936年	28.5×21.7	写真	1面

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
21	マックス・エルンスト	(1891～1976)	オイディプスI	1934年(1992年鑄造)	高さ62.0	ブロンズ	1点
22	マックス・エルンスト		オイディプスII	1934年(1992年鑄造)	高さ66.0	ブロンズ	1点
23	ベン・ニコルソン	(1894～1982)	1933 (絵画)	1933年	73.7×90.8	板・ジェツツ・油彩	1面
24	ヘンリー・ムーア	(1898～1986)	弦のある形	1939年	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
25	ルネ・マグリット	(1898～1967)	人間嫌いだち	1942年	54.0×73.0	画布・油彩	1面
26	アレクサンダー・コールドー	(1898～1976)	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936年	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
27	ベン・シャーン	(1898～1969)	四人の検事	1931～1932年	24.8×37.5	板・グワッシュ	1面
28	ベン・シャーン		陪審員席	1932～1933年	41.9×58.4	紙・グワッシュ	1面
29	ベン・シャーン		強制収容所	1944年	61.0×61.0	ボード・テンペラ	1面
30	バーバラ・ヘップワース	(1903～1975)	ネスティング・ストーンズ	1937年	高さ19.0	大理石	1点
31	イサム・ノグチ	(1904～1988)	追想	1944年(1983～84年鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点
32	サルバドール・ダリ	(1904～1989)	ヴィーナスの夢	1939年	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面

マン・レイとマルセル・デュシャン 平成22年10月26日(火)～平成23年1月30日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	ライオネル・ファイニンガー	(1871～1956)	海辺の夕暮	1927年	45.0×77.0	画布・油彩	1面
2	ジュリオ・ゴンザレス	(1876～1942)	人物 (鏡の前の女)	1934年	高さ51.5	ブロンズ	1点
3	フランシス・ピカビア	(1879～1953)	アンビトリテ	1935年頃	92.0×73.5	画布・油彩	1面
4	アレクサンダー・カーノルト	(1881～1939)	静物	1925年	80.0×101.0	画布・油彩	1面
5	エーリッヒ・ヘッケル	(1883～1970)	木彫のある静物	1913年	70.5×60.7	画布・油彩	1面
6	アンリ・ローランス	(1885～1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921年	高さ36.9	テラコッタ	1点
7	ジャン(ハンス)・アルプ	(1887～1966)	目覚め	1938年(1983年鑄造)	高さ47.5	ブロンズ	1点
8	トーマス・ハート・ベントン	(1889～1975)	禁酒法の取締まり	1925年頃	40.6×45.7	画布・油彩	1面
9	マン・レイ	(1890～1976)	マルセル・デュシャンのレディ・メイド「塩乾燥器」		27.0×37.7	写真	1面
10	マン・レイ		「隣りあう金属製の水車のある種」の後ろのマルセル・デュシャン	1917年	22.5×30.4	写真	1面
11	マン・レイ		「Tu m'」のあるキャサリン・ドライヤー婦人の書斎	1919年	37.6×27.4	写真	1面
12	マン・レイ		マルセル・デュシャン	1919年	37.5×27.7	写真	1面
13	マン・レイ		剃髪したマルセル・デュシャン	1919年	37.5×27.1	写真	1面
14	マン・レイ		埃の培養	1920年	21.1×37.5	写真	1面
15	マン・レイ		アトリエのマルセル・デュシャン	1920年	35.7×26.0	写真	1面
16	マン・レイ		マルセル・デュシャンのアトリエ／回転ガラス板	1920年	26.7×22.6	写真	1面
17	マン・レイ		マルセル・デュシャンの作品「美しい吐息」	1920年	37.8×27.0	写真	1面
18	マン・レイ		ローズ・セラヴィー (マルセル・デュシャン)	1921年	32.4×24.6	写真	1面
19	マン・レイ		剃髪	1921年	30.2×24.1	写真	1面
20	マン・レイ		チェスをするマルセル・デュシャンとラウル・ド・ルシー	1924年	22.3×23.5	写真	1面
21	マックス・エルンスト	(1891～1976)	オイディプスI	1934年(1992年鑄造)	高さ62.0	ブロンズ	1点
22	マックス・エルンスト		オイディプスII	1934年(1992年鑄造)	高さ66.0	ブロンズ	1点
23	ベン・ニコルソン	(1894～1982)	1933 (絵画)	1933年	73.7×90.8	板・ジェツツ・油彩	1面
24	ヘンリー・ムーア	(1898～1986)	弦のある形	1939年	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
25	ルネ・マグリット	(1898～1967)	人間嫌いだち	1942年	54.0×73.0	画布・油彩	1面
26	アレクサンダー・コールドー	(1898～1976)	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936年	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
27	ベン・シャーン	(1898～1969)	強制収容所	1944年	61.0×61.0	ボード・テンペラ	1面
28	バーバラ・ヘップワース	(1903～1975)	ネスティング・ストーンズ	1937年	高さ19.0	大理石	1点
29	イサム・ノグチ	(1904～1988)	追想	1944年(1983～84年鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点
30	サルバドール・ダリ	(1904～1989)	ヴィーナスの夢	1939年	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面

マックス・エルンスト《博物誌》 平成23年2月1日(火)～4月17日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	ライオネル・ファイニンガー	(1871～1956)	海辺の夕暮	1927年	45.0×77.0	画布・油彩	1面
2	ジュリオ・ゴンザレス	(1876～1942)	人物(鏡の前の女)	1934年	高さ51.5	ブロンズ	1点
3	フランシス・ピカビア	(1879～1953)	アンビトリテ	1935年頃	92.0×73.5	画布・油彩	1面
4	アレクサンダー・カーノルト	(1881～1939)	静物	1925年	80.0×101.0	画布・油彩	1面
5	エーリッヒ・ヘッケル	(1883～1970)	木彫のある静物	1913年	70.5×60.7	画布・油彩	1面
6	アンリ・ローランス	(1885～1954)	イヤリングをつけた女の顔	1921年	高さ36.9	テラコッタ	1点
7	ジャン(ハンス)・アルプ	(1887～1966)	目覚め	1938年(1983年鑄造)	高さ47.5	ブロンズ	1点
8	トーマス・ハート・ベントン	(1889～1975)	禁酒法の取締まり	1925年頃	40.6×45.7	画布・油彩	1面
9	マックス・エルンスト	(1891～1976)	オイディプスI	1934年(1992年鑄造)	高さ62.0	ブロンズ	1点
10	マックス・エルンスト		オイディプスII	1934年(1992年鑄造)	高さ66.0	ブロンズ	1点
11	マックス・エルンスト		博物誌	1926年	各49.4×33.5	紙・コラタイプ34枚組版画集	34面
12	ベン・ニコルソン	(1894～1982)	1933(絵画)	1933年	73.7×90.8	画布・油彩	1面
13	ヘンリー・ムーア	(1898～1986)	弦のある形	1939年	高さ30.5	ブロンズ・弦	1点
14	ルネ・マグリット	(1898～1967)	人間嫌いだち	1942年	54.0×73.0	画布・油彩	1面
15	アレクサンダー・コールドー	(1898～1976)	ヴァーティカル・ホワイト・フレーム	1936年	高さ265.4	木・金属・ワイヤー	1点
16	ベン・シャーン	(1898～1969)	強制収容所	1944年	61.0×61.0	ボード・テンペラ	1面
17	バーバラ・ヘップワース	(1903～1975)	ネステイング・ストーンズ	1937年	高さ19.0	大理石	1点
18	イサム・ノグチ	(1904～1988)	追想	1944年(1983～84年鑄造)	高さ125.7	ブロンズ	1点
19	サルバドール・ダリ	(1904～1989)	ヴィーナスの夢	1939年	243.8×487.6	画布・油彩・パネル装	1面

第2室

紙に描くー水彩・版画を中心に 平成22年4月20日(火)～7月4日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	小林 千古	(明治3・1870～明治44・1911)	婦人像(正面)	明治26・1893年	47.5×40.0	鉛筆・コンテ・紙	1面
2	小林 千古		男子像(斜)	明治27・1894年	45.5×36.0	鉛筆・コンテ・紙	1面
3	小林 千古		婦人像	明治27・1894年	46.0×36.0	鉛筆・コンテ・紙	1面
4	小林 千古		装飾画下絵	明治34・1901年	48.2×65.0	パステル・紙	1面
5	小林 千古		広島夏の川	明治36・1903年	32.8×50.0	パステル・紙	1面
6	南 薫造	(明治16・1883～昭和25・1950)	インドの港	明治40・1907年	31.3×24.4	水彩・紙	1面
7	南 薫造		女	明治40・1907年	35.5×25.3	鉛筆・紙	1面
8	南 薫造		滞舟	明治41・1908年	24.9×35.0	水彩・紙	1面
9	南 薫造		水辺彩屋	昭和14・1939年	24.2×32.6	水彩・紙	1面
10	南 薫造		森		43.6×32.0	水彩・紙	1面
11	永瀬 義郎	(明治24・1891～昭和53・1978)	花	昭和3・1928年	34.3×21.1	紙・多色木版	1面
12	永瀬 義郎		東洋の旅I「上海所見」	昭和4・1929年	30.0×22.5	紙・多色木版	1面
13	永瀬 義郎		浪漫(3)《水の妖精》	昭和53・1978年	72.7×54.3	紙・混合技法	1面
14	中西 利雄	(明治33・1900～昭和23・1948)	中野風景	昭和13・1938年	40.9×53.0	水彩・紙	1面
15	中西 利雄		マドモアゼルS嬢	昭和13・1938年	62.5×48.4	水彩・紙	1面
16	名柄 正之	(明治36・1903～平成9・1997)	競馬場(工事中)	昭和6・1931年	38.0×43.0	水彩・紙	1面
17	名柄 正之		風景(宇品線風景)	昭和14・1939年	49.0×64.0	水彩・紙	1面
18	名柄 正之		風景(鉄道駅)	昭和15・1940年	52.0×65.0	水彩・紙	1面
19	顰 光	(明治40・1907～昭和21・1946)	ラオコン	大正14・1925年頃	58.5×45.5	紙・木炭	1面
20	顰 光		瓶花	昭和15・1940年	80.5×55.7	紙・淡彩	1面
21	顰 光		二重像	昭和16・1941年	24.5×20.0	墨・紙	1面

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
22	鬘 光		かぶと虫	昭和16・1941年	18.0×71.0	墨・紙	1面
23	鬘 光		娘	昭和16・1941年	79.0×81.5	紙・淡彩	1面
24	細田 政義	(明治41・1908～平成11・1999)	太古の魚		20.0×30.0	銅版 紙・インク	1面
25	細田 政義		No. 50-S (土偶)	昭和39・1964年	9.2×15.8	銅版 紙・インク	1面
26	細田 政義		L-79	昭和41・1966年	28.5×36.5	銅版 紙・インク	1面
27	水船 六洲	(明治45・1912～昭和55・1980)	アネモネ	昭和20～23・1945～48年頃	37.2×24.7	多色木版 インク・紙	1面
28	水船 六洲		旗 (Flag)	昭和35・1960年	43.8×65.0	多色木版 インク・紙	1面
29	水船 六洲		朱い実 (Red Fruits)	昭和44・1969年	23.5×45.5	多色木版 インク・紙	1面
30	菅井 汲	(大正8・1919～平成8・1996)	NO TITLE作図パターン			インク・紙	
31	菅井 汲		パターン資料			インク・紙	
32	菅井 汲		パターン試作			インク・紙 他	
33	菅井 汲		MAIN A	昭和48・1973年	38.0×38.1	シルクスクリーン インク・紙	1面
34	菅井 汲		PORTRAIT	昭和49・1974年	75.4×51.4	シルクスクリーン インク・紙	1面
35	深沢 幸雄	(大正13・1924～)	月下の対話	昭和60・1985年	69.6×36.4	腐食銅版 インク・紙	1面
36	吉原 英雄	(昭和6・1931～平成19・2007)	版画集『ベトナムショップ』より ガラスの向う側	昭和54・1979年	35.7×29.0	腐食銅版 インク・紙	1面
37	吉原 英雄		版画集『ベトナムショップ』より プチベトナム	昭和54・1979年	35.7×29.0	腐食銅版 インク・紙	1面
38	吉原 英雄		版画集『ベトナムショップ』より 蟻の観察	昭和54・1979年	22.2×36.5	腐食銅版 インク・紙	1面
39	小林 敬生	(昭和19・1944～)	蘇生の刻－白い朝・92・5	平成4・1992年	108.0×142.0	木口木版 インク・紙	1面

水辺の情景 平成22年7月6日(火)～10月24日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	小林 千古	(明治3・1870～明治44・1911)	佛・伊風景小スケッチ	明治33・1900～明治34・1901年	16.6×12.0	油彩・厚紙	1面	
2	小林 千古		佛・伊風景小スケッチ	明治33・1900～明治34・1901年	17.8×11.9	油彩・板	1面	
3	小林 千古		巖島大元公園	明治36・1903年	46.2×38.4	油彩・画布	1面	
4	小林 千古		華巖の滝	明治39・1906年	60.8×41.0	油彩・画布	1面	
5	南 薫造	(明治16・1883～昭和25・1950)	水辺	昭和3・1928年	30.8×40.9	油彩・板	1面	
6	南 薫造		磯	昭和15・1940年	32.0×40.2	油彩・画布	1面	
7	南 薫造		犬吠岬	昭和15・1940年	65.4×80.3	油彩・画布	1面	
8	南 薫造		江湾	昭和24・1949年	50.0×60.6	油彩・画布	1面	
9	南 薫造		蒲刈島風景	昭和24・1949年	38.0×45.5	油彩・画布	1面	
10	小林 和作	(明治21・1888～昭和49・1974)	海	昭和49・1974年	52.0×100.0	油彩・画布	1面	
11	川口 軌外	(明治25・1892～昭和41・1966)	水浴の人々	昭和35・1960年	116.0×80.0	油彩・画布	1面	第4回現代日本美術展
12	中川 一政	(明治26・1893～平成3・1991)	福浦風景	昭和36・1961年	60.5×90.9	油彩・画布	1面	
13	田中 万吉	(明治28・1895～昭和20・1945)	川ととうもろこし畑	大正5・1916年	49.8×60.6	油彩・画布	1面	
14	田中 万吉		京橋川畔	昭和12・1937年頃	53.6×65.3	油彩・画布	1面	
15	田中 万吉		橋のある風景		36.0×45.5	油彩・板	1面	
16	名井 万亀	(明治29・1896～昭和51・1976)	第5福竜丸	昭和29・1954年	55.5×71.0	油彩・画布	1面	
17	名井 万亀		ビキニ爆発	昭和29・1954年	60.9×40.9	油彩・画布	1面	
18	名井 万亀		地獄の港	昭和33・1958年	50.1×65.2	油彩・画布	1面	
19	名井 万亀		宮古市浄土が濱	昭和48・1973年	112.0×162.8	油彩・画布	1面	
20	国盛 義篤	(明治30・1897～昭和26・1951)	江の浦風景	昭和15・1940年	60.4×72.7	油彩・画布	1面	
21	森野 圓象	(明治36・1903～平成元・1989)	静かな海	昭和50・1975年	45.5×54.5×200.0	木	1軀	第7回改組日展
22	太田 忠	(明治41・1908～昭和46・1971)	池のある風景	昭和31・1956年	130.3×162.1	油彩・画布	1面	第2回現代日本美術展
23	木村 武男	(明治43・1910～昭和60・1985)	海の記録	昭和42・1967年	145.5×112.1	油彩・画布	1面	第33回独立展
24	木村 武男		貝殻	昭和33・1958年	116.7×80.3	油彩・画布	1面	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
25	大野 五郎	(明治43・1910～平成18・2006)	あかさびた風景	昭和28・1953年	61.5×116.5	油彩・画布	1面	
26	寺田 政明	(明治45・1912～平成元・1989)	二つの道	昭和29・1954年	116.9×91.2	油彩・画布	1面	第18回自由美術展
27	菅井 汲	(大正8・1919～平成8・1996)	SABLE NO.A	昭和45・1970年	235.5×235.5	アクリル・画布	1面	
28	菅井 汲		SABLE NO.B	昭和45・1970年	250.0×200.0	アクリル・画布	1面	
29	菅井 汲		無題	昭和45・1970年	162.5×130.5	アクリル・画布	1面	
30	菅井 汲		河	昭和62・1987年	157.0×197.0	アクリル・画布	1面	

没後60年 日本の印象派・南薫造の軌跡

平成22年10月26日(火)～平成23年1月30日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	小林 千古	(明治3・1870～明治44・1911)	ミルク・メイド	明治30・1897年	69.0×50.8	油彩・画布	1面	第10回白馬会展
2	小林 千古		茶器と梅花	明治36・1903年	18.5×65.5	油彩・画布	1面	第10回白馬会展
3	小林 千古		自画像	明治36～38・1903～05年頃	67.5×58.0	油彩・画布	1面	
4	南 薫造	(明治16・1883～昭和25・1950)	美校一隅	明治37・1904年	45.6×60.6	油彩・画布	1面	
5	南 薫造		赤いトルコ帽の少年	明治37・1904年	29.8×22.4	油彩・キャンバスボード	1面	
6	南 薫造		花	明治39・1906年	45.5×60.6	油彩・画布	1面	
7	南 薫造		ロンドンの裏庭	明治40・1907年	37.6×27.2	水彩・紙	1面	
8	南 薫造		衣裳	明治40・1907年	65.2×50.2	油彩・画布	1面	
9	南 薫造		英国紳士(2)		55.1×45.5	油彩・画布	1面	
10	南 薫造		モルトン村の農家	明治41・1908年	33.0×47.8	水彩・紙	1面	
11	南 薫造		赤いマント	明治41・1908年	35.4×24.8	水彩・紙	1面	
12	南 薫造		ノースモルトン風景	明治41・1908年	61.0×76.5	油彩・画布	1面	
13	南 薫造		白壁の農家	明治41・1908年	75.5×101.0	油彩・画布	1面	
14	南 薫造		風景	明治41・1908年	25.3×35.5	水彩・紙	1面	
15	南 薫造		坐せる女	明治41・1908年	112.1×83.3	油彩・画布	1面	第4回文展
16	南 薫造		ロンドン河畔	明治41・1908年	73.5×91.3	油彩・画布	1面	
17	南 薫造		うしろむき	明治42・1909年	53.0×36.4	水彩・紙	1面	
18	南 薫造		小童	明治42・1909年	60.5×49.8	油彩・画布	1面	
19	南 薫造		黄色い花	明治42・1909年	60.0×45.0	油彩・画布	1面	
20	南 薫造		冬枯れ	明治42・1909年	31.0×40.7	油彩・板	1面	
21	南 薫造		羊飼ひ	明治42・1909年	30.0×45.5	水彩・紙	1面	
22	南 薫造		石割り	明治44・1911年	60.5×45.5	油彩・画布	1面	第6回文展
23	南 薫造		魚見	明治45/大正元・1912年頃	14.4×16.8	木版・紙	1面	
24	南 薫造		木影 (カルカッタ)	大正5・1916年	25.2×35.5	水彩・紙	1面	
25	南 薫造		沐浴	大正5・1916年	25.2×35.5	水彩・紙	1面	
26	南 薫造		アグラ	大正5・1916年	25.2×35.5	水彩・紙	1面	
27	南 薫造		タージマハール遠望	大正5・1916年	25.2×35.5	水彩・紙	1面	
28	南 薫造		ピアノ	大正10・1921年	103.0×83.1	油彩・画布	1面	平和記念東京博覧会
29	南 薫造		水辺	昭和3・1928年	30.8×40.9	油彩・板	1面	
30	南 薫造		風景 (新橋)	昭和5・1930年	31.0×41.0	油彩・板	1面	
31	南 薫造		雪の日	昭和15・1940年	45.0×60.4	油彩・キャンバスボード	1面	
32	南 薫造		磯	昭和15・1940年	32.0×40.2	油彩・画布	1面	
33	南 薫造		犬吠岬		65.4×80.3	油彩・画布	1面	
34	南 薫造		柘榴	昭和21・1946年頃	72.7×90.9	油彩・画布	1面	
35	南 薫造		曝書	昭和21・1946年	65.1×80.3	油彩・画布	1面	
36	南 薫造		ばら	昭和21・1946年	41.0×31.8	油彩・画布	1面	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
37	南 薫造		麦刈り	昭和22・1947年	53.0×72.8	油彩・画布	1面	
38	南 薫造		蒲刈島風景	昭和24・1949年	38.0×45.5	油彩・画布	1面	
39	巖 光	(明治40・1907～昭和21・1946)	コマサ (洋傘による少女)	昭和4・1929年	80.0×65.0	油彩・画布	1面	第7回槐樹社展
40	巖 光		帽子をかむる自画像	昭和18・1943年	60.0×50.0	油彩・画布	1面	
41	菅井 汲	(大正8・1919～平成8・1996)	無題 (筆・白1)	昭和32・1957年	25.5×5.0×6.0	筆・彩色・石膏	1本	
42	菅井 汲		無題 (筆・白2)	昭和35・1960年	34.5×9.5×6.5	筆・彩色・石膏	1本	
43	菅井 汲		無題 (筆・黒)	昭和35・1960年	33.0×9.0×6.0	筆・彩色・石膏	1本	

「日本画」の前衛展によせて

広島画壇の先鋭・山路商とその時代 平成23年2月1日(火)～4月17日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	小林 千古	(明治3・1870～明治44・1911)	自画像	明治36～38・1903～05年頃	67.5×58.0	油彩・画布	1面	
2	井上 完	(明治15・1882～昭和3・1928)	母と娘	大正9・1920年	130.0×97.0	油彩・画布	1面	
3	南 薫造	(明治16・1883～昭和25・1950)	ピアノ	大正10・1921年	103.0×83.1	油彩・画布	1面	平和記念東京博覧会
4	米山 利助	(明治18・1885～昭和44・1969)	風景	大正11・1922年	109.0×78.0	油彩・画布	1面	
5	田中 万吉	(明治28・1895～昭和20・1945)	川ととうもろこし畑	大正5・1916年	49.8×60.6	油彩・画布	1面	
6	大木 茂	(明治32・1899～昭和54・1979)	早春	大正12・1923年	72.5×90.3	油彩・画布	1面	
7	山路 商	(明治36・1903～昭和19・1944)	大連風景	昭和6・1931年	24.5×32.9	油彩・画布	1面	
8	山路 商		男 (眠れる)	昭和6・1931年頃	72.5×61.0	油彩・画布	1面	
9	山路 商		T型定規のある静物	昭和7・1932年	87.0×69.0	油彩・画布	1面	第6回全関西展
10	山路 商		マドモアゼルY	昭和7・1932年	73.0×52.0	油彩・画布	1面	
11	山路 商		干魚とレモン	昭和10・1935年	24.6×33.6	油彩・板	1面	
12	山路 商		犬とかたつむり	昭和12・1937年	80.1×116.4	油彩・画布	1面	
13	山路 商		柴野利秋氏の像	昭和12・1937年頃	40.7×31.7	油彩・画布	1面	第2回郷土物放作家展(72)
14	山路 商		人体		31.0×62.0	インク・紙	1面	
15	山路 商		ひまわり	1930年代末以降	23.4×33.0	インク・鉛筆・紙	1面	第2回郷土物放作家展(72)
16	山路 商		自画像	昭和17・1942年	26.0×19.2	油彩・板	1面	
17	山路 商		柿	昭和18・1943年	22.0×31.0	油彩・画布	1面	
18	山路 商		少女の像		22.6×15.8	油彩・画布	1面	
19	山路 商		ピエロ		33.8×24.6	油彩・紙	1面	
20	山路 商		自画像		38.6×27.2	鉛筆・紙	1面	
21	山路 商・灰谷 正夫		バラ		24.2×33.2	油彩・板	1面	
22	檜山 美雄	(明治38・1905～昭和53・1978)	黒帽の商二氏像	大正15/昭和元・1926年	28.2×22.1	インク・コンテ・紙	1面	
23	檜山 武夫	(明治39・1906～昭和7・1932)	陸橋	昭和6・1931年	91.0×91.0	油彩・画布	1面	第18回二科展
24	巖 光	(明治40・1907～昭和21・1946)	帽子をかむる自画像	昭和18・1943年	60.0×50.0	油彩・画布	1面	
25	巖 光		窓辺の花 (百合)	昭和19・1944年	71.0×59.0	油彩・画布	1面	
26	土屋 幸夫	(明治44・1911～平成8・1996)	落椿	昭和11・1936年	31.9×40.8	油彩・画布	1面	
27	岡部 繁夫	(明治45・1912～昭和44・1969)	卓上静物	昭和12・1937年	73.0×91.0	油彩・画布	1面	第23回広島県美術展
28	福井 芳郎	(明治45・1912～昭和49・1974)	蓮	昭和3・1928年	115.0×89.0	油彩・画布	1面	第9回帝展
29	上野 栄喜	(大正元・1912～昭和20・1945)	鳥剥製	昭和17・1942年	61.0×90.5	油彩・画布	1面	
30	辻 潔	(大正元・1912～昭和18・1943)	風景	昭和10・1935年	97.5×145.5	油彩・画布	1面	第5回独立展
31	岩岡 貞美	(大正2・1913～昭和20・1945)	耕丘	昭和19・1944年	119.5×71.0	油彩・画布	1面	第14回独立展
32	吉村 三郎	(大正3・1914～昭和20・1945)	満州風景	昭和7・1932年	116.5×78.7	油彩・画布	1面	
33	菅井 汲	(大正8・1919～昭和8・1996)	月へ旅立つ鬼	昭和38・1963年	162.0×130.2	アクリル・油彩・画布	1面	
34	菅井 汲		NATIONAL ROUTE	昭和39・1964年	195.0×130.0	アクリル・油彩・画布	1面	
35	菅井 汲		黒	昭和39・1964年	30.0×17.0×17.0	ブロンズ	1点	

第3室

緑の情景

平成22年4月13日(火)～5月16日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	田中 頼璋	(明治元・1868～昭和15・1940)	高士訪友図	大正3・1914年頃	241.0×142.0	絹本彩色・軸装	1 幅	
2	川合 玉堂	(明治6・1873～昭和32・1957)	溪村春麓図	明治40・1907年	150.5×85.0	絹本墨画彩色・額装	1 面	
3	土田 麦僊	(明治20・1887～昭和11・1936)	早春図		114.5×36.5	絹本彩色・軸装	1 幅	
4	森谷南人子	(明治22・1889～昭和56・1981)	初春閑村	昭和13・1938年	116.0×195.0	紙本彩色・額装	1 面	第2回新文展
5	金島 桂華	(明治25・1892～昭和49・1974)	芭蕉孔雀図	明治45・1912年	各168.0×375.5	絹本彩色・屏風	六曲一双	
6	児玉 希望	(明治31・1898～昭和46・1971)	暮春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1 面	第11回帝展
7	児玉 希望		飛泉淙々	昭和6・1931年	260.0×145.0	絹本彩色・額装	1 面	第12回帝展
8	児玉 希望		烟雨	昭和29・1954年	132.0×173.0	絹本彩色・額装	1 面	第10回日展
9	和高 節二	(明治31・1898～平成2・1990)	仔牛誕生	昭和45・1970年	158.3×263.2	紙本彩色・屏風	四曲一隻	
10	丸木 位里	(明治34・1901～平成7・1995)	池	昭和11・1936年	150.0×205.0	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第8回青龍社展
11	坂口 一草	(明治35・1902～平成9・1997)	清閑	昭和2・1927年	179.0×88.0	紙本彩色・軸装	1 幅	第14回院展
12	黒光 茂樹	(明治42・1909～平成5・1993)	青桐	昭和28・1953年	206.0×168.0	紙本彩色・額装	1 面	第9回日展
13	奥田 元宋	(明治45・1912～平成15・2003)	青山白雲	昭和62・1987年	180.3×124.4	紙本彩色・額装	1 面	幽玄讃歌 奥田元宋展
14	塩出 英雄	(明治45・1912～平成13・2001)	双鳩	昭和11・1936年	168.5×186.5	紙本彩色・屏風	二曲一隻	
15	塩出 英雄		清泉	昭和28・1953年	231.1×189.6	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第38回院展
16	塩出 英雄		亭橋	昭和50・1975年	174.4×242.4	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第60回院展
17	平山 郁夫	(昭和5・1930～平成21・2009)	家路	昭和28・1953年	146.0×206.0	紙本彩色・額装	1 面	第38回院展

和高節二 一本画と素描

平成22年5月18日(火)～6月27日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	和高 節二	(明治31・1898～平成2・1990)	母子	大正10・1921年	61.0×73.0	紙本彩色・額装	1 面	
2	和高 節二		農婦	昭和3・1928年	85.5×117.8	紙本彩色・額装	1 面	
3	和高 節二		娘旅芸人	昭和3・1928年	173.5×184.6	紙本彩色・屏風	二曲一隻	
4	和高 節二		田植時	昭和4・1929年	106.0×147.0	紙本彩色・額装	1 面	
5	和高 節二		早乙女	昭和4・1929年	212.5×203.2	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第10回帝展
6	和高 節二		村の消防夫	昭和7・1932年	189.3×108.6	紙本彩色・額装	1 面	
7	和高 節二		村の子共	昭和8・1933年	177.5×184.6	紙本彩色・屏風	二曲一隻	昭和8年度日本画会展
8	和高 節二		売魚婦	昭和8・1933年	158.9×88.7	紙本彩色・額装	1 面	
9	和高 節二		薪を入れる娘	昭和10・1935年	158.7×150.7	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第1回再興中央美術展
10	和高 節二		仔牛	昭和10・1935年	65.0×91.0	紙本墨画淡彩・額装	1 面	
11	和高 節二		秋日和	昭和13・1938年	155.5×171.0	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第1回現代美術展
12	和高 節二		仔牛と村女	昭和14・1939年	132.6×248.4	紙本彩色・屏風	四曲一隻	第26回院展
13	和高 節二		ひなた	昭和30・1955年	83.0×96.4	紙本彩色・額装	1 面	第7回広島県美術展
14	和高 節二		仔牛誕生	昭和45・1970年	158.3×263.2	紙本彩色・屏風	四曲一隻	
15	和高 節二		妻の像	大正8・1919年	40.3×33.5	紙・木炭・額装	1 面	
16	和高 節二		娘の顔1	大正13・1924年	37.8×51.5	紙・鉛筆・コンテ・額装	1 面	
17	和高 節二		娘の顔2	大正13・1924年	34.0×40.7	紙・鉛筆・コンテ・額装	1 面	
18	和高 節二		仔牛	昭和15・1940年	37.6×50.0	紙・鉛筆・墨・額装	1 面	
19	和高 節二		自画像1		36.4×28.6	紙・鉛筆・木炭・額装	1 面	
20	和高 節二		村娘		30.4×36.5	紙・鉛筆・額装	1 面	
21	和高 節二		糸を紡ぐ女		32.7×50.6	紙・鉛筆・額装	1 面	
22	和高 節二		妹・ミツノの像		45.0×36.8	紙・コンテ・額装	1 面	
23	和高 節二		菅原氏像		35.8×33.5	紙・コンテ・額装	1 面	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
24	和高 節二		写真館		36.0×40.2	紙・鉛筆・淡彩・額装	1面	
25	児玉 希望	(明治31・1898～昭和46・1971)	山とよむ	昭和7・1932年	257.0×175.0	絹本彩色・額装	1面	第13回日展
26	奥田 元宋	(明治45・1912～平成15・2003)	室戸	昭和27・1952年	100.0×181.5	紙本彩色・額装	1面	第8回日展
27	塩出 英雄	(明治45・1912～平成13・2001)	春山	昭和44・1969年	176.0×242.0	紙本彩色・額装	1面	第54回院展
28	山中 雪人	(大正9・1920～平成15・2003)	雲岡仏	昭和61・1986年	170.0×214.5	紙本彩色・額装	1面	第71回院展
29	平山 郁夫	(昭和5・1930～平成21・2009)	波斯黄堂旧址	昭和49・1974年	166.8×390.0	紙本彩色・屏風	六曲一隻	第59回院展

平山郁夫と《広島生変図》Part I 平成22年6月29日(火)～8月22日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	平山 郁夫	(昭和5・1930～平成21・2009)	家路	昭和28・1953年	146.0×206.0	紙本彩色・額装	1面	第38回院展
2	平山 郁夫		内海の春	昭和29・1954年	145.0×208.0	紙本彩色・額装	1面	第39回院展
3	平山 郁夫		浅春	昭和30・1955年	181.0×200.0	紙本彩色・額装	1面	第40回院展
4	平山 郁夫		ひととき	昭和31・1956年	106.0×76.0	紙本彩色・額装	1面	第11回春の院展
5	平山 郁夫		ひととき (憩)	昭和31・1956年	180.0×197.0	紙本彩色・額装	1面	第41回院展
6	平山 郁夫		群像	昭和32・1957年	202.0×158.0	紙本彩色・額装	1面	第42回院展
7	平山 郁夫		母子	昭和34・1959年	116.0×68.0	紙本彩色・額装	1面	第14回春の院展
8	平山 郁夫		天山南路 (昼)	昭和35・1960年	164.2×218.8	紙本彩色・額装	1面	
9	平山 郁夫		みのり	昭和36・1961年	152.0×60.0	紙本彩色・額装	1面	第16回春の院展
10	平山 郁夫		波斯黄堂旧址	昭和49・1974年	166.8×390.0	紙本彩色・額装	1面	第59回院展
11	平山 郁夫		広島生変図	昭和54・1979年	171.0×364.0	紙本彩色・額装	1面	第64回院展
12	平山 郁夫		黄河 (晨)	昭和61・1986年	171.2×364.6	紙本彩色・屏風	四曲一隻	第71回院展
13	平山 郁夫		巖島		44.0×49.0	紙本彩色・額装	1面	
14	平山 郁夫		アフガニスタンのラクダ	昭和54・1979年	34.0×50.0	紙本淡彩・額装	1面	
15	平山 郁夫		石仏 (炳靈寺石窟)	昭和54・1979年	40.0×32.0	紙本淡彩・額装	1面	
16	平山 郁夫		流砂月光	昭和60・1985年	34.0×50.0	紙・セリグラフ・額装	1面	
17	甲斐荘楠音	(明治27・1894～昭和53・1978)	横櫛	大正7・1918年	165.0×72.0	絹本彩色・額装	1面	第1回国画創作協会展
18	児玉 希望	(明治31・1898～昭和46・1971)	黎明	昭和9・1934年	191.0×178.0	絹本彩色・額装	1面	第15回帝展
19	奥田 元宋	(明治45・1912～平成15・2003)	柳鷺	昭和15・1940年	175.7×175.7	絹本彩色・額装	1面	第4回児玉希望画塾展
20	水谷 愛子	(大正13・1924～平成17・2005)	印度の人	昭和59・1984年	167.0×212.8	紙本彩色・額装	1面	第69回院展
21	神田三千枝	(大正13・1924～平成4・1992)	盛夏	昭和61・1986年	192.0×147.0	画布彩色・額装	1面	第71回院展

平山郁夫と《広島生変図》Part II 平成22年8月24日(火)～10月17日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	平山 郁夫	(昭和5・1930～平成21・2009)	家路	昭和28・1953年	146.0×206.0	紙本彩色・額装	1面	第38回院展
2	平山 郁夫		内海の春	昭和29・1954年	145.0×208.0	紙本彩色・額装	1面	第39回院展
3	平山 郁夫		浅春	昭和30・1955年	181.0×200.0	紙本彩色・額装	1面	第40回院展
4	平山 郁夫		ひととき	昭和31・1956年	106.0×76.0	紙本彩色・額装	1面	第11回春の院展
5	平山 郁夫		ひととき (憩)	昭和31・1956年	180.0×197.0	紙本彩色・額装	1面	第41回院展
6	平山 郁夫		群像	昭和32・1957年	202.0×158.0	紙本彩色・額装	1面	第42回院展
7	平山 郁夫		母子	昭和34・1959年	116.0×68.0	紙本彩色・額装	1面	第14回春の院展
8	平山 郁夫		天山南路 (昼)	昭和35・1960年	164.2×218.8	紙本彩色・額装	1面	
9	平山 郁夫		みのり	昭和36・1961年	152.0×60.0	紙本彩色・額装	1面	第16回春の院展
10	平山 郁夫		波斯黄堂旧址	昭和49・1974年	166.8×390.0	紙本彩色・額装	1面	第59回院展
11	平山 郁夫		広島生変図	昭和54・1979年	171.0×364.0	紙本彩色・額装	1面	第64回院展

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
12	平山 郁夫		黄河（晨）	昭和61・1986年	171.2×364.6	紙本彩色・屏風	四曲一雙	第71回院展
13	平山 郁夫		タイ族の娘（中国昆明）	昭和54・1979年	49.0×33.0	紙本淡彩・額装	1面	
14	平山 郁夫		三彩騎馬俑	昭和54・1979年	45.0×32.0	紙・石版・額装	1面	
15	平山 郁夫		大同雲崗石窟第二十窟	昭和54・1979年	46.2×39.0	紙・石版・額装	1面	
16	平山 郁夫		ガンダーラ仏	昭和56・1981年	37.0×27.0	紙・木版・額装	1面	
17	甲斐莊楠音	（明治27・1894～昭和53・1978）	横櫛	大正7・1918年	165.0×72.0	絹本彩色・額装	1面	第1回国画創作協会展
18	児玉 希望	（明治31・1898～昭和46・1971）	涅槃	昭和38・1963年	156.0×150.5	絹本彩色・額装	1面	第6回新日展
19	奥田 元宋	（明治45・1912～平成15・2003）	室戸	昭和27・1952年	100.0×181.5	紙本彩色・額装	1面	第8回日展
20	水谷 愛子	（大正13・1924～平成17・2005）	印度の人	昭和59・1984年	167.0×212.8	紙本彩色・額装	1面	第69回院展
21	神田三千枝	（大正13・1924～平成4・1992）	盛夏	昭和61・1986年	192.0×147.0	画布彩色・額装	1面	第71回院展

旅への憧憬 平成22年10月19日(火)～12月5日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1			宮島図	江戸時代	各149.9×355.6	紙本彩色・屏風	六曲一雙	
2	川端 玉章	（天保13・1842～大正2・1913）	ナイアガラ瀑布図	明治時代	32.0×58.0	紙本墨画彩色・額装	1面	
3	福田 恵一	（明治30・1897～昭和31・1956）	イスパニアに寄る常長	大正12・1923年	111.3×115.8	絹本彩色・軸装	1幅	日本美術展
4	児玉 希望	（明治31・1898～昭和46・1971）	浅春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1面	
5	児玉 希望		飛泉涼々	昭和6・1931年	260.0×145.0	絹本彩色・額装	1面	第12回帝展
6	児玉 希望		溪谷の秋	昭和18・1943年	153.5×69.0	絹本彩色・額装	1面	第7回児玉画塾展
7	児玉 希望		氷川	昭和30・1955年	208.0×171.0	絹本彩色・額装	1面	第11回日展
8	児玉 希望		山	昭和35・1960年	97.0×134.5	絹本彩色・額装	1面	第3回新日展
9	和高 節二	（明治31・1898～平成2・1990）	娘旅芸人	昭和3・1928年	173.5×184.6	紙本彩色・屏風	二曲一雙	
10	奥田 元宋	（明治45・1912～平成15・2003）	待月	昭和24・1949年	130.4×204.2	絹本彩色・額装	1面	第5回日展
11	奥田 元宋		泉響	昭和38・1963年	259.1×193.9	紙本彩色・額装	1面	第6回新日展
12	奥田 元宋		秋巒真如	昭和52・1977年	156.5×197.5	紙本彩色・額装	1面	第9回改組日展
13	塩出 秀雄	（明治45・1912～平成13・2001）	層嶺	昭和53・1978年	182.0×243.0	紙本彩色・屏風	二曲一雙	第63回院展
14	船田 玉樹	（大正元・1912～平成3・1991）	宇治の春	昭和29・1954年	180.0×242.0	紙本彩色・額装	1面	第39回院展
15	山中 雪人	（大正9・1920～平成15・2003）	雲岡仏	昭和61・1986年	170.0×214.5	紙本彩色・額装	1面	第71回院展
16	桑原 清明	（大正12・1923～平成19・2007）	巴峽の朝	昭和43・1968年	165.0×225.0	紙本彩色・額装	1面	第11回新日展
17	桑原 清明		十勝の月	昭和48・1973年	191.5×167.0	紙本彩色・額装	1面	第5回改組日展
18	水谷 愛子	（大正13・1924～平成17・2005）	くらしき	昭和43・1968年	165.0×212.0	紙本彩色・額装	1面	第53回院展
19	神田三千枝	（大正13・1924～平成4・1992）	タリンの丘	昭和47・1972年	223.0×171.0	画布彩色・額装	1面	第57回院展

ふるさとを描く 平成22年12月7日(火)～平成23年1月23日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1			厳島・鞍馬図	江戸時代	各153.5×340.0	絹本彩色・屏風	六曲一雙	
2	土田 麦僊	（明治20・1887～昭和11・1936）	早春図		114.5×36.5	絹本彩色・軸装	1幅	
3	土田 麦僊		雨後図	大正5・1916年	114.5×36.5	絹本彩色・軸装	1幅	
4	森谷南人子	（明治22・1889～昭和56・1981）	初春閑村	昭和13・1938年	116.0×195.0	紙本彩色・額装	1面	第2回新文展
5	児玉 希望	（明治31・1898～昭和46・1971）	晩春	大正14・1925年	122.5×433.0	絹本彩色・屏風	八曲一雙	第6回帝展
6	児玉 希望		暮春	昭和5・1930年	266.0×176.0	絹本彩色・額装	1面	第11回帝展
7	児玉 希望		空山春生	昭和15・1940年	69.0×83.0	絹本彩色・額装	1面	本山幽堂堂当代画跡・竹器・木刻展
8	児玉 希望		ひるさがり	昭和17・1942年	75.0×85.0	絹本彩色・額装	1面	第6回児玉画塾展

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質など	員数	出品歴等
9	児玉 希望		室内	昭和27・1952年	171.0×131.0	絹本彩色・額装	1面	第8回日展
10	和高 節二	(明治31・1898～平成2・1990)	村の子供	昭和8・1933年	177.5×184.6	紙本彩色・屏風	二曲一隻	昭和8年度日本画会展
11	和高 節二		薪を入れる娘	昭和10・1935年	158.7×150.7	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第1回再興中央美術展
12	和高 節二		秋日和	昭和13・1938年	155.5×171.0	紙本彩色・屏風	二曲一隻	第1回現代美術展
13	綿谷行四郎	(明治33・1900～昭和52・1977)	宮島廻廊	昭和48・1973年	176.0×207.0	紙本彩色・額装	1面	第58回院展
14	大島 祥丘	(明治40・1907～平成8・1996)	段園宿雪	昭和42・1967年	194.0×112.0	紙本彩色・額装	1面	東丘社展
15	奥田 元宋	(明治45・1912～平成15・2003)	待月	昭和24・1949年	130.4×204.2	絹本彩色・額装	1面	第5回日展
16	奥田 元宋		焔	昭和36・1961年	130.0×190.0	紙本彩色・額装	1面	第4回新日展
17	奥田 元宋		青山白雲	昭和62・1987年	180.3×124.4	紙本彩色・額装	1面	幽玄賛歌 奥田元宋展
18	水谷 愛子	(大正13・1924～平成17・2005)	母と子	昭和63・1988年	167.8×213.1	紙本彩色・額装	1面	第73回院展
19	水谷 愛子		裕太と亮ちゃん	平成元年・1989年	167.5×212.0	紙本彩色・額装	1面	第74回院展
20	宮川 啓五	(昭和2・1927～)	残照	昭和38・1963年	135.0×182.0	紙本彩色・額装	1面	第48回院展

「日本画」の前衛展によせて

日本画革新の系譜 平成23年1月25日(火)～2月27日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質など	員数	出品歴等
1	橋本 雅邦	(天保6・1835～明治41・1908)	風神雷神	明治28・1895年	各138.0×52.0	絹本彩色・軸装	2幅	
2	橋本 雅邦		竜虎争気		各126.0×50.0	絹本墨画淡彩・軸装	2幅	
3	田村 宗立	(弘化3・1846～大正7・1918)	地獄図		147.0×72.0	絹本彩色・軸装	1幅	
4	竹内 栖鳳	(元治元・1864～昭和17・1942)	城址	大正13・1924年	80.6×94.2	紙本墨画淡彩・軸装	1幅	第1回淡交会展
5	横山 大観	(明治元・1868～昭和33・1958)	井筒	明治30・1897年	135.6×83.5	紙本彩色・軸装	1幅	
6	菱田 春草	(明治7・1874～明治44・1911)	莊重（高土望岳）	明治35・1902年	103.4×47.9	絹本墨画・軸装	1幅	第12回日本美術院絵画研究会
7	橋本 静水	(明治9・1876～昭和18・1943)	児童文殊図		137.5×71.5	絹本彩色・軸装	1幅	
8	玉村方久斗	(明治26・1893～昭和26・1951)	時代人物図	昭和初期	46.1×68.2～69.4	紙本墨画淡彩・卷子	1巻(5面)	
9	速水 御舟	(明治27・1894～昭和10・1935)	隠岐の海	大正3・1914年	113.0×42.2	絹本彩色・軸装	1幅	第1回赤曜会展
10	速水 御舟		山茶花	大正3・1914年	124.5×50.5	絹本彩色・軸装	1幅	第3回赤曜会展
11	甲斐莊楠音	(明治27・1894～昭和53・1978)	横櫛	大正7・1918年	165.0×72.0	絹本彩色・額装	1面	第1回国画創作協会展
12	猪原 大華	(明治30・1897～昭和55・1980)	池	昭和36・1961年	165.0×142.8	紙本彩色・額装	1面	第4回新日展
13	児玉 希望	(明治31・1898～昭和46・1971)	梵唄（新水墨画十二題）	昭和34・1959年	43.0×73.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
14	児玉 希望		海禾（新水墨画十二題）	昭和34・1959年	57.0×67.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
15	児玉 希望		緑塊（新水墨画十二題）	昭和34・1959年	55.0×72.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
16	児玉 希望		白崖（新水墨画十二題）	昭和34・1959年	68.5×58.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
17	児玉 希望		雲似（新水墨画十二題）	昭和34・1959年	59.0×69.5	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
18	児玉 希望		滴律（新水墨画十二題）	昭和34・1959年	67.0×64.0	絹本墨画・額装	1面	新水墨画展
19	児玉 希望		踊	昭和37・1962年	176.5×109.5	絹本彩色・額装	1面	第5回新日展
20	児玉 希望		瀾	昭和39・1964年	156.0×135.5	絹本彩色・額装	1面	第7回新日展
21	綿谷行四郎	(明治33・1900～昭和52・1977)	冠鶴	昭和40・1965年	211.5×175.5	紙本彩色・額装	1面	第50回院展
22	丸木 位里	(明治34・1901～平成7・1995)	竹林	昭和39・1964年	各210.0×270.0	紙本墨画・屏風	二曲一双	第6回現代日本美術展
23	奥田 元宋	(明治45・1912～平成15・2003)	筒石	昭和32・1957年	123.0×47.0	画布彩色・額装	1面	第10回日本美術協会展
24	奥田 元宋		嶽	昭和34・1959年	110.0×210.0	紙本彩色・額装	1面	第2回新日展
25	船田 玉樹	(大正元・1912～平成3・1991)	春の鐘	昭和25・1950年	180.0×68.0	絹本彩色・額装	1面	第5回春の院展
26	船田 玉樹		秋意	昭和32・1957年	207.0×161.0	紙本彩色・額装	1面	第42回院展
27	平山 郁夫	(昭和5・1930～平成21・2009)	みのり	昭和36・1961年	152.0×60.0	紙本彩色・額装	1面	第16回春の院展
28	平山 郁夫		受胎霊夢	昭和37・1962年	179.5×178.8	紙本彩色・額装	1面	第47回院展

「日本画」の前衛展によせて

広島の前衛日本画 浜崎左髪子と善鳩人 平成23年3月1日(火)～4月10日(日)

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	玉村方久斗	(明治26・1893～昭和26・1951)	時代人物図	昭和初期	46.1×68.2～69.4	紙本墨画淡彩・卷子	1巻(5面)	
2	猪原 大華	(明治30・1897～昭和55・1980)	池	初期36・1961年	165.0×142.8	紙本彩色・額装	1面	第4回新日展
3	児玉 希望	(明治31・1898～昭和46・1971)	踊	昭和37・1962年	176.5×109.5	絹本彩色・額装	1面	第5回新日展
4	児玉 希望		瀾	昭和39・1964年	156.0×135.5	絹本彩色・額装	1面	第7回新日展
5	綿谷行四郎	(明治33・1900～昭和52・1977)	冠鶴	昭和40・1965年	211.5×175.5	紙本彩色・額装	1面	第50回院展
6	丸木 位里	(明治34・1901～平成7・1995)	竹林	昭和39・1964年	各210.0×270.0	紙本墨画・屏風	二曲一双	第6回現代日本美術展
7	奥田 元宋	(明治45・1912～平成15・2003)	筒石	昭和32・1957年	123.0×47.0	画布彩色・額装	1面	第10回日本美術協会展
8	奥田 元宋		嶽	昭和34・1959年	110.0×210.0	紙本彩色・額装	1面	第2回新日展
9	浜崎佐髪子	(明治45・1912～平成元・1989)	スラム街	昭和49・1974年	164.0×129.0	紙本彩色・額装	1面	第16回日本表現派展
10	浜崎佐髪子		陰謀	昭和55・1980年	181.6×546.0	紙本彩色・額装	1面	第22回日本表現派展
11	浜崎佐髪子		広島夕景		65.3×91.0	紙本彩色・額装	1面	
12	浜崎佐髪子		青夜		115.7×90.8	紙本彩色・額装	1面	
13	浜崎佐髪子		足摺の海		121.5×60.5	紙本彩色・額装	1面	
14	浜崎佐髪子		厳島		65.5×91.5	紙本彩色・額装	1面	
15	船田 玉樹	(大正元・1912～平成3・1991)	春の鐘	昭和25・1950年	180.0×68.0	絹本彩色・額装	1面	第5回春の院展
16	船田 玉樹		秋意	昭和32・1957年	207.0×161.0	紙本彩色・額装	1面	第42回院展
17	善 鳩人	(大正5・1916～平成元・1989)	デルタの街	昭和33・1958年	95.0×128.2	紙本彩色・額装	1面	
18	善 鳩人		薄明	昭和36・1961年	110.0×158.0	紙本彩色・額装	1面	第25回新制作展
19	善 鳩人		巢(冬壁)	昭和36・1961年	141.0×180.0	紙本彩色・額装	1面	
20	善 鳩人		巢(陽)	昭和41・1966年	152.0×182.0	紙本彩色・額装	1面	第30回新制作展
21	善 鳩人		河口		120.6×90.0	紙本彩色・額装	1面	
22	善 鳩人		不死鳥(ヒロシマ)		116.7×80.7	紙本彩色・額装	1面	
23	杉本巴都美	(昭和2・1927～平成7・1995)	暦歳	昭和43・1968年	182.0×136.5	紙本彩色・額装	1面	第18回新興美術院展
24	平山 郁夫	(昭和5・1930～平成21・2009)	みのり	昭和36・1961年	152.0×60.0	紙本彩色・額装	1面	第16回春の院展
25	平山 郁夫		受胎霊夢	昭和37・1962年	179.5×178.8	紙本彩色・額装	1面	第47回院展

第4室

中央アジアの染織と金工 ―ウズベクとトルクメンの美のかたち 平成22年4月13日(火)～6月27日(日)

*特別展示「柿右衛門様式の優品」

No.	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
1	重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式)	江戸時代(17世紀後半)	口径24.4 高11.5	磁器・色絵	1口
2	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高45.0	磁器・色絵	1軀
3	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高44.3	磁器・色絵	1軀

No.	制作地または民族名	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
4	プスケント(現ウズベキスタン)	刺繍布(スザニ)	19世紀末	245.0×210.0	木綿・絹刺繍	1枚
5	タシケント(現ウズベキスタン)	刺繍布(スザニ)	19世紀後半	216.0×174.0	木綿・絹刺繍	1枚
6	ヌラタ(現ウズベキスタン)	刺繍布(スザニ)	19世紀前半	253.0×172.0	木綿・絹刺繍	1枚
7	ブハラ(現ウズベキスタン)	刺繍布(ジャイナマズ)	19世紀末	242.0×162.0	木綿・絹刺繍	1枚
8	ブハラ(現ウズベキスタン)	刺繍布(スザニ)	19世紀後半	217.0×150.0	木綿・絹刺繍(裏)経:絹・緯:木綿 経緋	1枚
9	ブハラ(現ウズベキスタン)	刺繍布(スザニ)	19世紀中期	224.0×148.0	麻・絹刺繍	1枚
10	ブハラ(現ウズベキスタン)	刺繍布(スザニ)	1910年頃	170.0×134.0	絹・ヴェルヴェット・金糸刺繍	1枚
11	ウズベク人	女性用外衣(ハラト)	19世紀後半	125.0×168.0	経:絹・緯:綿・経緋・裏にプリント木綿・見返し綿木綿	1領
12	ウズベク人	女性用外衣(ハラト)	1900年頃	123.5×127.9	経:絹・緯:綿・経緋・裏にプリント木綿・見返し赤無地木綿	1領
13	ウズベク人	女性用外衣(ハラト)	1900年頃	129.0×162.8	経:絹・緯:綿・経緋・裏にプリント木綿	1領
14	ウズベク人	女性用上衣(コイネク)	20世紀初頭	126.2×162.7	経:絹・緯:絹・経緋	1領
15	ウズベク人	女性用脚衣	20世紀初頭	長94.5	経:絹・緯:絹・経緋・木綿	1枚
16	テケ族、トルクメン人	女性用被衣(チルビ)	19世紀	総丈126.0	絹・絹刺繍・裏に木綿	1領

No.	制作地または民族名	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
17	テケ族、トルクメン人	女性用被衣（チルビ）	19世紀	総丈125.0	絹・絹刺繍・裏に木版木綿	1 領
18	テケ族、トルクメン人	女性用被衣（チルビ）	19世紀	総丈124.0	絹・絹刺繍・裏に木版木綿	1 領
19	トルクメン人	女性用外衣	1900年頃	丈139.0	絹・裏にプリント木綿	1 領
20	ヨムート族、トルクメン人	女性用上衣（コイネク）	1930年以前	丈120.5	絹・見返しプリント木綿	1 領
21	ヨムート族、トルクメン人	刺繍裂（女性用脚衣）	19世紀	40.7	木綿・絹刺繍・裏にプリント木綿	1 対
22	ウズベク人	子ども用外衣	1900年頃	91.8×146.7	経：絹・緯：綿・経緯・裏・見返しにプリント木綿	1 領
23	エルサリ族、トルクメン人	子ども用胸掛け	19世紀後半	長63.0 幅56.0	銀・貝・絹緋布・綿布・絹刺繍・裏に綿木綿	1 枚
24	ヨムート族、トルクメン人	子ども用胸掛け	19-20世紀	長73.0 幅34.0	銀・貝・綿布・絹刺繍・バルバット・裏に綿木綿	1 枚
25	エルサリ族、トルクメン人	護符（ドガ）	19世紀前半	高14.0 幅12.0	銀・珊瑚・ガラスビーズ・絹刺繍	1 点
26	エルサリ族、トルクメン人	護符（ドガ）	19世紀	高10.0	銀・カーネリアン	1 点
27	テケ族、トルクメン人	護符（ダグダン）	19世紀後半	高14.0 幅8.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
28	テケ族、トルクメン人	男児用背飾り（オク・ヤイ）	19世紀前半	幅14.5	銀・鍍金	1 点
29	西ヨムート族、トルクメン人	男児用背飾り（オク・ヤイ）	19世紀後半	幅13.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
30	テケ族、トルクメン人	男児用背飾り	19世紀	幅14.5	銀・鍍金・カーネリアン・トルコ石	1 点
31	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	男児用護符（デベバント）または 女児用帽子飾り（グッパ）	19世紀前半	径15.5	銀・鍍金・カーネリアン・色ガラス	1 点
32	テケ族、トルクメン人	未婚女性用帽子飾り（グッパ）	19世紀初期	高8.5	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
33	ヨムート族、トルクメン人	未婚女性用帽子（グッパ）	19-20世紀	高15.5 径18.0	銀・鍍金・カーネリアン・絹布	1 点
34	テケ族、トルクメン人	花嫁用頭飾り（エグメ）	18-19世紀	幅20.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
35	テケ族、トルクメン人	花嫁用頭飾り（エグメ）	19世紀中期	幅23.0	銀・鍍金・カーネリアン・絹布・木版木綿	1 点
36	エルサリ族または北ヨムート族、トルクメン人	頭飾り（シンシレ）	19世紀前半	高27.0(下げ飾り除く)	銀・カーネリアン	1 点
37	ヨムート族、トルクメン人、イラン	頭飾り（イルディルジチュ）	19世紀後半	幅28.0	銀・カーネリアン	1 連
38	ヨムート族、トルクメン人	こめかみ飾り（テネチル）	19世紀前半	長31.0	銀・カーネリアン	1 対
39	テケ族、トルクメン人	こめかみ飾り（テネチル）	19世紀前半	長23.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 対
40	ヨムート族またはテケ族、トルクメン人	護符入れ（トゥマル）	17-18世紀	幅19.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
41	テケ族、トルクメン人	護符入れ（トゥマル）	18世紀	幅18.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
42	西ヨムート族、トルクメン人	護符入れ（トゥマル）	18世紀	幅25.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
43	西ヨムート族、トルクメン人	護符入れ（トゥマル）	18世紀	幅18.0	銀・鍍金・カーネリアン・トルコ石・革	1 点
44	テケ族、トルクメン人	護符入れ（ハイケル）	19世紀前半	幅13.0	銀・鍍金・カーネリアン・革	1 点
45	西ヨムート族、トルクメン人	護符入れ（クムシュドガ）	19世紀中期	幅7.0	銀・鍍金・色ガラス	1 点
46	サルイク族、トルクメン人	護符入れ（クムシュドガ）	19世紀中期	幅10.0	銀・カーネリアン	1 点
47	北ヨムート族、トルクメン人	首胸飾り（ブカウ）	19世紀初期	幅16.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 組
48	テケ族、トルクメン人	首胸飾り（ブカウ）	19世紀後半	幅24.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 組
49	ヨムート族、トルクメン人、イラン	首胸飾り（ブカウ）	19世紀前半	幅11.5(前面部)	銀・鍍金・カーネリアン・色ガラス	1 点
50	西ヨムート族、トルクメン人	首胸飾り（ブカウ）	19世紀中期	幅10.0(前面部)	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
51	西ヨムート族、トルクメン人	首胸飾り（ブカウ）	19世紀中期	幅14.5(前面部)	銀・カーネリアン	1 組
52	テケ族、トルクメン人	胸飾り（ゴンジュク）	18-19世紀	幅28.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
53	テケ族、トルクメン人	胸飾り（ゴンジュク）	18世紀	幅21.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
54	テケ族、トルクメン人	胸飾り（ゴンジュク）	19世紀前半	幅18.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 点
55	テケ族、トルクメン人	胸飾り	19世紀前半	径10.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
56	テケ族または北ヨムート族、トルクメン人	留め飾り（チャブラズ）	18世紀	幅17.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 対
57	エルサリ族、トルクメン人	留め飾り（チャブラズ）	19世紀後期	幅25.0	銀・カーネリアン	1 対
58	テケ族、トルクメン人	背飾り（アシク）	19世紀初期	高25.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
59	テケ族、トルクメン人	背飾り（アシク）	19世紀前半	高26.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
60	ヨムート族、トルクメン人、ブハラ	背飾り（アシク）	19世紀前半	高22.0	銀・鍍金・カーネリアン・革	1 枚
61	西ヨムート族、トルクメン人	背飾り（アシク）	19世紀初期	高20.0	銀・鍍金・カーネリアン・貝・木綿布	1 枚
62	ヨムート族、トルクメン人、イラン	背飾り（アシク）	19世紀中期	高22.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
63	サルイク族またはヨムート族、トルクメン人	背飾り（アシク）	19世紀前半	高26.5	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
64	エルサリ族、トルクメン人	背飾り（アシク）	19世紀中期	高25.0	銀・カーネリアン	1 枚
65	テケ族、トルクメン人	背飾り（アシク）	19世紀中期	高9-12	銀・鍍金・カーネリアン	1 組
66	テケ族、トルクメン人	背飾り（アシク）	19-20世紀	高12.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 対
67	テケ族、トルクメン人	背飾り（ゴシヤ・アシク）	20世紀初期	高22.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
68	テケ族、トルクメン人	腕飾り（ビレジク）	18世紀	高7.9	銀・鍍金・カーネリアン	1 対

No.	制作地または民族名	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
69	北ヨムート族、トルクメン人	腕飾り (ビレジク)	19世紀初期	高5.9	銀・鍍金・カーネリアン	1 対
70	ヨムート族、トルクメン人、イラン	腕飾り (ビレジク)	19-20世紀	高16.3	銀・鍍金・ガラス	1 対
71	サルイク族、トルクメン人	腕飾り (ビレジク)	18-19世紀	高4.6	銀・鍍金・カーネリアン	1 対
72	エルサリ族、トルクメン人	腕飾り (ビレジク)	19世紀初期	高6.0	銀・カーネリアン	1 対
73	エルサリ族、トルクメン人	腕飾り (ビレジク)	19-20世紀	高1.7	銀	1 対
74	オラム族、トルクメン人	腕飾り (ビレジク)	19世紀後半	高12.3	銀	1 対
75	テケ族、トルクメン人	護符入れ (ボズベント)	18世紀	径7.0	銀・鍍金・カーネリアン	1 枚
76	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	護符入れ (ボズベント)	19世紀後半	径6.0	銀・鍍金・カーネリアン・色ガラス	1 対
77	テケ族、トルクメン人	護符入れ (エギンリク)	19世紀前半	幅9.5	銀・鍍金・カーネリアン	1 対
78	トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀	径2.4	銀・カーネリアン	1 点
79	トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀	径2.4	銀・カーネリアン	1 点
80	トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀	径2.2	銀・カーネリアン	1 点
81	トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀	径2.1	銀・カーネリアン	1 点
82	トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀-20世紀初頭	最大のもの 径2.2	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	11点
83	トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19-20世紀	最大のもの 径2.2 長3.8	銀・鍍金・カーネリアン	1 対
84	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	指輪 (キュケンリ・ユズユク)	19世紀中期	径2.4 長20	銀・鍍金・カーネリアン	1 連
85	エルサリ族、トルクメン人	指輪 (キュケンリ・ユズユク)	19世紀後期	径2.4 長15	銀・カーネリアン	1 連
86	エルサリ族、トルクメン人	手飾り (キュケンリ・ユズユク)	20世紀初期	径2.4 装飾板6×5	銀・カーネリアン・ガラス	1 連
87	サルイク族、トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀	最大のもの 径2.2	銀・カーネリアン	4 点
88	テケ族、トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀後期	径2.2 長5.9	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	1 点
89	テケ族、トルクメン人	指輪 (ユズユク)	19世紀	最大のもの 径2.2	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	5 点
90	エルサリ族またはヨムート族、トルクメン人	指輪 (キュケンリ・ユズユク)	19世紀前半	最大のもの 径2.2 長3.2	銀・ガラス	1 対
91	ヨムート族、トルクメン人	指輪 (キュケンリ・ユズユク)	19-20世紀	最大のもの 径2.2 長1.8	銀・カーネリアン	1 対
92	トルクメン人、アフガニスタン北部	指輪 (ユズユク)	19世紀	最大のもの 径2.6	銀・鍍金・カーネリアン・ガラス	6 点
93	ウズベク人	男性用外衣 (チャパン)	19世紀末	129.6×207.7	経:絹・緯:絹・経緋・裏にプリント木綿・見返し経緋	1 領
94	ウズベク人	男性用外衣 (チャパン)	1900年頃	116.9×187.7	経:絹・緯:綿・経緋・裏に木版木綿・プリント木綿	1 領
95	ウズベク人	男性用外衣 (ハラト)	1900年頃	121.0×175.0	経:絹・緯:綿・経緋	1 領
96	ヨムート族、トルクメン人	男性用上衣	19世紀	丈65.4	絹・絹刺繍・見返しプリント木綿	1 領
97	西ヨムート族、トルクメン人、ブハラ	男性用帯 (グサク)	19世紀後半	長98.0 前金具幅16.5	銀・鍍金・縞瑪瑙	1 条
98	テケ族、トルクメン人、ヒワ	男性用背飾り	19世紀後半	径13.0	銀・鍍金	1 枚
99	テケ族、トルクメン人	馬具 (アラガイシュ)	18-19世紀		銀・鍍金・カーネリアン	1 式
100	テケ族、トルクメン人	鞭 (ガムチ)	18-19世紀	柄長27.5 全長87.0	革・銀	1 本
101	西ヨムート族、トルクメン人	鞭 (ガムチ)	19世紀中期	柄長29.5 全長91.0	革・銀	1 本
102	西ヨムート族、トルクメン人	鞭 (ガムチ)	19世紀後半	柄長39.5 全長98.5	革・銀	1 本
103	エルサリ族、トルクメン人	鞭 (ガムチ)	1897/98(ヒジュラ暦1315)年	柄長32.5 全長87.0	革・銀・木	1 本
104	ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人	鞭 (ガムチ)	19世紀後半	柄長30.0 全長87.0	革・銀・鍍金・カーネリアン・トルコ石	1 本
105	エルサリ族、トルクメン人	馬用首帯 (ゲルンバグ)	19世紀		革・銀・カーネリアン	1 本
106	トルクメン人、ヒワ	馬用首帯 (ゲルンバグ)	18-19世紀		革・銀・鍍金	1 本
107	トルクメン人、ブハラまたはヒワ	馬用首帯 (ゲルンバグ)	19世紀初期		革・銀・鍍金・カーネリアン・トルコ石・色ガラス	1 本
108	ヨムート族、トルクメン人	馬用首帯 (ゲルンバグ)	19世紀前半		革・銀・鍍金	1 本
109	ウズベク人、タシュケルガン	刺繍鞆	19世紀	18.0×15.0	絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚
110	ウズベク人、タシュケルガン	刺繍鞆	20世紀初頭	19.8×15.6	銀糸刺繍・絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚
111	ウズベク人、ブハラ	刺繍鞆	19世紀	21.8×25.0	絹刺繍・裏に絹布	1 枚
112	ウズベク人、ブハラ	刺繍鞆	19世紀	54.2×37.3	絹経緋・絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚
113	ウズベク人、ブハラ	刺繍鞆	20世紀初頭	18.7×13.2	金糸刺繍・絹ベルベット	1 枚
114	ウズベク人、ラカイ	刺繍鞆	19世紀中期	11.9×11.5	絹刺繍・銀・ガラスビーズ・裏に縞木綿	1 枚
115	エルサリ族、トルクメン人	刺繍鞆	19世紀中期	17.4×13.2	絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚
116	エルサリ族、トルクメン人	刺繍鞆	19世紀中期	15.9×10.2	絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚
117	エルサリ族、トルクメン人	刺繍鞆	19世紀中期	13.6×9.7	絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚
118	ヨムート族、トルクメン人	刺繍鞆	19世紀	15.5×8.5	絹刺繍	1 枚
119	ヨムート族、トルクメン人	刺繍鞆	20世紀初頭	15.5×10.2	絹刺繍	1 枚
120	テケ族、トルクメン人	刺繍鞆	20世紀初頭	16.3×13.2	絹刺繍・裏にプリント木綿	1 枚

地球からの贈り物 工芸の素材 平成22年6月29日(火)～10月17日(日)

*特別展示「柿右衛門様式の優品」

No.	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
1	重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢 (柿右衛門様式)	江戸時代(17世紀後半)	口径24.4	磁器・色絵	1口
2	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高44.0	磁器・色絵	1軀
3	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高45.0	磁器・色絵	1軀

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
1	金重 陶陽	(1898・明治29～1967・昭和42)	備前耳付水指	不詳	径19.4×高12.8	陶器	1合
2	山本 陶秀	(1906・明治39～1994・平成6)	備前耳付花入	1978・昭和53年	10.5×12.5×26.4	陶器	1口
3	今井 政之	(1930・昭和5～)	象嵌彩窯変ざざみ香炉	2001・平成13年	胴径14.5×高12.0	陶器	1口
4	北大路魯山人	(1883・明治16～1959・昭和34)	織部不老長春字花生	1958・昭和33年	径13.8×高28.2	陶器	1口
5	楽吉左衛門	(1949・昭和24～)	茶碗	1992・平成4年	口径13×高11	陶器	1口
6	塚本 快示	(1912・大正元～1990・平成2)	白瓷輪花五陵皿	1980・昭和55年	径38.5×高4.5	磁器	1枚
7	藤本 能道	(1919・大正8～1992・平成4)	草白釉釉描彩月下木之葉づく陶筥	1991・平成3年	32.4×32.4×13.3	磁器	1合
8	河井寛次郎	(1890・明治23～1966・昭和41)	紅壺		口径8.3×高9.3	磁器	1口
9	河井寛次郎		赤合子		径5.8×高4.2	磁器	1合
10	河井寛次郎		紅壺		径8.7×高10.4	磁器	1口
11	河井寛次郎		辰砂香器		径10.7×高7.7	磁器	1合
12	河井寛次郎		鱗血文青磁		口径11.7×高3.1	磁器	1口
13	河井寛次郎		辰砂花碗	1949・昭和24年	口径15.1×高8.7	磁器	1口
14	河井寛次郎		呉州花碗		口径13.7×高8.7	磁器	1口
15	鈴木 治	(1926・大正15～2001・平成13)	ロッキング・バード	1973・昭和48年	23×32×43	陶器	1点
16	鈴木 治		神経質な鳥	1975・昭和50年	20×12.5×総高31	磁器	1点
17	宮永 理吉	(1935・昭和10～)	断層	1956・昭和31年	30×31×32	陶器	1点
18	宮永 理吉		パイプ	1972・昭和47年	18×14.5×26	磁器	1点
19	林 康夫	(1928・昭和3～)	作品	1954・昭和29年	径36×高33	陶器	1点
20	林 康夫		緑の滴	1958・昭和33年	径32×高38	陶器	1点
21	林 康夫		POSE	1972・昭和47年	径37×高31	陶器	1点
22	志村ふくみ	(1924・大正13～)	紬織着物 水かげ	1984・昭和59年	170×154	絹	1領
23	志村ふくみ		紬織着物 枝垂桃	1985・昭和60年	166×157	絹	1領
24	志村ふくみ		紬織着物 巖島	1985・昭和60年	173×158	絹	1領
25	志村ふくみ		紬織着物 おだまき	1985・昭和60年	168×156	絹	1領
26	蓮田修吾郎	(1915・大正4～2010・平成22)	青銅方壺	1964・昭和39年	径11.8×高37.7	青銅	1口
27	山本 晃	(1944・昭和19～)	重金箱 流麗	1988・昭和63年	17×17×11.6	銅・銀・金	1合
28	増村 益城	(1910・明治43～1996・平成8)	髹飾盛器	1960・昭和35年	径44.3×高9.6	漆	1口
29	吉田源十郎	(1896・明治29～1958・昭和33)	あざみ文漆皮果物鉢		38.2×38.5×8.1	漆・皮	1口
30	高中 惣六	(1889・明治32～1974・昭和49)	乾漆菓子器	1971・昭和46年	径26×高8	漆・貝	1口
31	六角 紫水	(1867・慶応3～1950・昭和25)	末金鏤蓬萊硯筥		24.3×21.1×高5	漆・金	1合
32	松田 権六	(1896・明治29～1986・昭和61)	水蒔絵平卓	1941・昭和16年	29.2×50.5×8.2	漆・金	1基
33	三代金城一國斎	(1829・文政12～1915・大正4)	葦によしきり高盛絵香筒	1905・明治38年	長30.5	漆・竹	1本
34	三代金城一國斎		へちま高盛絵煙管入 付煙草入		長20	漆・竹	1本
35	三代金城一國斎		ホタル高盛絵線香入		長18	漆・竹	1本
36	小林健一郎	(1924・大正13～)	櫛丸盆	1987・昭和62年	径40×高4.2	櫛	1枚
37	二代小松寿山	(1929・昭和4～)	松丸盆	1980・昭和55年	径45×高4	松	1枚
38	山根 寛齋	(1933・昭和8～2010・平成22)	玉椿全彩箱	1990・平成2年	31×15.2×18.6	玉椿ほか	1合
39	門田 篁玉	(1916・大正5～)	連作「葺」	1975・昭和50年	径57.5×高28.4	竹	1点
40	高橋 通子	(1936・昭和11～)	紫陽花文花瓶	1984・昭和59年	径15.7×高15.5	七宝	1合
41	益田 芳徳	(1934・昭和9～)	記憶 I	1990・平成2年	65×43.5×24	ガラス	1点
42	藤田 喬平	(1921・大正10～2004・平成16)	飾筥「湖上の花」	1989・平成元年	26.5×23.2×23.2	ガラス	1合

*特別企画「岩崎コレクション（アジアの染織）紹介展示」

No.	作品名	制作地(採取地)	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
1	ペーヅリー文更紗	イラン	19～20世紀	200×162	木綿	1枚
2	クリシュナ神像更紗	インド	19～20世紀	120×100	木綿	1枚
3	スザニ（刺繍布）	ウズベキスタン	19～20世紀	127×200	木綿	1軀
4	ミラー刺繍布	インド	20世紀	188×122	木綿	1枚
5	ペルシャ更紗（食卓布）	インド	19～20世紀	120×210	木綿	1枚
6	緯緋儀式用肩掛	インドネシア	19～20世紀	90×197	絹	1枚
7	浮織緯緋儀式用肩掛	インドネシア	19～20世紀	60×265	木綿	1枚
8	更紗	インドネシア	19～20世紀	90×220	木綿	1枚
9	更紗	インドネシア	19～20世紀	90×210	木綿	1枚

漆芸家・六角紫水とその時代 平成22年10月19日(火)～1月23日(日)

*特別展示「柿右衛門様式の優品」

No.	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
1	重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢（柿右衛門様式）	江戸時代(17世紀後半)	口径24.4	磁器・色絵	1口
2	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高44.0	磁器・色絵	1軀
3	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高45.0	磁器・色絵	1軀

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
1	三代金城一國斎	(1829・文政12～1915・大正4)	虫に蔓草高盛絵会席盆	1908・明治41年	径33.5×高2	漆	5枚	
2	三代金城一國斎		堆彩漆草花図四方膳	1914・大正3年	38.5×38.5×3.5	漆	5枚	
3	川之辺一朝	(1830・天保元～1910・明治43)	金梨地瀧山水蒔絵料紙文庫	1902・明治35年	41.9×33.1×15.4	漆・金	1合	
4	白山 松哉	(1853・嘉永6～1923・大正12)	金地菊蒔絵香合		径10.2×高1	漆・金	1合	
5	辻村 松華	(1867・慶応3～1929・昭和4)	金地獅子蒔絵香合		径8.1×高3	漆・金	1合	
6	六角 紫水	(1867・慶応3～1950・昭和25)	蒔絵草花図菓子銘々盆	1911・明治44年	13.5×14.6×1	漆・金	10枚	
7	六角 紫水		線のすざび忍冬図丸盆	1924・大正13年	径25.5×高1.9	漆	1枚	
8	六角 紫水		螺鈿宝石小箱	1925・大正14年	10.5×8.7×4	漆・貝	1合	
9	六角 紫水		線のすざび麒麟文香盆	1926・昭和元年	径25.5×高1.9	漆	1枚	
10	六角 紫水		刀筆文線の行通ひ香盆	1927・昭和2年	径25.5×高1.9	漆	1枚	
11	六角 紫水		線のすざび松島図香盆	1927・昭和2年	径25.5×高1.9	漆	1枚	
12	六角 紫水		線のすざび鳥と波文香盆		径22.5×高1.9	漆	1枚	
13	六角 紫水		刀筆天部奏楽方盆	1927・昭和2年	19.6×19.6×2.2	漆	1合	第8回帝展
14	六角 紫水		銀嵌刀筆天部奏楽の図飾箱	1928・昭和3年	27.2×15.2×10.2	漆・銀	1合	第9回帝展
15	六角 紫水		暁天獅子吼號の図手箱	1930・昭和5年	31.5×24×8.8	漆	1合	第11回帝展
16	六角 紫水		大空と洋海の驚異手箱	1934・昭和9年	30.2×23.3×15.3	漆	1合	第15回帝展
17	六角 紫水		日支戦況之図額面	1940・昭和15年	56.1×97.4	漆・アルマイト	1枚	紀元2600年奉祝美術展覧会
18	赤塚 自得	(1871・明治4～1936・昭和11)	金地牡丹蝶唐草蒔絵文庫		29×23×17	漆・金	1合	
19	赤塚 自得		金梨地唐草牡丹蒔絵香盆		径45×高3	漆・金	1枚	
20	板谷 波山	(1872・明治5～1963・昭和38)	青磁鳳耳花瓶		径15×高28.3	磁器	1口	
21	板谷 波山		氷華磁草花文花瓶		径18×高36	磁器	1口	
22	植松 包美	(1872・明治5～1933・昭和8)	卯の花研出蒔絵文庫		39.5×31×14	漆・金	1合	
23	清水 南山	(1875・明治8～1948・昭和23)	花卉文壺	1926・大正15年	径12.2×高16	銀・銅	1口	
24	清水 南山		波に龍文水瓶	1937・昭和12年	径13×高33	銀	1口	第1回新文展
25	清水 南山		獅子図手板	1943・昭和18年	21.3×30.1	銀・銅・赤銅	1枚	
26	堆朱 楊成	(1880・明治13～昭和27・1952)	唐華紋彫漆基筥		径12.8×高12.3	漆	2合	
27	迎田 秋悦	(1881・明治14～1933・昭和27)	平野の松歌蒔絵料紙文庫	1921・大正10年	41.2×34.5×14.3	漆・金	1合	
28	富本 憲吉	(1886・明治19～1963・昭和38)	白磁壺	1928・昭和3年	径18×高23.3	磁器	1口	
29	バーナード・リーチ	(1887・明治20～1979・昭和54)	蠟抜格子花文蓋付茶壺	1923・大正12年頃	10.3×9.6×15.2	陶器	1口	
30	バーナード・リーチ		染付山水文壺	1926・昭和元年頃	径21.2×高19.8	陶器	1口	
31	河井寛次郎	(1890・明治23～1966・昭和41)	青磁観音菩薩像	1918・大正7年	高33.1	磁器	1軀	
32	河井寛次郎		青瓷桃子鉗	1923・大正12年	径9.5×高10.8	磁器	1口	
33	河井寛次郎		黄釉流描き皿		34.2×29.2×高7.7	陶器	1枚	
34	河井寛次郎		練上鉢		径21.8×高8.6	陶器	1枚	

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数	出品歴等
35	河井寛次郎		鉄葉水滴		長径10.7×高4.2	陶器	1点	
36	河井寛次郎		鉄釉硯		長径16.7×高5.3	陶器	1面	
37	浜田 庄司	(1894・明治27～1978・昭和53)	ガレナ釉搔落文蓋壺	1922・大正11年頃	径11×高10.8	陶器	1口	
38	芹沢 銈介	(1895・明治28～1984・昭和59)	組紐文のれん	1940・昭和15年頃	120×94	木綿	1枚	
39	松田 権六	(1896・明治29～1986・昭和61)	菊水文飾筥	1940・昭和15年	33.5×24.5×7.5	漆・金	1合	
40	山崎覚太郎	(1899・明治32～1984・昭和59)	奔瑞小屏風		61×188.2	漆	1隻	
41	加藤土師萌	(1900・明治33～1968・昭和43)	磁器香炉「瑞鳳」	1933・昭和8年	32.4×15×21.5	磁器	1口	第14回帝展
42	蓮田修五郎	(1915・大正4～2010・平成22)	铸造盤	1937・昭和12年	径29.8×高6.5	ブロンズ	1口	総合工芸美術展

「日本画」の前衛展によせて 陶芸の前衛 走泥社

平成23年1月25日(火)～4月10日(日)

*特別展示「柿右衛門様式の優品」

No.	作品名	制作年代	寸法(cm)	材質など	員数
1	重要文化財 伊万里色絵花卉文輪花鉢 (柿右衛門様式)	江戸時代(17世紀後半)	口径24.4	磁器・色絵	1口
2	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高44.0	磁器・色絵	1軀
3	伊万里 柿右衛門様式 色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高45.0	磁器・色絵	1軀

No.	作者	生没年	作品名	制作年	寸法(cm)	材質など	員数
4	八木 一夫	(1918・大正7～1979・昭和54)	翔鳥花壺	1959・昭和34年	高19.0 径19.0	陶器	1口
5	八木 一夫		盲亀	1964・昭和39年	高34.0 13.0×31.0	黒陶	1点
6	八木 一夫		扁壺	1967・昭和42年	高26.3 径6.5	黒陶	1口
7	八木 一夫		右の目と左の目の情報	1968・昭和43年	高21.3 23.5×15.0	黒陶	1点
8	八木 一夫		ブルーブック	1972・昭和47年	高22.0 38.5×22.0	黒陶	1点
9	八木 一夫		先導者	1974・昭和49年	高21.3 23.5×15.0	黒陶	1点
10	八木 一夫		明瞭かつ不確実に	1977・昭和52年	高5.0 38.0×38.5	黒陶	1点
11	八木 一夫		雲の記憶	1978・昭和53年	高42.8 41.0×11.5	黒陶	1点
12	山田 光	(1924・大正13～2001・平成13)	緑釉「塔」	1960・昭和35年	高63.3 9.0×14.0	陶器	1点
13	山田 光		窓	1966・昭和41年	高39.5 29.0×6.0	陶器	1点
14	山田 光		消えた1	1976・昭和51年	高47.0 25.5×6.0	陶器	1点
15	山田 光		化粧の塔	1980・昭和55年	高37.5 45.4×19.0	陶器	1点
16	鈴木 治	(1926・昭和元～2001・平成13)	土偶戦士	1961・昭和36年	63.3×9.0×14.0	陶器	1点
17	鈴木 治		牧神	1967・昭和42年	37.0×21.0×13.0	陶器	1点
18	鈴木 治		鳥のプロペラ	1981・昭和56年	44.0×36.0×20.0	陶器	1点
19	鈴木 治		秋の馬	1975・昭和50年	22.0×26.0	青磁	1点
20	熊倉 順吉		自暴自棄	1978・昭和53年	高43.0 30.0×17.0	陶器	1点
21	熊倉 順吉		アパート	1980・昭和55年	高45.0 26.0×10.0	陶器	1点
22	熊倉 順吉		曲面のレコードラック	1981・昭和56年	高39.0 27.5×11.0	陶器	1点
23	林 康夫	(1928・昭和3～)	作品	1954・昭和29年	高160.0 25.0×20.0	陶器	1点
24	林 康夫		POSE	1972・昭和47年	37.0×31.0	陶器	1点
25	宮永 理吉	(1935・昭和10～)	断層	1956・昭和31年	高32.0 30.0×31.0	陶器	1点
26	宮永 理吉		水中花	1972・昭和47年	高25.0 14.0×14.0	陶器	1点
27	宮永 理吉		三角錐の中のブルー	1976・昭和51年	高31.0 30.0×30.0	陶器	1点
28	林 秀行	(1937・昭和12～)	ゼロのたわむれ	1975・昭和50年	高16.0 17.0×14.0	陶器	1組
29	林 秀行		饒舌	1976・昭和51年	高42.1 12.0×21.0	陶器	1組
30	林 秀行		仮面の談笑	1982・昭和57年	高22.0 19.0×18.0 高17.0 20.4×16.5	陶器	1組
31	林 秀行		黒い歩行	1982・昭和57年	高74.0 14.0×16.0	陶器	1点
32	笹山 忠保	(1939・昭和14～)	魔法のじゅうたん	1974・昭和49年	高8.5 79.8×51.6	陶器	1点
33	笹山 忠保		風の標識	1979・昭和54年	70.0×67.0×31.0	陶器	1点
34	笹山 忠保		金彩六曲屏風	1983・昭和58年	70.0×67.0×31.0	陶器	1組
35	三輪 龍作	(1940・昭和15～)	LOVE	1969・昭和44年	高82.0 110.0×77.0	陶器	1点
36	三輪 龍作		面会人	1976・昭和51年	高38.0 44.0×30.0	陶器	1点
37	三輪 龍作		花	1977・昭和52年	高45.0 32.0×48.0	陶器	1点

Ⅲ 普及活動

1 ネットワーク美術館展

広島県立美術館所蔵名品選—動物大集合

会 期／平成22(2010)年10月1日(金)～11月14日(日)

※会期中無休

会 場／たけはら美術館（竹原市中央5-6-28）

主 催／竹原市、竹原市教育委員会、広島県立美術館

後 援／竹原市文化団体連盟、竹原市美術協会、中国新聞社、
NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、
広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送

入 館 料／一般400円（200円） 高・大学生200円（100円）

中学生以下無料

※（ ）内は20人以上の団体料金

入館者数／1,017人（うち中学生以下310人）（45日間）



「広島県美術館ネットワーク」の加盟館と協同し、当館の所蔵品を地域の身近な美術館で鑑賞する機会を提供するとともに、学校による美術館の利用を促進し、地域と美術館及び学校との連携を深めることを目的として実施した。本展では、美術作品の多彩な表現や技法、素材の魅力が鑑賞できるよう、日本画、油彩画、彫刻、工芸など、幅広いジャンルの作品計36点を展示。今井政之、木村蘆、南薫造ら、郷土ゆかりの作家の作品も多数紹介し、郷土文化への理解が深まるよう配慮した。子どもたちにも人気の高い「動物」をテーマにすることで、作品への親近感や関心が高まり、好きな作品を模写するなど、時間をかけて鑑賞を楽しむ児童も見受けられた。（本展担当者：藤崎 綾）

関連事業

(1) 団体学習鑑賞会

10月4日(月) 竹原市立竹原小学校4年生 35人

10月14日(木) 竹原市立東野小学校5・6年生 計29人

10月29日(金) 竹原市立中通小学校6年生 29人

11月6日(土) 竹原市立大乘小学校3・6年生 計99人 （合計192人）



(2) ギャラリートーク

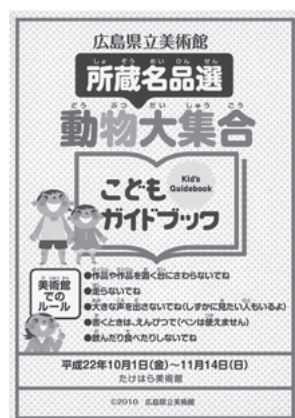
一般来館者を対象とする当館学芸員による作品解説会

10月9日(土) 14:00～

その他

子どもガイドブックの作成・配布

(A5判8ページ3,050部)



2 第62回広島県美術展

この展覧会は「広く県民から美術作品を公募し、優れた作品を展示することにより、創作活動の振興を図るとともに、鑑賞の機会を提供し、もって芸術文化の向上に資すること」を目的に、昭和24年以来開催している。第62回展では、応募点数1,301点のうち501点が入選。うち、受賞作品55点（大賞7点、優秀賞12点、奨励賞36点）。

主催

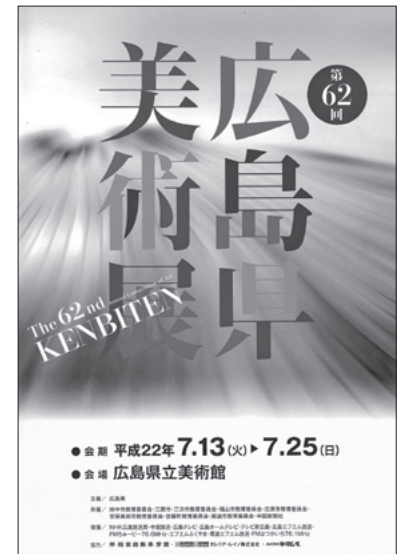
広島県

共催

府中市教育委員会／三原市／三次市教育委員会／福山市教育委員会／
庄原市教育委員会／安芸高田市教育委員会／世羅町教育委員会／
尾道市教育委員会／中国新聞社

後援

NHK広島放送局／中国放送／広島テレビ／広島ホームテレビ／テレビ新広島／広島エフエム放送／
FMちゅーピー76.6MHz／エフエムふくやま／尾道エフエム放送／FMはつかいち76.1MHz



開催会場、期間および観覧者数

市町名	会 場	会 期	観覧者数
広島市(中央展)	広島県立美術館	7月13日(火)～7月25日(日)	7,140人
府中市	府中市文化センター	8月4日(水)～8月8日(日)	777人
三原市	三原リージョンプラザ	8月11日(水)～8月15日(日)	732人
三次市	奥田元宋・小由女美術館	8月18日(水)～8月22日(日)	358人
福山市	ふくやま美術館	8月25日(水)～8月29日(日)	1,070人
庄原市	庄原市田園文化センター	9月1日(水)～9月5日(日)	365人
安芸高田市	甲田文化センターミュージズ	9月8日(水)～9月12日(日)	902人
世羅町	世羅町せら文化センター	9月15日(水)～9月19日(日)	276人
尾道市	尾道市因島市民会館	9月22日(水)～9月26日(日)	452人

合計 12,072人

入 賞 者 名 簿

絵 画 系	◎益 田 崇 教	◎宮 下 光 子	○西 原 朋 子	○松 浦 皆 子
	○安 道 隆 之	○大 川 真 理	富士原 一 恵	清 田 公 子
	山 本 英 子	白 山 幸 子	小 野 平 治	若 山 恵 子
	折 尾 頼 子	倉 田 喜久栄	灰 谷 眞由美	宮 本 佳 子
彫 塑 系	中 島 美智江	揚 圭 子	藤 岡 秀 史	藤 原 逸 樹
	◎金 崎 友里恵	○妹 尾 宜 明	藤 岡 秀 史	藤 原 逸 樹
	◎岡 田 尚 三	○三 橋 準	○下 村 純 子	藤 井 義 久
	山 元 繁 幸	高 尾 とよ子	松 井 隆 子	馬 船 宏 明
書 系	◎中 川 雅 遊	○野 村 玉 暎	○大 森 比沙子	平 松 蒼 風
	木 村 佳 史	沖 西 池 草	中 野 光 葉	金 谷 昭 次
	奥 本 智恵美	鵜 川 稲 山	児 玉 裕 美	
	◎清 水 潔 士	○家 本 薫 一	○新 川 正	大 谷 至
写 真 系	世 良 安 子	岡 山 一 信	政 田 周 次	小 西 由起子
	小田上 健 二	三 島 宏 行		
	◎北 川 宏	○田 才 準	中 平 麻衣子	東 未 希

※◎は大賞、○は優秀賞、無印は奨励賞

3 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として実施している。

開設日時とカリキュラム、および受入先は次のとおり。

開設日時と内容

8月18日(水)	9:30~10:00	開講あいさつ
	10:00~10:45	オリエンテーション
	11:00~11:30	美術館と学芸活動
	11:30~12:00	美術館における保存及び展示環境
	13:00~14:00	所蔵作品展
	14:00~15:00	館内見学
8月19日(木)	15:00~16:00	ミニ企画展実習(1 概論)
	8月19日(木)	9:30~12:00 作品取扱い実習・調書作成(平面)
8月20日(金)	13:00~16:00	作品取扱い実習・調書作成(立体)
	8月20日(金)	9:30~10:30 「広島から広島」展 見学
	10:30~12:00	展覧会を取材する(館内取材・短評作成)
8月21日(土)	13:00~14:00	ミニ企画展実習(2 企画一討議)
	8月21日(土)	9:30~12:00 館外施設見学(調整中)
	13:00~16:00	ミニ企画展実習(3 企画一立案)
8月23日(月)	8月23日(月)	9:30~12:00 ミニ企画展実習(4 企画一集約)
	12:00~16:00	ミニ企画展実習(5 企画一制作)
8月24日(火)	8月24日(火)	9:30~12:00 ミニ企画展実習(6 企画一制作発表準備)
	13:00~14:30	ミニ企画展実習(7 発表)
	15:00~16:00	受講生ディスカッションII

受入先

成安造形大学、比治山大学、広島市立大学、広島女学院大学、広島大学

ミニ企画展実習

メインカリキュラムの「ミニ企画展実習」では、所蔵作品によって特別展を企画する、という課題にとりくんだ。人文系、芸術系など異なった専攻の学生から出されたアイデアが融合されることによって、各班が個性的な企画を提案した。分野が偏ることなく、西洋美術、日本の洋画、日本画、工芸とすべての班が異なる分野を取り上げたことが印象的であった。提案された展覧会名、出品作品は次のとおり。

①	ヘンテコざらりー
	マックス・エルンスト《博物誌》
②	ギリシャ神話とユニークなキャラクター展 ～繋がる星座と物語～
	圓鏑勝三《星羅》、菅井汲《12星座》、マックス・エルンスト《オイディプスI》、《オイディプスII》
③	1が消えた ～美術の不思議を探れ！～
	山田光《消えた1》、フランシス・ピカビア《アンピトリテ》、サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》、寺田政明《生と死の凝視》、中央アジア《護符入れ(トゥマル)》
④	室内絶景 親子で楽しむ世界の景色
	《厳島鞍馬図》、《西湖図》、児玉希望《マルセイユ》、南薫造《インドの港》

(統括責任者：角田 新)

4 学校との連携事業

美術作品鑑賞教室

事業内容

所蔵作品や鑑賞補助教材を活用した鑑賞授業を実施することにより、美術館と学校及び地域との連携を図る方策を調査・研究及び提案することを目的とする。

平成22年度は、ネットワーク美術館展（p.40参照）との関連授業や、20～21年度に作成したアートカードの活用授業なども含め、小・中学校15校により実施。教師と学芸員等が協力して鑑賞授業や教材活用を行うことで作品の理解を深め、児童・生徒が豊かな感性を育む機会を提供した。（総括担当者：藤崎 綾）

実施形態

主に次の三形態により実施した。

- (1) 鑑賞授業A（所蔵作品を学校に搬入・展示して行う鑑賞授業）
- (2) 鑑賞授業B（アートカードの活用授業）
- (3) 鑑賞授業C（ネットワーク美術館展（p.40参照）の関連授業）

(1) 鑑賞授業A（所蔵作品を学校に搬入・展示して行う鑑賞授業）

①熊野町立熊野東中学校（3年生・154人）

実施日時／9月16日（木） 9：50～14：25（1学年ごとに各50分実施）

鑑賞作品／田中万吉《自画像》（油彩1点・素描3点）

授業目標／田中万吉の自画像作品のよさや表し方の工夫を味わおう。

授業内容／1. 油彩画作品を鑑賞し、第一印象をワークシートに書き込む。

2. グループで話し合う。色、筆遣い、作者の年齢、性格、いつ頃描かれたものか、などについて考える。

3. 作者について知る。

4. 素描作品を鑑賞し、作者が自画像で表現したかったことについて考え、ワークシートに書き込み、発表。

5. なぜ画家は自画像を描くのかについて考え、ワークシートに書き込む。



②東広島市立造賀小学校（3年生・12人）

実施日時／9月21日（火） 14：05～14：50

鑑賞作品／永田一脩《静物》・山路商《犬とかたつむり》・角浩《ジプシーとドンキホーテ》・丸木俊《にわとり》

授業目標／絵画の鑑賞を通して、作品のテーマやよさを理解し、いろいろな表現の仕方を知ることができる。

授業内容／1. 作品をよく見て、思ったことや気づいたことをワークシートに書き込む。

2. 1の内容を発表し、友だちや先生と意見を交流する。

3. 各作品の表現の違いや油絵の具の特徴などを知る。

4. 感想を発表し、交流する。



③大竹市立小方中学校（1年生58人・2年生69人）

実施日時／12月3日（金） 9：45～11：35（1学年ごとに別れ各50分実施）

鑑賞作品／檜山武夫《プラットホーム》・武永慎雄《鮭図》・山路商《犬とかたつむり》・岡部繁夫《卓上静物》

- 授業目標／
1. 広島出身の画家の作品を鑑賞し、地域の素晴らしさを認識することができる。
 2. 本物の作品を鑑賞し、作家の思いを感じることができる。
 3. 本物の作品を鑑賞し、作品の作り方や技法を知ることができる。
 4. 美術館職員（学芸員）という仕事について、理解することができる。



- 授業内容／
1. 全作品を鑑賞し、好きな作品を選び、その理由をワークシートに書き込む。
 2. グループに分かれて、意見を発表。友だちの感想を聞き、交流する。
 3. グループごとに意見を発表する。

④神石高原町立豊松小学校（全校生66人）

実施日時／平成23年1月21日（金） 11：30～12：15

鑑賞作品／芥川永《雲になった蛙》・林康夫《緑の滴》・宮永理吉《パイプ》・鈴木治《ロッキングバード》・熊倉順吉《笑いの稽古》

- 授業目標／
1. 作品のよさや楽しさを感じ取り、美術作品などを鑑賞する能力を高める。
 2. 自分が感じたことを話したり、友だちの感じ方を知ったりする活動を通して、作品の感じ方には人によって違いがあることを知り、作品に対する見方を広げる。



- 授業内容／
1. 低・中・高学年の3グループに分かれて、各自鑑賞する。
 2. 低学年：自分のお話の中に登場する作品を選び、自分が考えたお話の絵を描く。
自分が考えたお話や絵をワークシートに書き、発表・交流する。
中・高学年：作品から感じるイメージをワークシートに書き、イメージをもとに好きな作品の題名を考える。考えた題名とその理由を発表し、交流する。

(2) 鑑賞授業B（アートカードの活用授業 開催校の担当教諭による題材開発と実施）

※アートカード及び各授業内容等の詳細は、『広島県立美術館アートカード入門－鑑賞学習へのヒント－』（平成23年7月31日発行）及び、当館ホームページに掲載。

①尾道市立瀬戸田小学校（6年生・26人）

実施日／5月14日（金）

題材名／「アートカードから広がる世界」

授業目標／「喜び」をテーマとして、アートカードの作品及びアートカード3点をもとに製作された自分たちのオリジナル作品について、形や色、イメージなどを手がかりに、表現のよさや工夫に関心をもって話し合うことができる。

授業内容／1.（事前）各児童は、アートカードの中から、「喜び」が感じられる作品3点を選ん

で相互に鑑賞し合い、それらをもとに、「喜び」をテーマとするオリジナルの絵画を製作。

2. アートカード作品の「喜び」の表現から参考にした点や、自分なりに感じたテーマなどを発表。
3. 「喜び」を表現するアートカード及びアートカードをもとに製作した自分や友だちの作品の表現の工夫について交流する。

②広島大学附属三原小学校（４年生・37人）

実施日／7月7日(水)

題材名／「アートボックスかくれんぼ」

授業目標／1. アートゲームを通して、作品を身近なものに感じ、興味を持って作品を見ようとすることができる。

2. 五感で感じられることをもとに想像を広げ、形・色・イメージ等を手がかりに、自分なりの見方・感じ方で鑑賞することができる。

授業内容／1. (準備物) 教師が、視覚、聴覚、嗅覚、触覚など五感の特質を表す箱（重い箱、香りのする箱、形に特徴のある箱、和紙でできた箱、振ると音のする箱等）を作り、この箱をアートボックスとして使用する。

2. アートボックスをグループごとに配布し、ボックスの特徴に合うアートカード作品を見つけ、その理由を伝え合う「アートボックスかくれんぼ」のゲームを通して鑑賞を行う。

③三原市立樫梨小学校（５年生9人・６年生8人・計17人）

実施日／9月3日(金)

題材名／「マイ・コレクションをつくろう」

授業目標／お気に入りのアートカードを集めてマイ・コレクションを作り、友だちとコレクションを鑑賞し合う中で、いろいろな見方・感じ方に気づき、自分自身の見方・感じ方を広げ深めていく。

授業内容／1. マイ・コレクションを作る。

2. グループごとに友だちのコレクションを鑑賞する。テーマや理由について交流。
3. グループの中から1名を選び、クラス全体場で発表する。

④広島大学附属小学校（４年生・40人）

実施日／10月5日(火)・6日(水)

題材名／「五感でキャッチ！ーアートカードカルタ読み札づくりー」

授業目標／1. アートカードカルタ大会のための読み札作りを鑑賞の活動を通して行うことで、友だちの感じ方のよさに気づくとともに、自分なりの感じ方を広げたり深めたりすることができる。

2. 具象作品と抽象作品のそれぞれのよさを味わうことができる。

授業内容／1. アートカードを具象作品グループと抽象作品グループに分け、両グループの1作品ずつを、五感を働かせながら鑑賞する。

2. 上記の2作品を表す俳句を詠み、クラス全体で交流する。
3. 抽象・具象の各グループからアートカードを1枚ずつ選び、五感の活用を示した

ワークシートにイメージを言葉で表現し、言葉を手がかりに、俳句（カルタの読み札）を作る。

4.（事後）読み札を使い、アートカードカルタ大会を行う。

⑤東広島市立三永小学校（1年生・29人）

実施日／10月26日（火）

題材名／「せんとあそぼう」

授業目標／1. アートカードを使った活動に関心を持ち、楽しく見ようとする。

2. 線には、いろいろな表情があることに気づき、思ったことを話しながら、楽しく見ることができる。

授業内容／1. 教室の中にあるさまざまな線を見つける。

2. 線が特徴的な作品の拡大コピーを黒板に提示。電子黒板に作品の一部である線を映し出し、どの作品から抜け出したのかを見つけ、その理由を伝え合う。

3. ワークシートに好きな作品から見つけた線を描く。

⑥尾道市立土堂小学校（1年生・24人）

実施日／12月3日（金）

題材名／「こんなお話が聞こえてきたよ！」

授業目標／1. 作品とふれあい、作品の形や色、表し方の面白さなどに気づき、見ることを楽しむようとする。

2. 友だちと一緒に作品を見合い、感じたことや思ったことを話し合いながら、作品の面白さや楽しさを感じ取ることができる。

授業内容／1. 7点の作品から、気に入った作品を1点選び、選んだ作品から聞こえてくるお話をワークシートに書き込む。

2. ワークシートの言葉のみを発表し、どの作品から聞こえてくるお話なのかを話し合う。

⑦広島市立吉島東小学校（5年生・25人）

実施日／12月15日（水）

題材名／「場所に合った作品を選ぼう」

授業目標／1. 場所と作品の結びつきを考えながら、楽しく自分の感じたことを話したり、友だちの考えや思いを聞いたりする。

2. 場所と作品の結びつきを考えることにより、色や形などに着目しながら、自分なりの見方を広げ、深める。

授業内容／1.（準備物）教師が、図書室、音楽室、保健室、玄関、運動場、の場所を記したカード5枚を用意する。

2. 裏返した場所カードを1人1枚引き、その場所にあったアートカードを選ぶ。

3. アートカードと場所カードの組み合わせを、理由とともにワークシートに書き込む。

4. グループの中で発表し合う。

5. クラス全体で発表し、交流する。

(3) 鑑賞授業C（ネットワーク美術館展（p. 40参照）の活用授業）

団体学習鑑賞会（ネットワーク美術館展会場において実施。子どもガイドブックを活用しながら鑑賞）

10月4日（月） 竹原市立竹原小学校4年生 35人

10月14日（木） 竹原市立東野小学校5・6年生 計29人

10月29日（金） 竹原市立中通小学校6年生 29人

11月6日（土） 竹原市立大乘小学校3～6年生 計99人 （合計192人）

5 新規作成ワークシート・リスト

来館者の鑑賞を支援するため、おおむね小学校高学年以上を対象とした所蔵作品のワークシートを作成している。平成22年度は新たに15種類のワークシートを作成し、合わせて269種となった。

No.	所蔵品番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法
1	SG-21	圓鰐勝三	白い花	1982(昭和57)年	木・銅板・彩色
2	PG-17	マン・レイ	贈り物	1921年	写真
3	P-151	マックス・エルンスト	博物誌	1926年	紙・コロタイプ
4	O-154	中谷ミユキ	パパイヤ	1975(昭和50)年	油彩・キャンバス
5	O-221	山路 商	自画像	1944(昭和19)年	油彩・板
6	O-255	南 薫造	風景(新橋)	1930(昭和5)年	油彩・板
7	P-251	菅井 汲	自画像	1974(昭和49)年	インク・紙・シルクスクリーン
8	J-110	三上巴峽	城	1966(昭和41)年	紙・彩色・額装
9	J-169	和高節二	母子	1921(大正10)年	紙・彩色・額装
10	J-215	児玉希望	晩春	1925(大正14)年	絹・彩色・屏風
11	J-223	上村松園	観書		紙・彩色・軸装
12	HA-105	木村芳郎	碧釉躍篋文鉢	1989(平成元)年	やきもの
13	HA-205	金重陶陽	備前耳付水指		焼き締め陶器
14	HC-2	伊藤 颯	種子	1966(昭和41)年	銅
15	HC-124他		トルクメン人の首胸飾り(ブカウ)	19世紀中期	銀、金めっき、カーネリアン

ワークシート作例

J-223

観書
紙・彩色・軸装



上村松園 1875(明治8)年～1949(昭和24)年
京都生まれ。鈴木松年や竹内栖鳳といった日本画家に絵を学びます。女性の美しさや強さ、やさしさなどを、豊かな色と確かな線によって表現しました。

広島県立美術館

美しく着飾った女性が一人。
脇息というひじかけにもたれながら、本を読んでいます。
左側は着物のなかにかくれています。なんだかとてもリラックスした感じ。
静かに文字を目で追っている表情が印象的です。
どんな本を読んでいるのか、気になりますね。
背景に何も描かれていません。主役はこの女性。
内面の美しさも含めた女性の美が、松園さんの生涯のテーマでした。

JHC-124

トルクメン人の首胸飾り(ブカウ)
19世紀中期
銀、金めっき、カーネリアン 232グラム



カスピ海の東側から中国の西側まで広がる中央アジアに住むトルクメン人は、たくさんのジュエリーを身につけることで有名です。ブカウは首から胸にかけて着用するジュエリーです。羊の角やナイフ、魚など、文様を探してみてください。

広島県立美術館

ブカウにはさまざまなタイプがあります。
例えば、こんなふうに。



Q. トルクメン人がジュエリーをつける意味は次のうち、どれでしょう？
1 身を飾るため
2 自分が誰か、どんな人かを表現するため
3 財産をいつも隠さず持つため
4 豊かさを示すため
5 お守り

A. どれも正解！
特に大切なのは、お守りを身につけることだったかもしれません。
素材には清らかな金属である銀、怪我から守ってくれる不思議な力を持つ赤色の宝石カーネリアンが使われています。
雄羊の力強さを示す羊の角、危険から身を守るナイフ、胎児や子宝を願う下げ飾りの魚、春の草原を赤く染めるチューリップ…。
たくさんの願いや希望が込められているのです。

6 学校等による利用状況

No.	学校名	住所	利用年月日	鑑賞展示	生徒	引率	計
1	広島県立御調高等学校	尾道市御調町神204-2	4月20日	特別(オルセー美術館展)	42	7	49
2	防府市立小野小学校	山口県防府市大字奈美633番地の1	4月27日	所蔵	20	3	23
3	赤磐市立赤坂中学校	岡山県赤磐市町苅田425-1	4月29日	特別(オルセー美術館展)	7	1	8
4	広島市教育委員会学校教育部生徒指導課	広島市中区国泰寺町1丁目4-21	5月6日	所蔵	2	3	5
5	岡山市立建部中学校	岡山県岡山市北区建部町建部上734	5月11日	所蔵	6	0	6
6	鳥取市立福部中学校	鳥取県鳥取市福部町高江485-3	5月14日	所蔵	13	0	13
7	岡山市立山南中学校	岡山県岡山市東区北幸田509-1	5月15日	所蔵 ⁽¹⁸⁾ 特別 ⁽¹⁸⁾ (オルセー美術館展)	36	1	37
8	笠岡市立笠岡東中学校	岡山県笠岡市西大島新田15番地3	5月18日	所蔵	12	0	12
9	岩国市立麻里布中学校	山口県岩国市室の木町二丁目7-11	5月19日	所蔵	56	0	56
10	岩国市立岩国中学校	山口県岩国市錦見2丁目5-80	5月19日	所蔵	80	0	80
11	岩国市立灘中学校	山口県岩国市藤生町2丁目25-1	5月19日	所蔵	19	2	21
12	岩国市立岩国西中学校	山口県岩国市角77-1	5月20日	所蔵	15	0	15
13	倉敷市立西中学校	岡山県倉敷市日吉町205	5月21日	所蔵	82	2	84
14	井原市立芳井中学校	岡山県井原市芳井町吉井4052番地	5月21日	特別(オルセー美術館展)	11	1	12
15	岐阜県中津川市立阿木中学校	岐阜県中津川市阿木6006番地	6月3日	所蔵	5	1	6
16	三原市立大和中学校	三原市大和町大具2280	6月9日	特別(オルセー美術館展)	46	5	51
17	広島市立幟町小学校	広島市中区幟町3-10	6月9日	所蔵	9	1	10
18	兵庫県明石市立中崎小学校	兵庫県明石市中崎1丁目4番1号	6月17日	所蔵	24	1	25
19	佐伯区教頭会	広島市佐伯区八幡2丁目2番1号	7月2日	所蔵		8	8
20	広島県立広島井口高等学校	広島市西区井口明神2丁目11番1号	7月21日	所蔵	39	2	41
21	三次市立八次中学校	三次市島敷町1860番地	8月11日	特別(広島から広島展)	20	2	22
22	広島市立本川小学校	広島市中区本川町1丁目5-39	8月31日	特別(広島から広島展)	64	5	69
23	広島市立安北小学校	広島市安佐南区高取北2丁目30番1号	9月7日	所蔵・特別(広島から広島展)	99	4	103
24	広島市立川内小学校	広島市安佐南区川内5-40-1	9月14日	特別(広島から広島展)	144	7	151
25	広島市立川内小学校	広島市安佐南区川内5-40-1	9月14日	特別(広島から広島展)	48		48
26	呉市立阿賀中学校	呉市阿賀中央5丁目14番16号	9月17日	特別(広島から広島展)	27	1	28
27	呉市立阿賀中学校	呉市阿賀中央5丁目14番16号	9月17日	所蔵	32	1	33
28	島根県仁多郡奥出雲町立阿井小学校	島根県仁多郡奥出雲町上阿井110番地	9月17日	特別(広島から広島展)	2	1	3
29	広島県安芸高田市立刈田小学校	安芸高田市八千代町勝田1651番地	10月1日	所蔵	21	3	24
30	広島新庄中学校	山県郡北広島町新庄848	10月15日	所蔵・特別(ヴィクトリア展)	54	5	59
31	新潟県立新発田高等学校	新潟県新発田市豊町3-7-6	10月20日	所蔵	40	2	42
32	新潟県立新発田高等学校	新潟県新発田市豊町3-7-6	10月20日	所蔵	40	2	42
33	広島県立総合技術高等学校	三原市本郷南5丁目25番1号	11月12日	所蔵・特別(ヴィクトリア展)	223	12	235
34	守山市立吉身小学校	滋賀県守山市吉身3丁目2番26号	11月24日	所蔵	24	2	26
35	東広島市立高美が丘小学校	東広島市高屋高美が丘4-1-1	12月1日	所蔵	127	7	134
36	呉市立昭和中学校	呉市焼山中央6丁目9-1	12月15日	所蔵	22	1	23
37	安田女子高等学校	広島市中区白島北町1-41	12月16日	特別(ポーランド展)	20	2	22
38	安田女子高等学校	広島市中区白島北町1-41	12月18日	特別(ポーランド展)	18	1	19
39	安田女子高等学校	広島市中区白島北町1-41	12月20日	特別(ポーランド展)	25	2	27
40	広島市立白島小学校	広島市中区西白島町26-3	1月27日	特別(伝統工芸展)	53	3	56
41	東広島市立下黒瀬小学校	東広島市黒瀬町津江1225番地3	1月28日	所蔵	60	4	64
42	広島女学院中学校	広島市中区上幟町11-32	1月28日	所蔵	197	3	200
43	広島市立五日市観音西小学校	広島市佐伯区坪井3丁目877	2月2日	特別(日本伝統工芸展)	83	4	87
44	広島市立吉島小学校	広島市中区吉島西3丁目4-60	2月3日	特別(日本伝統工芸展)	47	3	50
45	周防大島町立大島中学校	山口県大島郡周防大島町西屋代2598	2月9日	所蔵	30	3	33
46	広島市立毘沙門台小学校	広島市安佐南区毘沙門台3丁目1-1	3月2日	所蔵・特別(日本画の前衛展)	65	3	68
計					2,109	121	2,230

7 事業実施状況

事業名	事業内容	実施期間
展覧会開催事業 入館者数 264,091名		
所蔵作品展 入館者数 79,953名	広島県ゆかりの美術作品、日本とアジアの工芸作品、1920～30年代の美術作品をテーマとする当館の所蔵作品を展示し、県民の鑑賞に供した。	常時
特別展 入館者数 184,138名	県民に多様な美術作品の鑑賞機会を提供し本県の芸術文化の向上に資するため、特別展を開催した。	
オルセー美術館展 バリのアール・ヌーヴォー 入館者数 30,942名	19世紀美術の殿堂オルセー美術館の誇るアール・ヌーヴォー・コレクションから代表的名品約150点を選びすぐって紹介した。広島展特別出展として、ウッドワンの美術館の所蔵作品も併せて公開した。	平成22年4月7日 ～6月13日
広島県主催事業 第62回広島県美術展 入館者数 7,140名	県民の創作活動の奨励と鑑賞の機会を提供するための公募展を開催した。 応募総数 1,301点 大賞 7点、優秀賞 12点、奨励賞 36点、入選数 501点	平成22年7月13日 ～7月25日
広島から広島 ドームが見つめ続けた街展 入館者数 12,315名	広島県産業奨励館（現在の原爆ドーム）は、広島の街のシンボルであったが、昭和20年の被爆後は平和のシンボルとなった。世界遺産にも登録されたこの名建築が辿ってきた95年の道のりを、広島文化と街の変遷とともに紹介した。	平成22年8月5日 ～9月20日
愛のヴィクトリアン・ジュエリー展 -華麗なる英国のライフスタイル- 入館者数 25,113名	今日の日本人があこがれ、共有する文化となった英国のライフスタイルの原点を探るとともに、19世紀に花ひらき芸術作品としての魅力を湛えたアンティーク・ジュエリーの世界を紹介した。	平成22年9月30日 ～11月28日
ポーランドの至宝 レンブラントと珠玉の王室コレクション 入館者数 93,462名	ワルシャワ王宮とヴァヴェル城に伝わる絵画や工芸の名品の中から、近代絵画やポーランド王家に伝わる宝飾品など、ポーランド王宮のコレクションを日本で初めて本格的に紹介した。	平成22年12月15日 ～平成23年1月12日
第57回日本伝統工芸展 入館者数 9,048名	わが国の優れた工芸技術を受け継いだ陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸作品を、人間国宝から新進気鋭の若手まで広島県内作家を含め日本を代表する作家の作品326点で紹介した。	平成23年1月19日 ～2月6日
「日本画」の前衛 1938～1949 入館者数 6,118名	1938年に組織された歷程美術協会やパンリアルなどに着目し、終戦をはさむ激動の時代の中で「日本画」がいかなる表現を追求してきたか、広島出身の船田玉樹・丸木位里といった作家の作品を含め紹介した。	平成23年2月22日 ～3月27日
学習支援事業	所蔵作品展、特別展等それぞれの事業に応じた学習の機会を提供することにより、県民の美術作品に対する関心を高め、理解を深めた。	
一般		
美術講演会		
955名		
100名	「女優サラ・ベルナール -アール・ヌーヴォーの詩神伝説-」 講師：白田由樹（大阪市立大学講師）	平成22年4月29日 （13：30～）
100名	「アール・ヌーヴォーのなかの＜日本＞」 講師：馬淵明子（日本女子大学教授）	平成22年5月9日 （13：30～）
110名	「広島県産業奨励館の建築」 講師：杉本俊多（広島大学大学院教授）	平成22年8月8日 （14：00～）
70名	「戦後広島の復興案」 講師：大井健次（広島市立大学芸術学部教授）	平成22年8月22日 （14：00～）
70名	「見られるロイヤル・ファミリー -ヴィクトリア女王と近代英国文化-」 講師：井野瀬久美恵（甲南大学文学部教授）	平成22年10月3日 （13：30～）
110名	「ジュエリーにこめられたメッセージ」 講師：穂葉昭江（穂葉アンティークジュウリー美術館長）	平成22年10月17日 （13：30～）
150名	「ワルシャワ王宮の至宝」 講師：カタジーナ・ポウヤン（ワルシャワ王宮学芸員）	平成22年12月15日 （14：00～）
90名	「作る側と見る側 -日本伝統工芸展の魅力-」 講師：竹内順一（永青文庫館長）	平成23年1月23日 （13：30～）

	170名	「父・船田玉樹」 講師：船田奇岑（絵師 [Artist]・船田玉樹ご子息）	平成23年 3 月 6 日 (13：30～)
シンポジウム	75名	「前衛『日本画』の軌跡」 パネリスト：山野英嗣（京都国立近代美術館学芸課長） 菊屋吉生（山口大学教授） 天野一夫（豊田市美術館チーフキュレーター）	平成23年 2 月27日 (13：30～)
ギャラリートーク	1,634名	特別展等について、展覧会場で作品に接しながら、分かりやすく作品解説をした。	(11：00～)
	364名 (30名) (21名) (20名) (30名) (25名) (27名) (35名) (4名) (50名) (20名) (32名) (35名) (35名)	オルセー美術館展 当館主任学芸員 宮本真希子	平成22年 4 月 9 日 4 月16日 4 月23日 4 月30日 5 月 7 日 5 月14日 5 月21日 5 月26日(18:30～) 5 月28日 6 月 2 日(18:30～) 6 月 4 日 6 月 9 日(18:30～) 6 月11日
	105名 (10名) (35名) (30名) (30名)	広島から広島 当館事務局次長兼学芸課長 松田 弘	平成22年 8 月 6 日 8 月20日 9 月 3 日 9 月17日
	327名 (22名) (25・30名) (30名) (35名) (25・20名) (25名) (30名) (30・30名) (25名)	愛のヴィクトリアン・ジュエリー展 当館主任学芸員 石橋健太郎	平成22年10月 1 日 10月 8 日 10月15日 10月22日 10月29日 11月 5 日 11月12日 11月19日 11月26日
	310名 (75名) (50・38名) (47名) (100名)	ポーランドの至宝 当館主任学芸員 角田 新	平成22年12月17日 12月24日 12月31日 平成23年 1 月 7 日
	453名 (68名) (43名) (42名) (110名) (70名) (120名)	日本伝統工芸展 七宝作家 菅坂安子 金工作家 佐故龍平 木工作家 松岡裕治 陶芸作家 木村芳郎 陶芸作家 小林良巳 漆芸作家 金城一國斎	平成23年 1 月21日 1 月22日 1 月28日 1 月29日 2 月 4 日 2 月 5 日
	75名 (15名) (30名) (30名)	「日本画」の前衛 当館主任学芸員 永井明生	平成23年 2 月25日 3 月11日 3 月25日
よくわかる解説付き 美術鑑賞会	478名	特別展等について、鑑賞前に作品の見どころ等をわかりやすく解説した。	
	47名	オルセー美術館展 当館主任学芸員 宮本真希子	平成22年 5 月23日

	45名 35名	広島から広島 当館事務局次長兼学芸課長 松田 弘	平成22年 8月14日 9月11日
	55名	愛のヴィクトリアン・ジュエリー展 当館主任学芸員 石橋健太郎	平成22年10月 2日
	105名 95名	ポーランドの至宝 当館主任学芸員 角田 新	平成22年12月18日 12月19日
	60名	日本伝統工芸展 当館主任学芸員 宮本真希子	平成23年 1月30日
	36名	「日本画」の前衛 当館主任学芸員 永井明生	平成23年 3月 5日
美術講座	25名	開催中の特別展に関連したテーマのもと、学芸員を講師として開催した。	
	25名	「歷程美術協会と広島」 講師：当館主任学芸員 永井明生	平成23年 3月12日
ワークショップ	407名	開催中の特別展に関連したワークショップを開催した。	
	70名 120名	「ぬりえ～ミュシャの版画に色鉛筆で自分だけの色をぬる」 講師：広島市立大学大学院生	平成22年 4月17日 4月18日
	28名 30名	「七宝でアクセサリーを作る～ヨーロッパ工芸の花・七宝を体験」 講師：菅坂安子（七宝作家） 栗根仁志（七宝作家）	平成22年 4月25日 5月16日
	70名	「ドームに宛てて平和のメッセージを描こう！」 講師：原仲裕三（三次高等学校美術教諭）	平成22年 8月 7日
	58名	「淡水パール＆シルバーアクセサリー作り」 講師：広島芸術専門学校	平成22年11月 7日
	31名	「コンテンポラリーアクセサリー～樹脂で作りアクセサリー体験」 講師：穴吹デザイン専門学校	平成22年11月14日
各種イベント	2,074名	開催中の特別展にちなんだイベントを開催した。	
	51名	「アール・ヌーヴォーと洋菓子」 講師：山本浩介（パチシェ・ヴォワザン）	平成22年 4月24日 5月15日
	216名 232名 210名	「食べて体験 戦前のドーム」	平成22年 8月15日 8月29日 9月12日
	100名 120名	「乗って体験 広島街」	平成22年 8月28日 8月29日
		「ヴィクトリア朝ファッション&ジュエリー学生制作作品展示」 出品：石田あさきトータルファッション専門学校 広島ファッション専門学校 穴吹デザイン専門学校 広島芸術専門学校	平成22年10月 1日 ～11月28日
	33名	「ヴィクトリアン・ディナー・パーティー」	平成22年10月 8日
		「ヴィクトリアン・ファッション・パレード」	平成22年10月10日 10月23日
	570名 400名	「ヴィクトリアン・ファッションショー」 出品：石田あさきトータルファッション専門学校 広島ファッション専門学校	平成22年10月11日 10月24日
	30名	「アフタヌーン・ティー・セミナー」 講師：石井智子（日本紅茶協会認定シニアティーインストラクター）	平成22年10月23日
	112名	「ヴィクトリア朝音楽会」 演奏：a piacere	平成22年10月31日

ロビーコンサート	1,710名	木管楽器や弦楽器などの演奏会を1階メインロビーで開催することにより、来館者に美術鑑賞と一体となった憩いのひとときを提供した。	(13:00～)
	180名	定期コンサート 第110回 テーマ:「やさしく響くライアーの調べ」 演奏者:松原里香	平成22年5月15日
	95名	第111回 テーマ:「アンサンブルの調べ」 演奏者:エリザベト音楽大学大学院生	平成22年7月17日
	90名	第112回 テーマ:「ウィーン様式と音楽」 演奏者:森脇千絵、梅田真由子、飯田真理子、青井理恵	平成22年9月18日
	100名	第113回 演奏者:西本由香里、日高 愛、青井理恵	平成22年11月20日
	85名	第114回 テーマ:「早春賦～春を待つ楽しみ～」 演奏者:森脇千絵、梅田真由子	平成23年1月22日
	90名	第115回 テーマ:「日本にまつわる音楽作品」 演奏者:石谷安望、田村美樹、出雲朝子	平成23年3月19日
	140名 170名 210名	新春ロビーコンサート 演奏者:中矢九喜子、味香友子 演奏者:野村涼子 演奏者:石谷安望、今井千晶、竹馬洋美、パメラ・アリエタ、野村涼子	平成23年1月1日 1月2日 1月3日
	270名 280名	ショパンにちなんだ演奏会 演奏者:西本裕矢、大下由紀江 演奏者:貞末さとみ、尼田成次、植田歩依	平成22年12月25日 12月26日
	ハイビジョンブース	当館制作のハイビジョン番組(22番組)の視聴	常時
デジタルミュージアム		当館の案内や所蔵作品の検索、世界の美術館の情報などを検索	常時
美術館ホームページ運用		当館のホームページで、当館の情報を自由に検索 http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/	常時
児童・生徒			
美術作品鑑賞学習キット 運用事業			
ネットワーク美術館展		県立美術館が所蔵する優れた芸術作品を地域の身近な美術館で鑑賞する機会を提供した。今年度は「広島県立美術館所蔵名品選－動物大集合」と題し、たけはら美術館で開催した。	平成22年10月1日 ～11月14日
団体学習鑑賞会		ネットワーク美術館展会場において、こどもガイドブックを活用しながら鑑賞会を開催した。	
	192名		
	35名	竹原市立竹原小学校 4年生	平成22年10月4日
	29名	竹原市立東野小学校 5・6年生	平成22年10月14日
	29名	竹原市立中通小学校 6年生	平成22年10月29日
	99名	竹原市立大乘小学校 3～6年生	平成22年11月6日
美術作品鑑賞教室A		当館の所蔵作品を学校へ持ち込み、学芸員が自ら解説を行うことにより、児童生徒が豊かな感性を育む機会を提供するとともに、学校連携を深めることに努めた。	
	359名		
	154名	熊野町立熊野東中学校 3年生	平成22年9月16日
	12名	東広島市立造賀小学校 3年生	平成22年9月21日
	127名	大竹市立小方中学校 1・2年生	平成22年12月3日
	66名	神石高原町立豊松小学校 全校生	平成23年1月21日
美術作品鑑賞教室B (所蔵作品を持ち込まない)		アートカードを活用した授業を行い、芸術表現の幅広さやおもしろさに興味を抱かせた。	
	198名		
	26名	尾道市立瀬戸田小学校 6年生	平成22年5月14日
	37名	広島大学付属三原小学校 4年生	平成22年7月7日
	17名	三原市立樫梨小学校 5・6年生	平成22年9月3日
	40名	広島大学付属小学校 4年生	平成22年10月5・6日
	29名	東広島市立三永小学校 1年生	平成22年10月26日

	24名	尾道市立土堂小学校 1年生	平成22年12月3日
	25名	広島市立吉島東小学校 1年生	平成22年12月15日
親子ギャラリートーク 42名（うち小中高生1名）		子どもたちが保護者とともに美術作品に親しめるよう、主に小学5、6年生（特別支援学校の相当学年を含む。）を対象として、学芸員又は友の会ギャラリーガイドが所蔵作品展示をわかりやすく解説した。	毎月第4土曜日 （11：00～）
ワークシートの作成		所蔵作品を鑑賞する児童・生徒に対し、学習補助教材として主要作品のワークシートを作成し、提供した。（現在269種）	
日本伝統工芸展出張授業 288名		希望校に日本工芸会正会員等が出向いて授業を行うことで、児童の制作の現場に接する機会を提供し、伝統工芸への理解を促進した。	
	46名	広島市立竹屋小学校 講師：丸本 圭（三次人形）	平成22年10月25日
	87名	坂町立横浜小学校 講師：小林良巳（陶芸）	平成22年11月2日
	17名	庄原市立川北小学校 講師：馬船宏明（漆芸）	平成22年11月10日
	16名	三原市立羽泉小学校 講師：栗根仁志（七宝）	平成22年11月18日
	59名	東広島市立川上小学校 講師：山根宏造（陶芸）	平成22年11月26日
	63名	廿日市市立地御前小学校 講師：小林利幸（木工）	平成23年1月14日
手で見る展覧会		縮景園の「梅実収穫行事」に併せ、特別支援学校（視覚障害）の児童・生徒が作品に直接触れて美術を鑑賞する機会を提供した。	平成22年5月27日
各種リーフレット作成		施設案内、年間スケジュール等の美術館の活動について、広く県民へ告知した。	
美術館ネットワーク事業		県内に所在する美術館等が相互に連携を深めることにより、各施設の運営の充実と美術館活動の活性化を図った。 主な活動として、加盟館共同のパンフレットの作成、職員研修等を行った。	
アート・トライアングル		広島市内にある当館、ひろしま美術館、広島市現代美術館の3館の合同活動。共同事業を実施することにより、広報・集客効果の相乗効果を期する。	
三館共同パンフレット		3館の展覧会スケジュールを併せて掲載・提供することにより、県民の利便性を図った。	
友の会ギャラリーガイド		県立美術館友の会のボランティアのギャラリーガイドにより所蔵作品展の解説をした。	
	312日 1,115名	12月25日～1月3日を除く開館日の14：00から実施（土・日・祝日は11：00から実施）	
展示施設等貸出		展示施設等（県民ギャラリー・講堂）を貸出することにより、生涯学習の発表の場及び機会を提供し、県民の創作活動を支援した。	
観覧者等 102,484名		県民ギャラリー 利用団体数 74団体、利用日数 延444日 講堂（県民ギャラリー全室利用に併せ、展示室として利用）	平成22年4月5日 ～平成23年4月4日
利用者 4,351名		講堂 利用団体数 27団体、利用日数 43日	平成22年4月4日 ～平成23年4月3日

8 県民ギャラリー利用状況

平成22年4月5日から平成23年4月4日まで

利 用 団 体 数	延べ開催日数	入 場 者 数
入場有料の場合	8団体	48日
入場無料の場合	66団体	396日
計	74団体	444日
		102,484人

平成22年度県民ギャラリー利用団体一覧表

番号	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	入 場 料 金	入場者数
1	第63回 日本アンデパンダン広島展	4 / 5 ~ 4 / 12	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、写真、 その他（インスタレーション）	208点 無料	1,335
2	武蔵野美術大学校友会広島支部 第39回 MUSABI展	4 / 12 ~ 4 / 19	1	絵画、彫塑、写真、 その他（オブジェ・版画）	22点 無料	685
3	第45回 広島形象派展	4 / 12 ~ 4 / 19	2	絵画	27点 無料	657
4	公募・第31回 関西綜美会展	4 / 12 ~ 4 / 19	3 4 5	絵画、彫塑、工芸、写真、 その他（陶芸）	112点 無料	1,254
5	第49回 大調和会広島巡回展	4 / 19 ~ 4 / 26	1 2 3	絵画	78点 無料	2,162
6	第7回 むいち会展	4 / 19 ~ 4 / 26	4	絵画	51点 無料	832
7	第60回 鳩紫会展	4 / 19 ~ 4 / 26	5	絵画	78点 無料	556
8	第73回 自由美術巡回展	4 / 26 ~ 5 / 3	1 2 3 4 5	絵画	134点 無料	472
9	『日本大判写真展』2010 広島展	5 / 3 ~ 5 / 10	1 2 3 4 5	写真	209点 無料	1,437
10	第52回 新協展	5 / 10 ~ 5 / 17	1 2 3 4 5	絵画、工芸	136点 一般 600円 高大生 500円 中学生以下無料	2,892
11	第11回 グループ「宙遊」展	5 / 17 ~ 5 / 24	1	絵画	38点 無料	791
12	第14回 広島水墨画会展	5 / 17 ~ 5 / 24	2 3	絵画	106点 無料	1,051
13	第50回記念 新制作広島グループ展	5 / 17 ~ 5 / 24	4 5	絵画、彫塑	55点 無料	1,209
14	Petals VII	5 / 24 ~ 5 / 31	1	絵画	25点 無料	370
15	第44回 みのん展	5 / 24 ~ 5 / 31	2	絵画	81点 無料	764
16	第56回 広島職場美術展	5 / 24 ~ 5 / 31	3 4	絵画、工芸、書、写真、その他	176点 無料	979
17	第55回 合同展	5 / 24 ~ 5 / 31	5	絵画	73点 無料	568
18	第58回 光陽展	5 / 31 ~ 6 / 7	1 2 3 4 5	絵画	130点 一般・大学生 500円 高校生以下無料	1,432
19	第15回 墨林会水墨画展	6 / 7 ~ 6 / 14	1	絵画	43点 無料	861
20	第13回 広島県伝統工芸能面展	6 / 7 ~ 6 / 14	2	工芸	91点 無料	964
21	第33回 グループ「集」展	6 / 7 ~ 6 / 14	3	絵画	28点 無料	1,369
22	第41回 広島県日本画展	6 / 7 ~ 6 / 14	4 5	絵画	76点 無料	1,501
23	第96回 光風会展	6 / 14 ~ 6 / 21	1 2 3 4 5	絵画、工芸	189点 一般 600円 高大生 500円 中学生以下無料	8,629
24	第53回 日本伝統工芸中国支部展	6 / 21 ~ 6 / 28	1 2 3	工芸	163点 無料	1,015
25	中国新聞文化センター 「糸と布の創作教室」	6 / 21 ~ 6 / 28	4	工芸	40点 無料	411

番号	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	入 場 料 金	入場者数
26	第60回 “社会を明るくする運動” ～犯罪や非行を防止し、 立ち直りを支える地域のチカラ～ 「ひろしま絵画展2010」	6 / 28～7 / 5	1 2 3 4	絵画、その他（短歌、俳句） 103点	無料	1,059
27	第29回 互の会日本画展	7 / 26～8 / 2	1 2	絵画 97点	無料	1,047
28	第50回 日本版画会展（広島会場）	7 / 26～8 / 2	3 4 5	絵画 151点	無料	1,623
29	第76回 東光展	8 / 2～8 / 9	1 2 3 4 5	絵画 209点	一 般 600円 高大生 500円 中学生以下無料	4,315
30	第53回 広島県児童画連盟展	8 / 9～8 / 16	1	絵画、その他（陶芸、工作） 375点	無料	788
31	第18回 R O S É野ばら会作品展	8 / 9～8 / 16	2 3	絵画 83点	無料	842
32	第39回 合同美術展	8 / 9～8 / 16	4 5	絵画、工芸、写真、 その他（水墨画、つまみ絵） 119点	無料	953
33	平成22年度 広島県特別支援学校美術・工芸展	8 / 16～8 / 23	1 2	絵画、彫塑、工芸、書 560点	無料	603
34	佐々木寅夫追悼展	8 / 16～8 / 23	3 4	絵画 54点	無料	1,220
35	黄人展	8 / 16～8 / 23	5	絵画 35点	無料	514
36	第62回 毎日書道展中国展	8 / 23～8 / 30	1 2 3 4 5	書 955点	一 般 800円 大学生 500円 高校生以下無料	4,243
37	第28回 A R G グループ絵画展	8 / 30～9 / 6	1	絵画 50点	無料	562
38	第35回 2010 J P S 展	8 / 30～9 / 6	2 3 4 5	写真 762点	一 般 700円 大学生 400円 65歳以上 400円 高校生以下無料	1,614
39	第79回 北翔展	9 / 6～9 / 13	1 2	絵画 52点	無料	878
40	第14回 グループ「Z」水彩展	9 / 6～9 / 13	3	絵画 26点	無料	675
41	第19回 ぐるーぶN A N 作品展	9 / 6～9 / 13	4	絵画 42点	無料	831
42	第4回 新展広島公募展	9 / 6～9 / 13	5	絵画、彫塑、工、写真、造形 43点	無料	754
43	秋田隆司親子写真展	9 / 13～9 / 20	1	写真 80点	無料	1,114
44	第22回 滴展	9 / 13～9 / 20	2	絵画 38点	無料	1,252
45	第13回 広島墨彩画展	9 / 13～9 / 20	3 4 5	絵画 157点	無料	1,134
46	第38回 広島彫刻会展	9 / 20～9 / 27	1	彫刻 22点	無料	387
47	第45回 グループいしがき展	9 / 20～9 / 27	2 3	絵画 90点	無料	962
48	第45回 広島県写真連盟展	9 / 20～9 / 27	4 5	写真 277点	無料	1,172
49	B L U E S C A P E 展	9 / 27～10 / 4	1	写真 36点	無料	498
50	第11回 森の会展 （安森絵画研究グループ）	9 / 27～10 / 4	2	絵画 42点	無料	651
51	第21回 風の会・写真展 四季讃歌	9 / 27～10 / 4	3	写真 60点	無料	1,083
52	第54回 三師会展	9 / 27～10 / 4	4	絵画 59点	無料	582
53	社団法人 新興美術院広島支部 第26回展	9 / 27～10 / 4	5	絵画 28点	無料	975
54	第29回 中国七宝協会展と公募展	10 / 4～10 / 11	1	工芸 43点	無料	367
55	第27回 産経国際書展瀬戸内展	10 / 4～10 / 11	2 3 4 5	書 327点	無料	1,760
56	第74回 新制作絵画展	10 / 11～10 / 18	1 2 3 4 5	絵画 103点	一 般 600円 大学生以下無料	4,593
57	平成22年度 広島県高等学校 総合文化祭 書道展	10 / 18～10 / 25	1 2 3 4	書 313点	無料	939

番号	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	入 場 料 金	入場者数
58	平成22年度 広島県高等学校 総合文化祭 写真展	10/18～10/25	5	写真 340点	無料	469
59	平成22年度 広島県高等学校 総合文化祭 美術・工芸展	10/25～11/1	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、その他 646点	無料	978
60	第41回 元陽展広島会場	1/31～2/7	1 2	絵画 110点	無料	2,955
61	比治山大学短期大学部美術科 第43回 卒業制作展・ 第8回 修了制作展	1/31～2/7	3 4 5	絵画、彫塑、工芸、 その他（グラフィック、メディア） 149点	無料	1,555
62	第19回 広島県シルバー作品展 第21回 自慢の孫写真展	2/7～2/14	1 2 3 4 5	絵画、彫塑、工芸、書、写真 449点	無料	1,898
63	第35回 広島県工芸美術作家協会展	2/14～2/21	1	工芸 30点	無料	576
64	京都造形芸術大学通信教育部 広島学習会第6回歩展	2/14～2/21	2	絵画、工芸、写真、 その他（模型、陶芸） 47点	無料	595
65	2011全日本写真連盟広島県本部展 第70回 国際写真サロン 第14回 朝日写真サロン中国 第11回 広島県本部展	2/14～2/21	3 4 5	写真 424点	無料	1,457
66	第49回 広島大学大学院教育学部研究科 造形芸術教育学専修教育学部 第四類造形芸術系コース修了・ 卒業制作展／論文発表会	2/21～2/28	1 2 3	絵画、彫塑、 その他（デザイン、パネル、論文） 53点	無料	607
67	広島芸術専門学校 第28回 卒業・修了制作展 第45回 アートスクール作品展	2/21～2/28	4 5	絵画、工芸、 その他（デザイン） 150点	無料	587
68	平成22年度 広島県立熊野高等学校 芸術類型美術コース・ 書道コース卒業制作展	2/28～3/7	1 2	絵画、彫塑、工芸、書 76点	無料	1,097
69	第45回 日本光画会写真展「光展」	2/28～3/7	3 4 5	写真 330点	無料	1,181
70	JPA展 第21回 日本写真作家協会展 第8回 日本写真作家協会公募展	3/7～3/14	1 2 3 4 5	写真 350点	無料	2,615
71	第45回 ひろしま美術研究所展	3/14～3/21	1	絵画、 その他（彫塑写真、立体写真） 162点	無料	247
72	第32回 二科会写真部広島支部 公募展	3/14～3/21	2 3 4 5	写真 483点	無料	2,092
73	第64回 二紀展 第40回 記念広島巡回展	3/21～3/28	1 2 3 4 5	絵画、彫塑 140点	一 般 600円 高大生 500円 中学生以下無料	5,675
74	第59回 書の友全国書道展覧会	3/28～4/4	1 2 3 4 5	書 3,769点	無料	3,714
				15,468点		102,484

9 友の会事業報告

「すぐれた美術作品に接し、それを鑑賞する楽しさを分かち合いながら自分自身を高めてゆく」ことを目的に昭和47年1月21日に発足した。平成3年から平成8年までの新館工事中は会自体が休止状態にあったが、リニューアルオープンを機に友の会もボランティアで運営する新しい組織となり、会員相互の親睦と、美術館の事業にも協力・支援することを目的として平成9年4月1日付で再出発した。

会員数948人（個人632人 家族295人 学生11人 賛助10人 特別賛助0人）

1. 会報の発行

発行回数 年4回 配布先 会員、美術館関係他

2. 美術情報の発行及び催し物の案内

美術情報 第85～87号

3. 広島県立美術館所蔵作品展のボランティアによるギャラリーガイド

- ・ 定時 火曜日～金曜日は毎日 14時から実施
土曜日、日曜日、祝日 11時及び14時から実施
但し、第4土曜日11時は親子ギャラリーガイド
- ・ 臨時 団体申し込み及び美術館の要請により随時実施

4. ボランティア・ギャラリーガイド研修会（美術館と共催）

◆所蔵作品展研修（展示替えの時期）

平成22年6月、9月、12月、平成23年3月

◆ギャラリーガイド研修

◇平成22年6月20日（日） 工芸（染織）

演題：「友禅の技法」とハンカチを染める体験講座

講師：永井與子（ながいともこ）（友禅作家）

◇平成22年7月19日（月・祝） 日本画

演題：「甲斐庄楠音の魅力—『横櫛』を中心にして」

講師：上蘭四郎（笠岡市立竹喬美術館 館長）ギャラリートーク有り

◇平成22年11月14日（日） 工芸（漆芸）

演題：「六角紫水について」

講師：宮本真希子（当館主任学芸員）



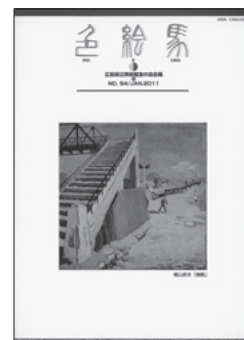
『色絵馬』No.51



『色絵馬』No.52



『色絵馬』No.53



『色絵馬』No.54

5. 日本伝統工芸出張授業及びその他の支援

出張授業 10月25日（月） 広島市立竹屋小学校、11月2日（火） 坂町立横浜小学校、
11月10日（水） 庄原市立川北小学校、11月26日（金） 東広島市立川上小学校、
平成23年1月14日（金） 廿日市市立地御前小学校

愛のヴィクトリアン・ジュエリー展 出口アンケート調査 11日間（日・水）

第57回日本伝統工芸展 小学校団体鑑賞時の監視 3回

6. 講演会（美術館と共催）

◆平成22年5月9日（日）「オルセー美術館展 パリのアール・ヌーヴォー

—19世紀末の華麗な技と工芸—」関連

演題：「アール・ヌーヴォーのなかの＜日本＞」

講師：馬淵明子（美術史家・日本女子大学教授）

◆平成22年 8 月 8 日（日）「広島から広島～ドームが見つめ続けた街～」

広島県産業奨励館と原爆ドームの95年」関連

演題：「広島県産業奨励館の建築」

講師：杉山俊多（広島大学大学院教授）

◆平成22年10月17日（日）「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」関連

演題：「ジュエリーにこめられたメッセージ」

講師：穂葉昭江（穂葉アンティークジュウリー美術館館長）

◆平成23年 2 月27日（日）「日本画」の前衛 1938-1949 関連シンポジウム

演題：「前衛『日本画』の軌跡」

パネリスト：山野英嗣（京都国立近代美術館学芸課長）

菊屋吉生（山口大学教授）

天野一夫（豊田市美術館チーフ・キュレーター）

7. 「もっと知ろうシリーズ」（美術館と共催）

◆平成22年 5 月21日（金）

演題：「オルセー美術館の魅力」

講師：古谷可由（ひろしま美術館学芸員）

◆平成23年 3 月 6 日（日）

演題：「父・船田玉樹」

講師：船田奇岑（絵師〔Artist〕Therminist）



平成23年 3 月 6 日

8. 友の会オリジナル版画の頒布（70部以上の申し込みで実施）

作家：石田眞澄 銅版画作品 2 点一組 申込数：70部

9. 美術鑑賞の旅

◆日帰り美術鑑賞旅行

◇尾道市立美術館「近代日本画の至宝展—ヤマタネコレクション特別公開」と
大原美術館・特別公開「有隣荘」

1 班 平成22年 5 月 7 日（金） 2 班 平成22年 5 月 8 日（土）

◇足立美術館～世界に誇れる名園と名画を楽しむ一日～

「N I H O N G A - 日本画 - B e s t アーティスト 4 ・大観、紫峰、関雪、龍子」

1 班 平成22年 8 月27日（金） 2 班 平成22年 8 月29日（日）

◇島根県立美術館「河井寛次郎展」と奥田元宋・小由女美術館「美人画の系譜」

平成22年10月 2 日（土）

◇九州国立博物館「没後120年 ゴッホ展」

1・2 班 平成23年 1 月14日（金） バス 2 台で実施

◇毛利博物館「お雛様」山口県立美術館「香月泰男 追憶のシベリア」

平成23年 3 月30日（水）

◆宿泊美術鑑賞旅行

◇「みちのくの美術館と絶景の紅葉をめぐる 2 泊 3 日の旅」

平成22年10月19日（火）～21日（木）



平成22年10月 2 日

Ⅳ 入館者数一覧

展 覧 会 名		所蔵作品展	特 別 展			
			オルセー美術館展 －パリのアール・ヌーヴォー－	第62回 広島県美術展	広島から広島 ドームが見つめ続けた街展	愛のヴィクトリアンジュエリー展 －華麗なる英国のライフスタイル－
開 催 期 日		H22. 4. 1 } H23. 3. 31	H22. 4. 6 } H22. 6. 13	H22. 7. 13 } H22. 7. 25	H22. 8. 5 } H22. 9. 20	H22. 9. 30 } H22. 11. 28
開 催 日 数		322 日	60 日	13 日	41 日	53 日
個 人	一 般	2,355	14,493	3,599	3,685	6,733
	高・大学生	288	661	81	313	379
	小・中学生	—	257	116	—	280
	小 計	2,643	15,411	3,796	3,998	7,392
団 体	一 般	2,849	9,557	1,093	2,615	12,439
	高・大学生	413	693	20	210	734
	小・中学生	—	195	9	—	315
	小 計	3,262	10,445	1,122	2,825	13,488
有 料 入 館 者 数		5,905	25,856	4,918	6,823	20,880
招 待 者 等		74,048	5,086	2,222	5,492	4,233
合 計 (観 覧 者 総 数)		79,953	30,942	7,140	12,315	25,113
一 日 あ た り 観 覧 者 数		248	516	549	300	474

(注) 1日あたり観覧者数は、小数点以下第1位を四捨五入。

所蔵作品展及び県単独主催特別展の団体人数には、所蔵作品展と縮景園・特別展と縮景園の共通入館者を含む。

所蔵作品展の「高・大学生」欄は、平成14年度の条例改正の無料化により、高校生を含まない。

所蔵作品展の招待者等には、減免及び無料入館者を含む。(平成14年度の条例改正により無料化した小・中・高校生で内数。)

「第62回広島県美術展」以外は実行委員会主催。

団体人数には、前売り及び割引入館者を含む。

「広島から広島展」は中学生以下を無料とした。

展 覧 会 名		特 別 展			合 計	総 計
		ポーランドの至宝 －レンブラントと珠玉の 王室コレクション－	第57回 日本伝統工芸展	「日本画」の前衛 1938－1949		
開 催 期 日		H22. 12. 15 } H23. 1. 12	H23. 1. 19 } H23. 2. 6	H23. 2. 22 } H23. 3. 27		
開 催 日 数		29 日	17 日	31 日	244 日	566 日
個 人	一 般	16,618	3,533	1,538	50,199	52,554
	高・大学生	946	120	230	2,730	3,018
	小・中学生	1,362	41	33	2,089	2,089
	小 計	18,926	3,694	1,801	55,018	57,661
団 体	一 般	59,606	3,303	2,141	90,754	93,603
	高・大学生	1,615	105	151	3,528	3,941
	小・中学生	2,950	201	98	3,768	3,768
	小 計	64,171	3,609	2,390	98,050	101,312
有 料 入 館 者 数		83,097	7,303	4,191	153,068	158,973
招 待 者 等		10,365	1,745	1,927	31,070	105,118
合 計 (観 覧 者 総 数)		93,462	9,048	6,118	184,138	264,091
一 日 あ た り 観 覧 者 数		3,223	532	197	755	467

V 美術品等収集状況

分野別収集美術品数一覧

(平成23年3月31日現在)

種 目		一般購入	基金購入 (H2年度以降)	購入総数	寄 附	所 管 換	合 計	受 託
絵 画	日 本 画	46	60	106	221	3	330	14 (0-5)
	油 彩 画	230	62	292	466	4	762	199
	水 彩 画	89	4	93	52	0	145	1
	素 描	44	20	64	285	0	349	20
	パステル画・アクリル画	1	0	1	6	0	7	0
	版 画	53	180	233	183	0	416	0
	拓 本	26	0	26	51	0	77	0
	平面造形ほか	3	56	59	1	0	60	0
彫 塑		8	23	31	62	0	93	2
工 芸		112	1,184	1,296	80 (1)	4	1,380 (1)	5
書		5	0	5	88	1	94	0
美 術 資 料		2	2	4	572	0	576	1
合 計		619	1,591	2,210	2,067 (1)	12	4,289 (1)	242 (0-5)

※ () 内は当該年度の収集点数。受託欄は、左側が受託数、右側が返還数、合計欄は差引数。

収集美術品

No.	分類	作 者	作品名	制作年	寸法 (cm)	数量	材質・形状	取得区分
1	工 芸	不 詳	近江八景蒔絵御手箱	不 詳	13.5×24×19.5	1 合	木・漆・金・銀	寄 附

※ 寸法は、高さ×幅×奥行

●新収蔵作品

「近江八景蒔絵御手箱」

昭和4（1929）年8月、昭和天皇の弟宮である秩父宮雍仁親王が、勢津子妃殿下と御一緒に広島市を訪問され、河原町にあった砂糖問屋鈴木家の別邸、万春園に御滞在になった。

この手箱はその際、秩父宮両殿下から、宿泊の御礼として鈴木家に下賜されたもので、万春園は原爆により消失したが、手箱は広島銀行の地下金庫に保管されていたため、戦火を免れた。

手箱の意匠は、琵琶湖南部の八つの景勝地を描いた近江八景によるもので、八景のうち、天板には三井寺（三井晩鐘）、側面には唐崎の一つ松（唐崎夜雨）、浮御堂（堅田落雁）、瀬田の唐橋（瀬田夕照）、石山寺（石山秋月）が、肉合研出蒔絵など高度な技術を駆使した豪華な金銀蒔絵で、格調高く描かれている。

当館は、主たる収集方針の一つを「日本とアジアの工芸作品」としており、漆芸品としては、近・現代を中心に61件を所蔵している。

明治期の宮内庁様式を呈するこの手箱については、作者名・制作年の記録がなく、なお調査を要するが、本作品を受け入れることにより、収蔵内容の更なる充実と、展示及び研究への有効活用が期待できる。また、戦前の広島を物語る資料としても貴重である。



《近江八景蒔絵御手箱》

Ⅵ 美術品等の貸出し

種別	作者名など	作 品 名	貸 出 先	目的（展覧会名）	会期・場所
日本画	小野 竹喬	松江の武家屋敷	大阪市美術館 笠岡市立竹喬美術館 東京国立近代美術館 毎日新聞社総合事業局	生誕120年 小野竹喬展	22.1.3～22.2.14(笠岡市立竹喬美術館) 22.3.2～22.4.11(東京国立近代美術館) ※2館のみの展示
日本画	奥田 元宋	柳鷺	奥田元宋・小由女美術館	開館5周年記念一人物画と風景画 の巨匠一高山辰雄と奥田元宋展	22.4.2～22.5.9(奥田元宋・小由女美術館)
〃	〃	待月	〃	〃	〃
〃	〃	筒石	〃	〃	〃
〃	〃	焔	〃	〃	〃
〃	〃	泉響	〃	〃	〃
〃	〃	秋巒真如	〃	〃	〃
日本画	平山 郁夫	広島生変図	奈良県立万葉文化館	シルクロードー奈良への道 平山郁夫展	22.4.17～22.5.30(奈良県立万葉文化館) 半期のみの展示
〃	〃	黄河(晨)	〃	〃	〃
油彩画	南 薫造	美校一隅	財団法人 蘭島文化振興財団	南薫造の世界ー瀬戸内を見つめてー展	22.4.22～22.6.30(蘭島閣美術館) 水彩画は約1ヶ月間の展示とする。
〃	〃	ノースモルトン風景	〃	〃	〃
〃	〃	ロンドン河畔	〃	〃	〃
〃	〃	パリ郊外	〃	〃	〃
〃	〃	坐せる女	〃	〃	〃
〃	〃	窓辺の女	〃	〃	〃
〃	〃	農夫	〃	〃	〃
〃	〃	黄色い花	〃	〃	〃
〃	〃	石割り	〃	〃	〃
水彩画	〃	雨の日	〃	〃	〃
〃	〃	パドーバ街景	〃	〃	〃
〃	〃	テーマズ夜景	〃	〃	〃
〃	〃	地中海を望む	〃	〃	〃
版 画	マックス・エルンスト	流行に栄あれ、芸術よ墜ちろ	青森県立美術館 静岡県立美術館 島根県立石見美術館	ロボットと美術展	22.7.10～22.8.29(青森県立美術館) 22.9.18～22.11.7(静岡県立美術館) 22.11.20～23.1.10(島根県立石見美術館) 各葉の展示期間を60日以内とする。
日本画	平山 郁夫	受胎霊夢	平山郁夫シルクロード美術館	シルクロードー奈良への道 平山郁夫展	22.7.18～22.8.22(平山郁夫シルクロード美術館)
版 画	朝井 清	浄瑠璃寺	日本版画会中国支部	第50回記念 日本版画会展(広島会場)	22.7.27～22.8.1(広島県立美術館 地下県民ギャラリー)
〃	〃	祇園祭	〃	〃	〃
〃	〃	文楽人形	〃	〃	〃
〃	〃	長崎御宮日祭	〃	〃	〃

種別	作者名など	作 品 名	貸 出 先	目的（展覧会名）	会期・場所
油彩画	佐々木寅夫	実験室	佐々木怜子	佐々木寅夫 追悼展	22.8.17～22.8.22(広島県立美術館 地下県民ギャラリー)
油彩画	巖 光	花園の虫	京都国立近代美術館 東京国立近代美術館	日本画の前衛 1938－1949	22.9.3～22.10.17(京都国立近代美術館) 23.1.8～23.2.13(東京国立近代美術館)
〃	〃	海	〃	〃	〃
平面造形	岩橋 英遠	孚	〃	〃	〃
日本画	丸木 位里	池	〃	〃	〃
〃	〃	ラクダ	〃	〃	〃
〃	〃	雨乞	〃	〃	〃
〃	〃	不動	〃	〃	〃
〃	〃	柳暗	〃	〃	〃
〃	〃	牛	〃	〃	〃
日本画	田中 頼璋	雪溪山水図	財団法人 頼山陽記念美術館	“幽雅味と写実性の融合”田中頼璋 ～自然の息吹と絵画を結んだ画家	22.9.9～22.10.17(頼山陽史跡資料館)
〃	〃	高士訪友図	〃	〃	〃
〃	〃	漁樵問答図	〃	〃	〃
〃	〃	唐美人図	〃	〃	〃
日本画	松本 楓湖	天照大神と須佐男命	島根県立石見美術館	神々のすがた 記紀神話と近代美術展	22.9.17～22.11.7(島根県立石見美術館)
油彩画	麻生 三郎	女	東京国立近代美術館 京都国立近代美術館 愛知県美術館	麻生三郎展	22.11.9～22.12.19(東京国立近代美術館) 23.1.5～23.2.20(京都国立近代美術館) 23.4.29～23.6.12(愛知県美術館)
日本画	奥田 元宋	室戸	奥田元宋・小由女美術館	奥田元宋 制作のひみつ	23.2.18～3.27(奥田元宋・小由女美術館)

Ⅶ 関係法規

広島県立美術館条例

(昭和43年 3月26日)
(広島県条例第20号)

全部改正 平成 8 年条例第16号

最終改正 平成22年 6月28日

(設 置)

第1条 美術に関する県民の知識及び教養の向上に資するため、博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、広島県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(位 置)

第2条 美術館の位置は、広島市中区上鞆町とする。

(業 務)

第3条 美術館は、次の業務を行う。

- (1) 美術品等を収集し、保管し、又は展示して、県民の利用に供すること。
- (2) 美術品等の展示施設（以下「展示施設」という。）その他の美術館の施設を美術品等の展示等のための利用に供すること。
- (3) 美術品等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (4) その他県民の美術に関する知識、教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うこと。

(職 員)

第4条 美術館に、館長その他必要な職員を置く。

2 館長は、前条第1号及び第3号に掲げる業務並びに同条第2号及び第4号に掲げる業務のうち次条第2項第1号に掲げる業務を除いたものを掌理し、所属職員を指揮監督する。

(指定管理者による管理)

第5条 美術館の管理は、広島県公の施設における指定管理者の指定手続等に関する条例（平成16年広島県条例第28号）の定めるところにより、教育委員会が指定した法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

2 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第三条第二号及び第四号に掲げる業務のうち教育委員会規則で定めるものを行うこと。
- (2) 美術館の展示施設及び講堂（以下「展示施設等」という。）並びに駐車場の利用の許可に関すること。
- (3) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備の維持及び修繕に関すること。
- (4) 展示施設等及び駐車場の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）の収受に関すること。
- (5) 美術館の入館料の徴収に関すること。
- (6) その他教育委員会が別に定める業務を行うこと。

(開館時間等)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は、午後7時まで開館時間を延長する。

2 講堂及び駐車場の利用時間は、次のとおりとする。

- (1) 講 堂 午前9時から午後9時まで
- (2) 駐車場 午前9時から午後9時15分まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、第1項の開館時間又は前項の利用時間を変更することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(休館日等)

第7条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号。以下「祝日法」という。）に規定する休日に当たる場合を除く。）
- (2) 12月25日から翌年の1月1日までの日

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会又は指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。この場合においては、指定管理者は、あらかじめ教育委員会の承認を得なければならない。

(利用の許可)

第8条 展示施設等及び駐車場を利用しようとする者は、教育委員会規則及び指定管理者の定めるところにより、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の許可（以下「利用許可」という。）をする場合においては、美術館の管理上必要な限度において条件を付することができる。

(利用許可の制限)

第9条 指定管理者は、展示施設等及び駐車場の利用の目的又は方法が、次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可をしてはならない。

- (1) 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認められるとき、その他住民の福祉を増進する目的に照らし適当でないと認められるとき。
- (2) 展示施設等及び駐車場並びに附属設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集团的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- (4) その他美術館の管理及び運営上支障があると認められるとき。

(展示施設等の利用期間)

第10条 展示施設等の利用期間は、引き続き7日を超えることはできない。ただし、指定管理者が必要と認めるときは、この限りでない。

(入館料の納付等)

第11条 美術館の展示する美術品等を観覧する者は、別表第1に定める入館料を納付しなければならない。

- 2 入館料は、知事が別に定める場合を除き、前納とする。
- 3 既納の入館料は、返還しない。

(利用料金の納付等)

第12条 展示施設等及び駐車場を利用する者は、指定管理者が別表第2及び別表第3に定める金額の範囲内で教育委員会の承認を受けて定める利用料金を納付しなければならない。

- 2 利用料金は、教育委員会が別に定める場合を除き、利用許可を受ける際に納付しなければならない。
- 3 既納の利用料金は、返還しない。ただし、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用できない場合その他教育委員会が別に定める場合には、指定管理者は、利用料金の全部又は一部を返還することができる。

(入館料の減免)

第13条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が美術館の展示する美術品等を観覧するときは、通常の展示に係る入館料を減免することができる。

- (1) 身体障害者手帳の交付を受けている者
 - (2) 戦傷病者手帳の交付を受けている者
 - (3) 療育手帳の交付を受けている者
 - (4) 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - (5) 65歳以上の者
 - (6) 県内の大学に在学する外国人留学生
 - (7) 小学校（特別支援学校の小学部を含む。以下同じ。）、中学校（特別支援学校の中学部を含む。以下同じ。）又は高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）の校長が学校教育活動であることを証明した場合の小学校の児童又は中学校若しくは高等学校の生徒の引率者
 - (8) 祝日法第2条に規定するみどりの日に入館する者
 - (9) 特別の展示と併せて通常の展示を観覧する者
 - (10) その他知事が別に定める者
- 2 知事は、次の各号のいずれかに該当する者が美術館の展示する美術品等を観覧するときは、特別の展示（教育委員会が行うものに限る。）に係る入館料を減免することができる。
- (1) 祝日法第二条に規定するこどもの日に入館する小学校の児童又は中学校の生徒
 - (2) 祝日法第二条に規定する文化の日に入館する者
 - (3) ひろしま教育の日を定める条例（平成13年広島県条例第40号）第3条に規定するひろしま教育ウィークに入館する小学校の児童又は中学校若しくは高等学校の生徒
 - (4) その他知事が別に定める者

(利用料金の減免)

第14条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、展示施設等の利用料金を減免することができる。

- (1) 教育委員会が、主催する事業のために展示施設等を利用するとき。
- (2) 前条第1項第1号から第4号までに掲げる者（以下「身体障害者等」という。）又は身体障害者等が主体となつて構成する団体が、美術活動として展示施設等を利用するとき。
- (3) 国又は地方公共団体が、身体障害者等の美術の振興を図る行事のために展示施設等を利用するとき。
- (4) 社会福祉事業を推進する団体が当該団体の設立の目的のために利用するとき。
- (5) 幼稚園（特別支援学校の幼稚部を含む。）の園長（特別支援学校の幼稚部にあつては、校長）又は小学校若しくは中学校の校長が学校教育活動であることを証明した場合において、当該幼稚園の幼児又は当該小学校の児童若しくは当該中学校の生

徒が利用するとき。

(6) その他教育委員会が別に定める場合

2 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、駐車場の利用料金を減免することができる。

(1) 教育委員会が、主催する事業のために駐車場を利用するとき。

(2) 身体障害者等が、自ら車両を運転し、又は介護者の運転する車両に同乗して駐車場を利用するとき。

(利用料金の収入)

第15条 第12条第1項の規定により展示施設等及び駐車場を利用する者が納付する利用料金は、指定管理者の収入とする。

(利用許可の取消し等)

第16条 指定管理者は、利用許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、利用許可の全部若しくは一部を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じることができる。

(1) 許可された利用目的以外に展示施設等を利用したとき。

(2) 第9条各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(3) 偽りその他不正な手段により利用許可を受けたとき。

(4) この条例若しくはこの条例に基づく教育委員会規則の規定又は第八条第二項の規定により付された条件に違反したとき。

(5) 利用許可に基づく権利を譲渡し、又は他人に利用させたとき。

2 前項の規定により利用許可を取り消し、利用の方法を制限し、又は利用の停止を命じたことによつて、利用許可を受けた者に損失が生じることがあつても、県又は指定管理者は、これに対して補償する義務を負わない。

(遵守事項)

第17条 美術館においては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設並びに附属設備をき損し、又は汚損しないこと。

(2) 展示資料、展示設備等に触れないこと。

(3) 許可を受けずに、展示資料の模写又は撮影をしないこと。

(4) 館内においては、静粛にし、他人に迷惑を掛ける行為又は他人に嫌悪の情を催させる行為をしないこと。

(5) 所定の場所以外の場所で喫煙し、又は飲食しないこと。

(6) 指定管理者の指示に従うこと。

(7) その他教育委員会が定める事項

(禁止行為)

第18条 美術館においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、教育委員会の許可を受けた場合は、この限りでない。

(1) 寄附の募集

(2) 爆発物その他危険物等の持込み

(3) 行商その他これに類する行為

(4) 宣伝その他これに類する行為

(5) 広告物等の掲示若しくは配布又は看板、立札類の設置

(入館の制限等)

第19条 教育委員会又は指定管理者は、前2条の規定に違反するおそれのある者又はこれらの規定に違反した者に対して、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退去を命じることができる。

(原状回復義務)

第20条 展示施設等の利用者は、その利用を終了したとき（利用許可を受けた者が第16条第1項の規定により利用許可を取り消されたときを含む。）は、直ちに利用場所を原状に復し、指定管理者の検査を受けなければならない。

(損害賠償義務)

第21条 展示施設等及び駐車場その他の美術館の施設、附属設備又は展示資料等をき損し、汚損し、又は滅失した者は、これによつて生じた損害を賠償しなければならない。

(委任規定)

第22条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、昭和43年4月1日から施行する。

2 第5条第1項の規定にかかわらず、別表の通常の展示の場合に係る入館料は、この条例の施行の日後において知事とその徴収を開始すべき日を定めて公示するまでの間は、これを徴収しないものとする。

附 則（平成19年3月15日条例第21号）抄

(施行期日)

1 この条例は、規則で定める日から施行する。

（平成20年1月規則第2号で、平成20年4月1日から施行）

(経過措置)

3 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）の規定によってした処分、手続その他の行為であって、この条例による改正後のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）中相当する規定があるものは、それぞれこれらの相当する規定によってした処分、手続その他の行為とみなす。

4 この条例の施行前にこの条例による改正前のそれぞれの条例（これに基づく規則その他の規程を含む。）の規定により利用の許可を受けている者に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則（平成19年12月25日条例第56号）

この条例は、学校教育法等の一部を改正する法律（平成19年法律第96号）附則第1条本文に規定する政令で定める日から施行する。（定める日＝平成19年12月26日）

別表第1（第11条関係）

1 通常の展示の場合

区 分	個 人	団体(20人以上の場合とする。)	広島県縮景園との 共通券による場合
大 学 生	1人1回 300円	1人1回 240円	1人1回 240円
その他満15歳以上の者 (中学校及び高等学校の生徒を除く。)	1人1回 500円	1人1回 400円	1人1回 400円

2 特別の展示の場合

1人1回 2,030円以内で知事が定める額

別表第2（第12条関係）

展示施設等の利用料金の範囲

施設区分		第1展示室	第2展示室	第3展示室	第4展示室	第5展示室	講 堂
入場料有料の場合	1時間につき	1,700円以内	2,900円以内	2,900円以内	2,900円以内	3,100円以内	4,700円以内
	1日につき	13,000円以内	23,200円以内	23,200円以内	23,200円以内	24,600円以内	
入場料無料の場合	1時間につき	900円以内	1,500円以内	1,500円以内	1,500円以内	1,600円以内	2,400円以内
	1日につき	6,500円以内	11,600円以内	11,600円以内	11,600円以内	12,300円以内	
電気設備を利用する場合		実費を基準として教育委員会が定める範囲とする。					

備考 1 この表において「1日」とは、美術館の開館時間とする。

2 日曜日、土曜日及び祝日法に規定する休日における入場料有料の場合の利用料金の額は、指定管理者が定める額の2割を加算する。

3 展示物の搬入及び撤去に係る利用料金の額は、指定管理者が定める額に2分の1を乗じて得た額とする。

4 利用料金の額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

別表第3（第12条関係）

駐車場の利用料金の範囲

駐車することができる自動車の範囲	単 位	利用料金の範囲
道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第3条に規定する自動車のうち、普通自動車並びに2輪自動車以外の小型自動車及び軽自動車	1台につき 1時間まで 1時間を超える時間 30分までごと	390円以内 200円以内

広島県博物館協議会条例

(平成13年 3月26日)
広島県条例第3号)

(設 置)

第1条 広島県教育委員会(以下「教育委員会」という。)に、広島県博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、広島県立美術館、広島県立歴史民俗資料館、広島県立歴史博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対して意見を述べる機関とする。

(組 織)

第2条 協議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、教育委員会が任命する。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が召集し、会長がその議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶 務)

第6条 協議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(雑 則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成13年4月1日から施行する。

(広島県立美術館協議会条例の廃止)

2 広島県立美術館協議会条例(昭和43年広島県条例第38号)は、廃止する。

広島県立美術館管理運営規則

(昭和43年 4月 1日)
教育委員会規則第1号)

最終改正 平成21年3月24日 教育委員会規則第3号

(趣 旨)

第1条 この教育委員会規則は、広島県立美術館(以下「美術館」という。)の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第2条 広島県立美術館条例(昭和43年広島県条例第20号。以下「条例」という。)第5条第2項第1号の教育委員会規則で定める業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 美術館の利用促進に関すること。
- (2) 美術館の利用案内に関すること。
- (3) 県民の美術に関する学習活動の支援に関すること。

(開館時間等の周知)

第3条 条例第6条第3項又は第7条第2項の規定により、美術館の開館時間若しくは講堂若しくは駐車場の利用時間を変更し、又は美術館の全部若しくは一部を臨時に休館し、若しくは休館日に開館する場合は、あらかじめ、その旨を美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(展示施設等の利用の申込み等)

第4条 美術館の展示施設及び講堂(以下「展示施設等」という。)を利用しようとする者は、展示施設等利用申込書を指定管理者に提出し、条例第8条第1項の許可(以下「利用許可」という。)を受けなければならない。

2 前項の規定による利用の申込みは、次に掲げる期間内にしなければならない。ただし、特別の事情があると指定管理者が認める場合は、この限りでない。

(1) 展示施設 利用開始日の1年前から1月前まで

(2) 講堂 利用開始日の2月前から7日前まで

(展示施設等利用許可書の交付)

第5条 指定管理者は、利用許可をしたときは、展示施設等利用許可書を申込者に交付するものとする。

2 展示施設等利用許可書は、展示施設等を利用する際必ず携帯し、係員の請求があるときは、これを提示しなければならない。

(駐車場の利用手続)

第6条 駐車場を利用しようとする者（以下「駐車場利用者」という。）は、自動車を入庫させる際、駐車券の発給を受けるものとする。この場合においては、当該発給を受けたときに利用許可を受けたものとみなす。

2 駐車場利用者が自動車を出庫させようとする際は、駐車時間に応じた利用料金を納付しなければならない。

(利用料金の周知)

第7条 指定管理者は、条例第12条第1項の規定により教育委員会の承認を受けて利用料金を定めたときは、美術館に掲示する等周知のために必要な措置を講じなければならない。

(利用料金の返還)

第8条 条例第12条第3項ただし書の規定により、指定管理者は、利用許可を受けた者がその責めに帰することができない理由により利用することができない場合は、当該利用料金の全額を返還する。

2 前項の規定により利用料金の返還を受けようとする者は、利用料金返還申請書に第5条第1項の展示施設等利用許可書を添えて、指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の減免)

第9条 条例第14条第1項第1号又は同条第2項第1号若しくは第2号に該当する場合は、利用料金（条例別表第2に規定する電気設備を利用する場合の利用料金を除く。以下本条において同じ。）を免除する。

2 条例第14条第1項第2号又は第3号に該当する場合は、利用料金の額の2分の1に相当する額を減額する。

3 条例第14条第1項第4号又は第5号に該当する場合は、利用料金の額の5分の1に相当する額を減額する。

4 前2項の規定により算定した減額後の利用料金の額に10円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てるものとする。

(利用料金の減免の申請)

第10条 前条第1項の規定により利用料金の免除を受けようとする者のうち条例第14条第2項第2号に該当するものは、該当することを証する書類を指定管理者に提示しなければならない。

2 前条第2項又は第3項の規定により利用料金の減額を受けようとする者は、第4条第1項の展示施設等利用申込書の提出時に併せて利用料金減額申請書を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

(補 則)

第11条 この教育委員会規則に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(施行期日)

1 この教育委員会規則は、広島県縮景園設置及び管理条例及び広島県立美術館条例の一部を改正する条例（平成19年広島県条例第21号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成20年4月1日）

附 則（平成21年3月24日教育委員会規則第3号）

この教育委員会規則は、平成21年4月1日から施行する。

広島県立美術館美術品等収集評価委員会設置要領

最終改正 平成12年2月1日

(設 置)

第1条 広島県立美術館（以下「美術館」という。）に広島県立美術館美術品等収集評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(意見の聴取)

第2条 美術館長は、美術品等を収集しようとするときは、当該美術品等の収集及び評価についてあらかじめ委員会の意見を徴するものとする。但し、「文化財保護法」第27条の規定により指定された国宝・重要文化財及び「美術品の美術館における公開の促進に関する法律」第3条の規定により登録された美術品並びに広島県文化財保護条例第3条の規定により指定された広島県重要文化財はこの限りでない。

(委員の構成等)

第3条 委員会は、委員8人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから美術館長が委嘱する。

- (1) 美術館、博物館、大学、研究所等の職員
 - (2) 美術評論家
 - (3) その他、館長が適当と認める者
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は再任することができる。

(臨時委員)

第4条 美術館長が審議のため必要と認めた場合は、専門的知識を持つ者を臨時委員に委嘱できる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会の会議を総理する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は（以下「会議」という。）は、必要に応じ美術館長が召集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開くことができない。

(守秘義務)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、美術館において行う。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要領は、平成元年7月11日から施行する。

広島県立美術館美術品等収集基本方針

(昭和63年12月9日)

広島県立美術館の美術品等収集に関する基本方針を次のとおり定める。

- 1 本県ゆかりの作家の美術品等については、次項に準拠しつつ、各作家ごとの体系的なコレクションの形成につとめる。
- 2 次に掲げる美術品等の収集に主眼を置き、日本美術の特質を味わうことのできる体系的なコレクションの形成につとめる。
 - (1) 近・現代作家の特色ある美術作品
近代から現代にいたる絵画等の平面・立体造形作品のうち、時代の特徴と制作意図の明確な作品。
 - (2) 近代の工芸作品
わが国工芸の特色を示す陶芸、染色、漆芸、金工等のうち、主として近代以降に制作された作品。
 - (3) 近代の彫塑作品
近代以降のわが国の彫塑界で特に重要と認められる作家の作品。
 - (4) その他の美術作品
上記(1)～(3)に掲げる美術作品のほか、美術館において収蔵するにふさわしいと認められる美術工芸作品。
 - (5) 美術資料
収蔵する美術品等に関する作家並びに美術作品を理解するうえで必要な日記、書簡、下絵等の美術資料等。
 - (6) 補助的関連資料
収集する美術品等に関する調査研究及び教育普及事業に必要な視聴覚教材、図書、複製品等の補助的関連資料
- 3 その他、美術館において所蔵するにふさわしい東洋・西洋の美術品等を収集する。

広島県立美術館展示施設等運営要領

(平成8年7月24日 館長決裁)

この要領は、広島県立美術館管理運営規則（昭和43年4月1日教育委員会規則第1号）に基づき美術館の展示施設及び講堂の適正かつ効果的な運営を図るため、利用の形態及び許可の基準その他の必要な事項を定めるものとする。

1 利用形態

① 常設展示室（2階）

第1から第4展示室及び彫刻展示スペースは、所蔵作品による常設展示を行う。

② 企画展示室（3階）

北、東、西及び展示前室は、美術館が企画・主催し又は共催する展覧会事業に使用する。ただし、美術館が共催する展覧会は、国若しくは地方公共団体（その機関を含む。）又は公共性の高い機関が企画・主催する事業で、美術館が共催するにふさわしい、開催意義の高い事業に限る。

なお、これらの展覧会を実施しても、なお、空室が生じる場合は、「広島県教育委員会の共催・後援・協賛に関する基準について（昭和54年3月29日）」に基づき共催・後援に該当する展覧会に限り使用することができる。

③ 県民ギャラリー（地階）

条例第1条により、団体又は個人が美術に関する事業を目的として利用する場合に、これを許可する。

④ 講堂兼ハイビジョンギャラリー（地階）

通常はハイビジョンギャラリーとして入館者が自由に鑑賞できるように毎日一定時間使用する。また、団体又は個人が芸術に関する県民の知識及び教養の向上に資する目的で講演会などの催しのために利用する場合には、美術館が企画・主催する事業に支障のない範囲内でこれを許可する。

⑤ 図書館（1階）

美術に関する図書及び参考図書を公開し、利用者に提供する。また、室内にハイビジョン・データ・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するデータベースを提供して利用者の学習の便を図る。

⑥ 情報ギャラリー（1階）

ポスター、パンフレットなど、さまざまな広報媒体を掲示して、利用者に情報を提供するとともに、時機に応じて比較的小規模の企画展示を行う。また、一部にハイビジョン・ブースを設置し、美術館の所蔵品に関するオリジナル番組を提供して、利用者の作品理解の一助とする。

2 利用の申込み

県民ギャラリーの利用の申込みは、原則として年度を前・後期に分け、前期については、前年度の9月1日から9月30日まで、後期については、前年度の3月1日から3月31日までの間に受け付けるものとする。

講堂の利用の申込みは、利用日の2ヶ月前から随時行うものとする。

3 利用の期間及び回数

県民ギャラリーの利用期間は原則2週間をこえないこととし、利用回数は同一の団体又は個人につき原則年1回とする。

VIII 名 簿

美術品等収集評価委員会

委員長	内 山 武 夫	前京都国立近代美術館館長
委員	山 梨 俊 夫	神奈川県立近代美術館館長
〃	金 田 晉	広島大学名誉教授
〃	白 石 和 己	山梨県立美術館館長
〃	杉 村 棟	国立民族学博物館名誉教授（～ H23. 1. 31）
〃	中 林 和 雄	東京国立近代美術館企画課長
〃	宮 島 久 雄	前国立国際美術館館長（～ H23. 1. 31）
〃	井 関 和 代	大阪芸術大学芸術学部教授（H23. 2. 1～）
〃	谷 新	宇都宮美術館長（H23. 2. 1～）

職 員

館 長	抹 香 尊 文
事務局 長	岡 田 圭 史
事務局次長兼学芸課長	松 田 弘
総務課 長	福 永 雅 之
専 門 員	中 野 守
主 事	藤 本 悠 乃
主任学芸員	宮 本 真希子
〃	角 田 新
〃	石 橋 健太郎
〃	福 田 浩 子
〃	石 川 哲 子
〃	永 井 明 生
〃	藤 崎 綾
〃	周々木 朝 香
学 芸 員	山 下 寿 水